

薬剤師のための

**アンチ・ドーピング
ガイドブック**

2017年版

日本薬剤師会

愛媛県薬剤師会

日本体育協会(スポーツ医・科学専門委員会 アンチ・ドーピング部会)

序

ドーピングは、公正さを基本とするスポーツ競技において重大なルール違反であるというだけでなく、選手の健康そのものにも影響を及ぼす可能性のある危険な行為であり、世界的にも注目を集めている問題です。また、医薬品の供給を担う薬剤師として、医薬品の適正使用という観点からもドーピングは看過できるものではなく、アンチ・ドーピング活動への貢献は薬剤師にとって非常に重要な役割であると考えております。

その一方で、薬物の力を借りて競技力を向上するという明確な目的をもって、不正に禁止物質を使用したわけではないものの、不注意から市販のかぜ薬などを服用した結果、ドーピング陽性と判定されることが危惧されます。例えば、興奮薬としてその使用が禁止されるメチルエフェドリンを含むかぜ薬が数多く市販されています。スポーツドクター等の支援が十分受けられない選手の中には、自分でこのような製品を購入し、使用してしまった事例も報告されています。このような「うっかりドーピング」を未然に防止するうえで、地域で医薬品の提供に関わっている薬剤師の活用は、極めて効果的な手段と言えるでしょう。2003年の静岡国体における静岡県薬剤師会の活動を受けて開始した、日本薬剤師会のアンチ・ドーピング活動も今年で14年目に入りました。この間に開催された国体においては、開催地の薬剤師会並びに薬剤師の皆様のご尽力により、関係団体からもその活動について高い評価を受けており、アンチ・ドーピング活動における薬剤師の存在感と期待感は、年を重ねるごとに確実に高まってきております。こうした地道で弛まぬ活動は、本年の国体開催県である愛媛県にも引き継がれ、薬剤師の新たな職能として更なる浸透が図られるものと期待しております。

一方、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が立ち上げ、本会も協力する「公認スポーツファーマシスト認定制度」もすでに9年目を迎えました。競技者等からのドーピングに関する相談に応じ、医薬品及びスポーツに関する知識に基づき適切なアドバイスを行うことで、競技者が安心して医薬品を購入、使用できる手助けを行うスポーツファーマシストには、各界から大きな期待が寄せられております。引き続き本制度がより効果的に運用されるよう、本会も協力していく所存です。

先般、2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて、ドーピング防止法案が超党派のスポーツ議員連盟の会合で了承され、今国会への法案提出を目指しているという報道がありました。同法案では、不正な目的で禁止物質を使用することや、それを手助けすることを違法とし、トップアスリートのみならず、国体などの全国大会に出場する選手や指導者らも対象とされているとのことです。このようにアンチ・ドーピングに向けた活動がますます推進される流れのなかで、医薬品の専門家である薬剤師に寄せられる期待やアンチ・ドーピング活動の分野における存在は、今後ますます必要不可欠なものになると考えられます。また、世界各国では青少年のドーピングが問題となっている中で、学校教育の現場で実施されている医薬品の適正使用の教育・啓発や薬物乱用防止活動など、薬剤師によるアンチ・ドーピング教育・啓発活動は非常に重要な任務と言えましょう。

本書は、アンチ・ドーピング活動の一貫として、日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会アンチ・ドーピング部会からご提供いただいた情報に基づいて、本会が2004年より作成しており、薬剤師のアンチ・ドーピング活動の参考書として多くの方から高い評価をいただいております。本書が、薬局をはじめとする幅広い場所で積極的に活用され、健全なスポーツ競技の実現を目指す多くの方々の医薬品適正使用に貢献することを願っております。

末筆ながら、本書の作成作業に格別のご協力を賜りました、日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会委員諸氏並びに情報の提供をご快諾下さった日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会アンチ・ドーピング部会の皆様、愛媛県薬剤師会、愛^ま顔^がつなぐえひめ国体・えひめ大会実行委員会、愛媛県体育協会、岩手県薬剤師会の皆様のご労苦に、心より厚く御礼を申し上げます。

2017年6月

公益社団法人日本薬剤師会

会長 山本 信夫

発刊によせて

世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の禁止物質リスト(禁止表)2017年改訂に伴い、このたび「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2017年版」が発刊されました。このガイドブックは、2003年国民体育大会にドーピング検査が導入されたことを機に、日本薬剤師会、国民体育大会開催都道府県の薬剤師会と日本体育協会アンチ・ドーピング部会が共同で2004年から毎年作成してきたもので、今回で14年目となります。関係者の方々のご努力に敬意を表したいと思います。

昨年のリオデジャネイロオリンピックにおいて日本代表選手団は史上最多、41個のメダルを獲得、大活躍しました。一方でオリンピック前にはロシアの組織的ドーピング隠ぺいが問題となり、ドーピングに揺れたオリンピックでした。国際陸上競技連盟はロシアの陸上競技選手を出場停止処分としましたが、国際オリンピック委員会はロシア選手全てを出場停止とはしませんでした。一方、国際パラリンピック委員会はロシア選手団の参加を拒否しました。

リオデジャネイロオリンピックに向けては、情報に基づきターゲットとした選手に対して大規模なドーピング検査が実施され、大会中も5,000件近い検査が行われました。その後、昨年12月にはWADAは2011～2015年にロシアで1,000件以上のドーピング違反行為があったことを報告しました。さらに過去のオリンピック大会の検体の再分析が行われ、北京、ロンドンの両オリンピックで多数の陽性例があったことが報告されました。これに伴い、過去に遡ってメダルがはく奪される例が続出しました。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてはドーピングに関する法律が検討されています。また、大会時のドーピング検査員の不足が懸念されています。大会時には5,000程度のドーピング検査が予定されますが、これは日本全体で実施されているドーピング検査1年分に相当します。(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)に登録されている検査員は約300名程度ですが、国際対応できる熟練した検査員は多くはありません。大会時には500名程度の検査員が必要と見込まれており、ドーピング検査員の養成が課題になっています。

このように、国際的にはドーピングが大きな問題になっており、アンチ・ドーピングの取組みも年々強化されてきています。国内では海外ほどドーピングは深刻ではありませんが、一部の非オリンピック競技では蛋白同化薬の陽性例が少なからずみられます。国内のドーピング検査陽性例では知識不足によるものが多く、一層の教育・啓発が必要です。昨年話題となったのは、禁止物質は含まれていないとしてチームが推奨するサプリメントを摂取していた選手がドーピング検査で陽性となった例です。これまで同じサプリメントを摂取していた選手で陽性になった例はなく、この選手が摂取したロットに製造過程で禁止物質が混入したと判断されました。選手はけん責処分のみと制裁が軽減されましたが、これを受けてJADAはサプリメント認証をさらに厳格とする方針を示しています。サプリメントについては今後も慎重に対応する必要があります。

今後とも、薬剤師会の方々のさらなるスポーツ界への貢献を期待します。

公益財団法人日本体育協会 アンチ・ドーピング部会
部会長 川原 貴

目次

1. 本書について	1
2. 2017年WADA禁止表掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例	4
3. 2017年WADA禁止表 主要な変更の要約と注釈	21
4. 特に気をつけたい一般用医薬品・要指導医薬品と健康食品・サプリメント	25
5. 使用可能薬リスト 2017年版/一般用医薬品・要指導医薬品:OTC DRUGS etc	
(1) 解熱鎮痛薬	28
(2) 解熱鎮痛薬【坐剤】	29
(3) 総合感冒薬	29
(4) 鎮咳・去痰薬	30
(5) 鎮咳・去痰薬【トローチ/ドロップ】	30
(6) 胃腸薬	31
(7) 消化薬	32
(8) 便秘治療薬	32
(9) 整腸薬・下痢止め	33
(10) アレルギー用薬(鼻炎内服薬を含む)	33
(11) 点鼻薬	34
(12) 吐き気・乗り物酔い予防薬	35
(13) 催眠・鎮静薬	35
(14) 鉄欠乏性貧血用薬	36
(15) 痔疾用薬	36
(16) 女性用薬(膣カンジダ関連薬)	36
(17) 目薬	37
(18) うがい薬・口腔内用薬	39
(19) 皮膚外用薬	39
6. 使用可能薬リスト 2017年版/医療用医薬品:ETHICAL DRUGS	
(1) 解熱・鎮痛・抗炎症薬	43
(2) 中枢性筋弛緩薬	45
(3) 鎮咳・去痰薬	45
(4) 気管支拡張・喘息・COPD治療薬	46
(5) アレルギー治療薬	47
(6) 抗めまい薬(乗り物酔い予防)	48
(7) 胃腸薬	48
(8) 総合消化酵素	49
(9) 便秘治療薬	50
(10) 止痢・整腸薬	50
(11) 頻尿・過活動膀胱治療薬	51

(12)前立腺肥大治療薬	51
(13)肝疾患治療薬	51
(14)高脂血症用薬	52
(15)血圧降下薬	52
(16)抗狭心薬	53
(17)催眠・鎮静・抗不安薬	54
(18)抗精神病薬(悪心・嘔吐)	55
(19)抗うつ薬	55
(20)抗てんかん薬	56
(21)自律神経系作用薬	56
(22)鉄欠乏性貧血薬	56
(23)痛風・高尿酸血症治療薬	57
(24)糖尿病用薬	57
(25)抗菌薬・抗生物質	58
(26)化学療法剤	59
(27)抗真菌薬	59
(28)抗ウイルス薬	60
(29)ワクチン(保険適用外)	60
(30)甲状腺疾患治療薬	61
(31)経口避妊薬(保険適用外)	61
(32)卵胞、黄体、混合ホルモン	61
(33)痔疾用薬	62
(34)耳鼻咽喉科用薬	62
(35)眼科用薬	63
(36)口腔用薬	64
(37)皮膚外用薬	65
(38)消毒薬	66
7. 歯科領域で汎用される医療用医薬品 2017 年版	67
8. 使用可能薬リスト 2017 年版 携帯用	73
9. よくある質問(日本アンチ・ドーピング機構作成)	76
10. 医薬品の使用可否検索の手順について	79
11. 薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン	81
ドーピング禁止薬に関する問合せ用紙(薬剤師会ホットライン用)	
12. 愛媛県薬剤師会 アンチ・ドーピングホットライン	83
13. 索引(使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50音順))	85

1. 本書について

1. 作成の経緯

2003 年静岡県で開催された「NEW!!わかふじ国体」から国体におけるドーピング検査が初めて行なわれました。ドーピングとは競技能力を高めるために薬物などを使用することで、健全なスポーツの発展を妨げる「ずるく」で「危険」な行為です。その一方で、故意に使用した訳ではなく、不注意のうっかりミスで検査にひっかかってしまう場合もあります。市販されている風邪薬や胃腸薬などには禁止物質を含むものが少なくなく、「風邪気味だから」、「胃が痛いから」などと安易に使用してドーピング違反と判断され、その結果、重い罰則が科せられてしまうことがあります。

このような『うっかりドーピング』を防ぐため、静岡県薬剤師会は、2003 年に『薬局におけるアンチ・ドーピングガイドブック』を作成し、アンチ・ドーピング活動を行ないました。翌年、日本薬剤師会は「アンチ・ドーピングに関する特別委員会」を設置し、2004 年「彩の国まごころ国体」、2005 年「晴れの国おかやま国体」、2006 年「のじぎく兵庫国体」、2007 年「秋田わか杉国体」、2008 年「チャレンジ！おおい国体」、2009 年「トキめき新潟国体」、2010 年「ゆめ半島千葉国体」、2011 年「おいでませ！山口国体」、2012 年「ぎふ清流国体」、2013 年「スポーツ祭東京 2013」、2014 年「長崎がんばらんば国体」、2015 年「2015 紀の国わかやま国体」、2016 年「希望郷いわて国体」に合わせて「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」を毎年作成し、そして、今年「愛顔つなぐえひめ国体」をモデル事業と位置付け、2017 年版「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」が出来上がりました。

2. 2017 年禁止表について

国際レベルのあらゆるスポーツにおけるドーピング行為は 1999 年に設立された世界アンチ・ドーピング機構(WADA)が監視しています。2004 年 1 月 1 日、これまでのオリンピックムーブメントドーピング防止規程(OMADC)に代わり、スポーツ界の統一規則として、WADA が世界アンチ・ドーピング規程(WADA code)を発効し、2009 年 1 月 1 日、2015 年 1 月 1 日に改訂し、禁止される薬物は、この国際基準の禁止表が利用されています。

禁止表は毎年改訂され、「愛顔つなぐえひめ国体」では、2017 年 1 月 1 日に発効した禁止表が適用されます。

新しい禁止表は、大きな変更はありませんが、主なポイントを下記に示します。なお、2016 年禁止表からの変更は JADA のウェブサイト(<http://www.playtruejapan.org/>)に掲載(本書 21 ページ)されています。

●2017 年禁止表改訂に伴う留意すべき主なポイント

1. 今回は大きな変更はなく、マイナーな改訂です。
2. 栄養補助食品中に検出される成分に注意が必要です。
例:「S1.蛋白同化薬」では、DHEA の代謝物、「S3.ベータ 2 作用薬」では、ヒゲナミン等
なお、フェネチルアミンは、通常の食品の消費量では、違反が疑われる分析報告となるには十分な量ではないことも示されています。

○治療使用特例(TUE)の提出について

禁止物質であっても治療目的であれば、所定の手続きによって使用が認められることがあります(「治療使用特例(TUE)」)。手続きの詳細は、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のウェブサイトをご参照ください。

<http://www.realchampion.jp/process/tue>

3. 本書の使い方

「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」には、「使用可能薬リスト(一般用医薬品 19 薬効群)」、「使用可能薬リスト(医療用医薬品 38 薬効群)」だけでなく、「2017 年 WADA 禁止表掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例」、「特に気をつけたい市販の一般用医薬品・要指導医薬品と健康食品・サプリメント」、「よくある質問」、「薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン」等を掲載し薬局店頭において常時使用できるようにしました。

医薬品が使用可能であるかを判断する場合には、まず、索引にて成分名や販売名を探します。

○索引の一覧表に掲載がある場合

まず、該当ページ的一般用医薬品、または医療用医薬品の「はじめに」を読みます。次に、薬効群別に掲載してある四角に囲まれた(注意)を読み、〈使用可能薬例〉の表の中から成分名や販売名を確認します。

○索引の一覧表に掲載がない場合

「索引に掲載されていないから使用可能薬ではない」という訳ではありません。すべての使用可能薬を掲載しているのではないので、まず、禁止物質に該当しないかを禁止表にて確認し、該当しない、もしくはわからない場合は、最寄りの薬剤師会ホットラインにご確認ください。使用可能の可否に迷ったり、不明な点がある場合も、決して、安易な判断はしないでください。

なお、本書 4 ページから 27 ページまで(黄色い紙のページ)は、2017 年 WADA 禁止表と禁止医薬品の例、特に気をつけたい一般用医薬品(禁止薬物を含む製品)などが掲載されております。この部分には禁止医薬品が多く掲載されておりますので、間違えないように特にご注意下さい！！

4. 最後に

ドーピングは医薬品集等に掲載されている薬効ではなく、いわゆる薬の裏の作用を期待し、また、毎年禁止表は発効されるため、とてもわかりにくくなっています。しかし、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」は「使用可能薬を探す」ことを目的に、販売名と薬効別の販売上の注意を記載しており、単に薬の使用可否だけでなく、なぜ使用禁止なのか薬理作用から考えることができ、薬剤師としての利用価値は高くなっています。薬局等における薬剤師の先生方は、日頃の業務の一環として『うっかりドーピング』の防止に取り組むことができます。

2009 年から公認スポーツファーマシスト制度が始まりました。その知識も学び、国体だけでなく、2020 年東京オリンピックに向け、これまでのような安全使用の確保とは視点を異にした活動を行い、また、運動生理に基づいた身体の仕組み、運動の効果及び運動指導方法を習得し、運動支援ができる薬剤師としてスポーツ界はもとより、一般社会に対しても薬剤師の新職能として貢献していただければと期待します。

日本薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会
「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」作成
ワーキンググループ委員 大石 順子

文献

- 1) The World Anti-Doping Agency : 2015 World Anti-Doping Code
- 2) The World Anti-Doping Agency : The 2017 Prohibited List
- 3) アンチ・ドーピング活動と薬剤師, 日本薬剤師会雑誌, 56, 959-961(2004)
- 4) スポーツファーマシスト <https://www.sp.playtruejapan.org/>

● **スポーツファーマシスト**

最新のアンチ・ドーピング規則に関する正確な情報・知識を持ち、競技者を含めたスポーツ愛好家などに対し、薬の正しい使い方の指導、薬に関する健康教育などの普及・啓発を行う JADA 公認の薬剤師。

スポーツファーマシスト検索

<http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php>


Sports Pharmacist スポーツファーマシスト
| [プライバシーポリシー](#) | [よくある質問](#) | [お問い合わせ](#) |

お薬に関するお問い合わせは
全国のスポーツファーマシストがお答えします。

■ マップから絞り込み



<p>■ 住所から絞り込み</p> <p>都道府県: 都道府県を選択 ▼ 郵便番号: <input style="width: 100px;" type="text"/></p> <p>住所入力: <input style="width: 100%;" type="text"/></p> <p style="font-size: x-small;">入力例: 渋谷区 等</p>	<p>■ 勤務先名で絞り込み</p> <p><input style="width: 100%;" type="text"/></p> <p style="font-size: x-small;">入力例: ○○薬局 等</p> <p>業種:</p> <p><input type="checkbox"/> 病院・診療所勤務 <input type="checkbox"/> 薬局勤務</p> <p><input type="checkbox"/> ドラッグストア勤務 <input type="checkbox"/> 製薬企業勤務</p> <p><input type="checkbox"/> 大学勤務 <input type="checkbox"/> その他</p>	<p>■ その他で絞り込み</p> <p><input type="checkbox"/> 土・日/祝日 対応可 <input type="checkbox"/> 夜間対応可(17時～)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校薬剤師 <input type="checkbox"/> 英語対応可</p> <p><input type="checkbox"/> 手話通訳可</p>
---	--	--

※認定スポーツファーマシストのうち、情報掲載にご賛同いただいた方のみ掲載しています。※本ページを営業や勧誘等の営利目的で利用することはご遠慮ください。※検索して得た情報の転用・転載を禁止します。※掲載内容に関する責任は掲載者にあり、いかなる場合もスポーツファーマシスト事務局では責任を負いかねますので、予めご了承ください。※本ページに関するお問い合わせは[こちら](#)から

検索

2. 2017年WADA禁止表掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例

WADA 禁止表では、大会中に実施する「競技会検査」および不定期に実施する「競技会外検査」の対象となる物質を2つに分類しており、「競技会検査」ではすべての禁止物質、禁止方法が対象となります(下表)。

さらに「禁止物質」、「禁止方法」、「特定競技において禁止される物質」について、具体的かつ詳細に規定しています。

また、すべての禁止物質は、蛋白同化薬、ホルモンの各分類、禁止表に明示された興奮薬、ホルモン調節薬及び代謝調節薬の一部を除き、「特定物質」とされます。「禁止方法」は「特定物質」とはされません。

特定物質は、競技者又はその他の人が、「重大な過誤又は過失がないこと」を立証できるときには、資格停止期間は、競技者又はその他の人の過誤の程度により、最短で資格停止期間を伴わない譴責とし、最長で2年間の資格停止期間となります。

WADA禁止表(2017年)

常に禁止される物質と方法 (競技会(時)および競技会外)	競技会(時)に禁止される 物質と方法
[禁止物質]	[禁止物質]
S0. 無承認物質	S6. 興奮薬 a. 特定物質でない興奮薬 b. 特定物質である興奮薬
S1. 蛋白同化薬	S7. 麻薬
S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質	S8. カンナビノイド
S3. ベータ2作用薬	S9. 糖質コルチコイド
S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬	
S5. 利尿薬および隠蔽薬	
[禁止方法]	特定競技において 禁止される物質
M1. 血液および血液成分の操作	P1. アルコール
M2. 化学的および物理的操作	P2. ベータ遮断薬
M3. 遺伝子ドーピング	
S1、S2、S4.4、S4.5、S6.a、M1、M2、M3以外は「特定物質」	

この他にも、WADA は、禁止物質ではありませんが、スポーツにおける濫用の動向を把握する目的で調査対象とする物質を「監視プログラム」として定めています。

I. 常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)

[禁止物質]

S0. 無承認物質

禁止表の以下のどのセクションにも対応せず、人体への治療目的使用が現在どの政府保健医療当局でも承認されていない薬物(例えば、前臨床段階、臨床開発中、あるいは臨床開発が中止になった薬物、デザイナードラッグ、動物への使用のみが承認されている物質)は常に(競技会(時)および競技会外)禁止される。

Q. 動物用薬でもその成分が人体への使用が認められている製剤の場合は「S0.無承認物質」には該当しませんが、その場合、人体への使用は可能ですか？(例：ヒト用軟膏と同じ成分が入っている馬用軟膏をヒトが使用)

A. 動物用薬は、ドーピングとは関係なく、人体への使用が禁止されています。

S1. 蛋白同化薬

蛋白同化薬は禁止される。

1. 蛋白同化男性化ステロイド薬(AAS)

a. 外因性* AAS: 例として以下の物質(下表①)がある。

および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの。

b. 外因的に投与した場合の内因性** AAS: (下表②)

および代謝物と異性体が含まれるが、これらに限定するものではない:

2. その他の蛋白同化薬

以下の物質(下表③)が禁止されるが、これらに限定されるものではない:

このセクションにおいて:

*「外因性(exogenous)」とは、通常、体内で自然につくられない物質に対して用いる。

**「内因性(endogenous)」とは、通常、体内で自然につくられる物質に対して用いる。

①外因性 AAS の禁止医薬品例

	成分名	販売名(メーカー)
1	1-アンドロステンジオール	—
	1-アンドロステンジオン	—
	1-テストステロン	—
4	4-ヒドロキシテストステロン	—
B	ボランジオール	—
	ボラステロン	—
C	カルステロン	—
	クロステポール	—
D	ダナゾール	ボンゾール(田辺三菱): 子宮内膜症・乳腺症治療薬
	デヒドロクロロメチルテストステロン	—
	デオキシメチルテストステロン	—
	ドロスタノロン	—
E	エチルエストレノール	—
F	フルオキシメステロン	—
	ホルメボロン	—
	フラザポール	—
G	GESTRINON	—
M	メスタノロン	—
	メステロロン	—
	メタンジエノン	—
	メテノロン	プリモボラン(バイエル)他: 蛋白同化ホルモン
	メタンドリオール	—
	メタステロン	—
	メチルジエノロン	—
	メチル-1-テストステロン	—
	メチルノルテストステロン	—
	メチルテストステロン	エナルモン錠(あすか-武田)、OTC: 男性ホルモン製剤
	メトリボロン(メチルトリエノロン)	—

	ミボレロン	—
N	ノルボレトン	—
	ノルクロステポール	—
	ノルエタンドロロン	—
O	オキサボロン	—
	オキサンドロロン	—
	オキシメステロン	—
	オキシメトロン	—
P	プロスタノゾール	—
Q	キンボロン	—
S	スタノゾロール	—
	ステンボロン	—
T	テトラヒドロゲストリノン	—
	トレンボロン	—

②外因的に投与した場合の内因性 AAS の禁止医薬品例

	成分名	販売名(メーカー)
19	19-ノルアンドロステンジオール	—
	19-ノルアンドロステンジオン	—
A	アンドロステンジオール	—
	アンドロステンジオン	—
B	ボルデノン	—
	ボルジオン	—
D	ジヒドロテストステロン	—
N	ナンドロロン	—
P	プラステロン(デヒドロエピアンドロステロン、DHEA)	レボスパ静注用(コーアイセイ-ポーラ):子宮頸管熟化薬
T	テストステロン	エナルモン注(あすか-武田)他、OTC:男性ホルモン製剤

③その他の蛋白同化薬の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー)
クレンプテロール	スピロペント(帝人)他:気管支拡張薬
選択的アンドロゲン受容体調節薬(SARMs[アンダリン、オスタリン等]);	—
チボロン	日本未発売:骨粗鬆症薬
ゼラノール	—
ジルパテロール	—

[禁止される理由]

- いわゆる筋肉増強剤として、筋力の強化と筋肉量の増加によって運動能力を向上させ、同時に闘争心を高める目的で使用され、様々な投与方式で大量に使用されるため禁止。
- 肝臓癌など致命的な有害作用が発生。脂質異常症、HDL コレステロールの低下、血圧上昇など心血管系障害の発症も示唆。
- 女性では多毛、嚙声などの男性化や痤瘡が発現。
- 男性では女性化乳房、無精子症、インポテンツが発現。
- クレンプテロールは、気管支拡張薬であるが、交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋組織量の増加を期待して使用されるため、常時使用禁止。

4.コルチコトロピン類 およびそれらの放出因子 コルチコレリン 等	コートロシン(第一三共)他 ヒト CRH 静注用(田辺三菱)
5.成長ホルモン(GH)およびその放出因子 成長ホルモン放出ホルモン(GHRH)およびその類 似物質 CJC-1295 セルモレリン テサモレリン 等 成長ホルモン分泌促進物質(GHS) グレリン グレリン模倣物質(アナモレリン、イパモレリン等) 等 成長ホルモン放出ペプチド(GHRPs) アレキサモレリン GHRP-6 ヘキサレリン プラルモレリン(GHRP-2) 等	ジェントロピン(ファイザー)他 — — — — — — — — — — — 注射用 GHRP(科研)
加えて以下の成長因子 F 線維芽細胞成長因子類(FGFs) H 肝細胞増殖因子(HGF) I インスリン様成長因子-1(IGF-1)および類似物質 M 機械的成長因子類(MGFs) P 血小板由来成長因子(PDGF) V 血管内皮増殖因子(VEGF) 筋、腱あるいは靭帯での蛋白合成/分解、血管 新生、エネルギー利用、再生能あるいは筋線維組 成の変換に影響を与えるその他の成長因子	フィブラストスプレー(科研) — ソマゾン(オーファンパシフィック)他 — — — —

[禁止される理由]

- ・ エリスロポエチン等は、赤血球生成促進因子であるため酸素運搬能が上昇し、持久力が必要な運動種目では運動能力の強化につながるため禁止。
- ・ 成長ホルモンは、脂肪組織におけるトリグリセリドの加水分解、肝臓でのグルコース排泄促進作用などを有するが、筋肉増強を期待する乱用はアレルギー症状や糖尿病を誘発し、大量投与で末端肥大症などの有害作用が発現するため禁止。
- ・ 絨毛性ゴナドトロピン(CG)及び黄体形成ホルモン(LH)は、男子不妊症や男性の下垂体性性腺機能不全の治療に投与され、男性ホルモンの産生量を増加させるため、男性においてのみ禁止。
- ・ コルチコトロピン類(ACTH)は副腎皮質を刺激し、血中の糖質コルチコイド、鉱質コルチコイドを上昇させ弱い男性ホルモンの分泌促進作用を有するため禁止。
- ・ 低酸素誘導因子(HIF)安定薬の FG-4592(ロキサデュスタット)は、腎性貧血治療薬として開発中。

Q. 低酸素誘導因子(HIF)安定薬としてコバルトが禁止物質になっていますが、コバルトを含むシアノコバラミン(ビタミンB12)も禁止されますか？

A. 禁止されません。

S3. ベータ2作用薬

すべての選択的および非選択的ベータ2作用薬は、すべての光学異性体を含めて禁止される。

以下の物質(下表)が禁止されるが、これらに限定するものではない:

但し以下のものは除く:

- 吸入サルブタモール(24時間で最大1600 μ g、12時間ごとに800 μ gを超えないこと);
- 吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量54 μ g);
- 吸入サルメテロール(24時間で最大200 μ g)

尿中のサルブタモールが1000ng/mL、あるいは尿中ホルモテロールが40ng/mLを超える場合は、治療を意図した使用とはみなされず、管理された薬物動態研究を通してその異常値が上記の最大治療量以下の吸入使用の結果であることを競技者が立証しないかぎり、違反が疑われる分析報告(AAF)として扱われることになる。

ベータ2作用薬の禁止医薬品例

	成分名	販売名(メーカー)
F	フェノテロール	ベロテック(日本ベーリンガー)他
	ホルモテロール	オーキシス(アストラゼネカ-Meiji Seika)他
H	ヒゲナミン	—
I	インダカテロール	オンブレス(ノバルティス)他
O	オロダテロール	スピオルト(日本ベーリンガー)
P	プロカテロール	メプチン(大塚)他
R	レプロテロール	—
S	サルブタモール	アイロミール(大日本住友)、サルタノール(GSK)、ベネトリン(GSK)他
	サルメテロール	セレベント(GSK)他
T	テルブタリン	ブリカニール(アストラゼネカ)他
V	ピランテロール	アノーロ(GSK)他

[禁止される理由]

- ・ 気管支拡張薬であるが、交感神経興奮作用、蛋白同化作用による筋組織量の増加を期待して使用されるため、常時使用禁止。

Q. サルブタモール、ホルモテロールを、利尿薬もしくは隠蔽薬と併用する場合の注意は?

A. 治療使用特例(TUE)が、利尿薬もしくは隠蔽薬に加え、競技会(時)および競技会外の状況に応じて必要となります。(参照:S5.利尿薬および隠蔽薬)

Q. イソクスプリン(脳・末梢血行動態改善剤、子宮鎮痛剤)は使用可能ですか?

A. 明記されていませんが、ベータ2作用薬として使用禁止です。

S4. ホルモン調節薬および代謝調節薬

以下のホルモン調節薬および代謝調節薬は禁止される:

1. アロマターゼ阻害薬としては、以下の物質(下表①)があるが、これらに限定するものではない:
2. 選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)としては、以下の物質(下表②)があるが、これらに限定するものではない:
3. その他の抗エストロゲン作用を有する薬物としては、以下の物質(下表③)があるが、これらに限定するものではない:
4. ミオスタチン機能を修飾する薬物としては、以下の物質(下表④)があるが、これらに限定するものではない
5. 代謝調節薬:(下表⑤)

○ホルモン調節薬および代謝調節薬の禁止医薬品例

	成分名	販売名(メーカー)
①	1.アロマターゼ阻害薬	
4	4-アンドロステン-3,6,17-トリオン(6-オキソ)	—
A	アミノグルテチミド	—
	アナストロゾール	アリミデックス(アストラゼネカ)他:乳癌治療薬
	アンドロスタ-1,4,6-トリエン-3,17-ジオン(アンドロスタトリエンジオン)	—
	アンドロスタ-3,5-ジエン-7,17-ジオン(アリミスタン)	—
E	エキセメスタン	アロマシン(ファイザー)他:乳癌治療薬
F	ホルメスタン	—
L	レトロゾール	フェマーラ(ノバルティス-中外)他:乳癌治療薬
T	テストラクトン	—
②	2.選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)	
R	ラロキシフェン	エビスタ(イーライリリー)他:骨粗鬆症治療薬
T	タモキシフェン	ノルバデックス(アストラゼネカ)他:乳癌治療薬
	トレミフェン	フェアストン(日本化薬)他:乳癌治療薬
③	3.その他の抗エストロゲン作用を有する薬物	
C	クロミフェン	クロミッド(富士)他:排卵誘発剤
	シクロフェニル	セキソビット(あすか-武田):排卵誘発剤
F	フルベストラント	フェソロデックス(アストラゼネカ):乳癌治療薬
④	4.ミオスタチン機能を修飾する薬物 ミオスタチン阻害薬	—
⑤	5.代謝調節薬:	
	5.1 AMP 活性化プロテインキナーゼ(AMPK)の活性化薬	AICAR 等
	ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 δ (PPAR δ)作動薬	GW1516 等(* 治験薬)
	5.2 インスリン類およびインスリン模倣物質	インスリン(各社)
	5.3 メルドニウム	—
	5.4 トリメタジジン	バスタレルF(京都-日本セルヴィエ、大日本住友)

[禁止される理由]

- ・ アロマターゼ阻害薬、選択的エストロゲン受容体調節薬(SERMs)等は、乳癌治療薬、骨粗鬆症治療薬、排卵誘発剤として使われるが、抗エストロゲン作用を有するため禁止。
- ・ ミオスタチン阻害薬は、筋肉の増強を抑制するミオスタチンを阻害することにより、筋力向上等が期待できるため禁止。

- ・ インスリンは筋肉におけるグルコースの利用とアミノ酸の貯蔵を促進し、蛋白の合成を刺激し分解を抑制するため禁止。その他の糖尿病用薬である SU 系、ビグアナイド系、インスリン抵抗性改善薬、食後血糖改善薬、DPP-4 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬は禁止されない。
- ・ トリメタジジンは、心臓代謝の調節薬として禁止される。

Q. 骨粗鬆症治療薬のバゼドキシフェン（ビピアント錠）は使用可能ですか？

A. 明記されていませんが、SERMs として禁止されます。

S5. 利尿薬および隠蔽薬

以下の利尿薬と隠蔽薬、および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するものは禁止される。

以下の物質(下表)が禁止されるが、これらに限定するものではない:

但し以下のものは除く:

- ドロスプレノン; パマブロム; および眼科用に使用される炭酸脱水酵素阻害薬[ドルゾラミド、布林ゾラミド等];
- 歯科麻酔におけるフェリプレシンの局所投与

常に(競技会(時)および競技会外)、あるいは**競技会(時)**それぞれの場合に応じて、利尿薬もしくは隠蔽薬とともに、閾値水準が設定されている物質(ホルモテロール、サルブタモール、カチン、エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン)がいかなる用量でも**競技者**の検体から検出される場合は、**競技者**に対して、利尿薬もしくは隠蔽薬に加え、閾値水準が設定されている物質についても**治療使用特例(TUE)**が承認されていない限り、**違反が疑われる分析報告(AAF)**として扱われることになる。

利尿薬・隠蔽薬の禁止医薬品例

成分名	販売名(メーカー): 例示
デスモプレシン	デスモプレシン(協和発酵キリン)、ミニリンメルト(フェリング-協和発酵キリン)他
プロベネシド	ベネシッド(科研): 尿酸排泄促進薬
血漿増量物質	
グリセロール	グリセオール注(中外)他
アルブミン(静脈内投与)	赤十字アルブミン(日本血液製剤機構)他
デキストラン(静脈内投与)	低分子デキストランL注(大塚製薬工場-大塚)他
ヒドロキシエチルデンプン(静脈内投与)	サリンヘス輸液(フレゼニウスカービジャパン)他
マンニトール(静脈内投与)	マンニットT注(テルモ)他
成分名	販売名(メーカー): 例示
アセタゾラミド	ダイアモックス(三和化学)
アミロリド	—
ブメタニド	ルネトロン(第一三共)
カンレノン	—
クロルタリドン	—
エタクリン酸	—
フロセミド	ラシックス(サノフィ-日医工)他
インダパミド	ナトリックス(京都-日本セルヴィエ、大日本住友)他
メラゾン	—

スピロラクトン	アルダクトン A(ファイザー)他
チアジド類	フルイトラン(塩野義)他
トリアムテレン	トリテレン(京都-大日本住友)
パプタン類	サムスカ(大塚)、フィズリン(大塚)

[禁止される理由]

- 利尿薬が血圧降下薬や浮腫治療薬以外に乱用されるため禁止される理由に下記が考えられる。
 - ①排出する尿量を増加させ尿中に排泄する禁止薬物や代謝物の尿中濃度を下げて禁止物質の検出を逃れること。
 - ②柔道、ボクシング、重量挙げなどの体重別種目で競技成績を有利に導くため、体水分の排泄を促して体重を急速に減量すること。

Q. 高血圧治療配合剤は禁止されますか？
 A. 利尿薬が含有されているものも多く発売されているため、注意が必要です。
 Q. メニエール病の改善等に使用される「イソソルビド」は禁止されますか？
 A. 明記されていませんが、「S5.利尿薬および隠蔽薬」に該当する禁止物質です。

[禁止方法]

M1. 血液および血液成分の操作

以下の事項が禁止される：

1. 自己血、他者血（同種血）、異種血又はすべての赤血球製剤をいかなる量でも循環系へ投与するあるいは再び戻すこと。
2. 酸素摂取や酸素運搬、酸素供給を人為的に促進すること[過フルオロ化合物；、エファプロキシラール（RSR13）、修飾ヘモグロビン製剤（ヘモグロビンを基にした血液代替物質、ヘモグロビンのマイクロカプセル製剤等）が含まれるが、これらに限定するものではない]。但し、吸入による酸素自体の補給は除く。
3. 血液あるいは血液成分を物理的あるいは化学的手段を用いて血管内操作すること。

Q. 血管内操作とは、具体的にはどのようなことですか？
 A. 例えば、人体から採取した血液にオゾンを溶解させ、その血液を再び戻す「オゾン療法（血液クレンジング）」は禁止されます。

M2. 化学的および物理的操作

以下の事項が禁止される：

1. ドーピング・コントロールで採取された検体の完全性及び有効性を変化させるために改ざん又は改ざんしようとすることは禁止される。これらには尿のすり替え、尿の改質（蛋白分解酵素等）などが含まれるが、これらに限定するものではない。
2. 静脈内注入および／または静脈注射で、6時間あたり 50mL を超える場合は禁止される。但し、医療機関の受診過程※、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける場合は除く。
 ※JADA 訳注：救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む。

Q. 静脈内注入および／または静脈注射についてどのように考えればいいですか？

A. 下記参照

○ 静脈内注入および／または静脈注射の考え方

1. 禁止物質を含む点滴が治療のために必要な場合は、TUE が必要。
2. 禁止物質を含まず、6 時間あたり 50mL 以内の静脈注射は禁止ではなく、TUE 不要。
3. 禁止物質を含まなくても、静脈内注入および／または 6 時間あたり 50mL を超える量の静脈注射は禁止。しかし、医療機関の受診過程（救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む）、外科手術、または臨床的検査において正当に行われるものは禁止ではない。

したがって、3.の場合において TUE は、

- ① 医療機関の受診過程（救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む）、外科手術、または臨床的検査において正当に行われるものは禁止ではなく、TUE 不要。
- ② 医療機関を受診せずに点滴する場合は、TUE が必要。
- ③ 点滴の場所が医療機関であっても、第三者からみて正当性に疑問が生じる場合は、TUE が必要。

M3. 遺伝子ドーピング

以下の競技能力を高める可能性のある事項は禁止される：

1. 核酸のポリマーまたは核酸類似物質の移入。
2. 正常なあるいは遺伝子を修飾した細胞の使用。

II. 競技会(時)に禁止される物質と方法

S6. 興奮薬

すべての興奮薬(関連するすべての光学異性体[*d*体および/*l*体等]を含む)は禁止される。

興奮薬には以下の物質(下表①、②)が含まれる:

a: 特定物質でない興奮薬:(下表①)

このセクションに掲載されていない興奮薬は特定物質である。

b: 特定物質である興奮薬

以下の物質(下表②)が禁止されるが、これらに限定するものではない:

および類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの。

但し以下のものは除く:

- クロニジン
- 局所/眼科用に使用されるイミダゾール誘導体および 2017 年監視プログラム*に含まれる興奮薬

* ブプロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン:これらの物質は 2017 年監視プログラムに含まれ、禁止物質とみなさない。

** カチン:尿中濃度 5 $\mu\text{g}/\text{mL}$ を超える場合は禁止される。

*** エフェドリンとメチルエフェドリン:尿中濃度 10 $\mu\text{g}/\text{mL}$ を超える場合は禁止される。

**** エピネフリン(アドレナリン):局所使用[鼻、眼等]あるいは局所麻酔薬との同時投与は禁止されない。

***** プソイドエフェドリン:尿中濃度 150 $\mu\text{g}/\text{mL}$ を超える場合は禁止される。

興奮薬の禁止医薬品例

① a. 非特定物質

	成分名	販売名(メーカー)
A	アドラフィニル	—
	アンフェプラモン	—
	アンフェタミン	—
	アンフェタミニル	—
	アミフェナゾール	—
B	ベンフルオレックス	—
	ベンジルピペラジン	—
	ブロマンタン	—
C	クロベンゾレックス	—
	コカイン	コカイン塩酸塩(塩野義、武田):麻薬
	クロプロパミド	—
	クロテタミド	—
F	フェンカミン	—
	フェネチリン	—
	フェンフルラミン	—
	フェンプロポレックス	—
	フォンツラセタム [4-フェニルピラセタム(カルフェドン)]	—
	フルフェノレックス	—

L	リスデキサンフェタミン	—
M	メフェノレックス	—
	メフェンテルミン	—
	メソカルブ	—
	メタンフェタミン(<i>d</i> 体)	ヒロポン(大日本住友):覚せい剤
	p-メチルアンフェタミン	—
	モダフィニル	モディオダール(アルフレッサ-田辺三菱)
N	ノルフェンフルラミン	—
P	フェンジメトラジン	—
	フェンテルミン	—
	プレニラミン	—
	プロリント	—

② b. 特定物質

	成分名	販売名(メーカー)
4	4-メチルヘキサン-2-アミン(メチルヘキサンアミン)	—
B	ベンズフェタミン	—
C	カチン**	—
	カチノンおよび類似物(メフェドロン、メテドロン、 α -ピロリジノバレロフェノン等)	—
D	ジメチルアンフェタミン	—
E	エフェドリン***	エフェドリン塩酸塩(各社):気管支拡張薬
	エピネフリン(アドレナリン)****	ボスミン(第一三共):強心薬、エピペン(ファイザー):アナフィラキシー補助治療剤 他
	エタミバン	—
	エチルアンフェタミン	—
	エチレフリン	エホチール(日本ベーリンガー)他:昇圧薬
F	ファンプロファゾン	—
	フェンブトラゼート	—
	フェンカンファミン	—
H	ヘプタミノール	—
	ヒドロキシアンフェタミン(パラヒドロキシアンフェタミン)	—
I	イソメテプテン	—
L	レブメタンフェタミン	—
M	メクロフェノキサート	ルシドリール(共和):脳循環代謝改善薬
	メチレンジオキシメタンフェタミン	—
	メチルエフェドリン***	メチエフ(田辺三菱)他:気管支拡張薬
	メチルフェニデート	リタリン(ノバルティス)他:精神刺激薬
N	ニケタミド	—
	ノルフェネフリン	—
O	オクトパミン	—
	オキシロフリン(メチルシネフリン)	—
P	ペモリン	ベタナミン(三和化学):精神刺激薬
	ペンテトラゾール	—
	フェネチルアミンおよびその誘導体	—
	フェンメトラジン	—
	フェンプロメタミン	—
	プロピルヘキセドリン	—

	プソイドエフェドリン****	ディレグラ(サノフィ)、OTC: 鼻炎用薬等
S	セレギリン	エフピー(エフピー)他: パーキンソン病治療薬
	シブトラミン	—
	ストリキニーネ	ホミカエキス(各社)、OTC: 胃腸薬等
T	テナンフェタミン(メチレンジオキシアニフェタミン)	—
	ツアミノヘプタン	—

[禁止される理由]

- ・ 中枢神経系を刺激して敏捷性を高め、疲労感を低減して競争心を高める効果を有するが、疲労の限界に対する正常な判断力を失わせ、ときには競技相手に危害を与えかねないため禁止。
- ・ アンフェタミンは有害な中枢神経興奮作用をもち、オリンピック大会の自転車競技で本剤に起因する死亡事故が発生しているため禁止。
- ・ エフェドリンは中枢神経興奮作用をもち、大量投与で精神を高揚させ、血流を増加させるため禁止。

Q. 興奮薬はどのような薬に含まれていますか？

A. 多くの一般用医薬品等の感冒・鼻炎用薬には、エフェドリンやメチルエフェドリン、プソイドエフェドリンなどが配合されています。

また、明記されていませんが、低血圧治療薬のミドドリン、アメジニウムも興奮薬として禁止されます。

Q. 禁止物質のメチルヘキサミンはサプリメントとしてよく販売されているようですが、表記されているのですか？

A. “ゼラニウム油”、“ゼラニウム根エキス”等と書かれていることもあるので注意が必要です。

S7. 麻薬

以下の物質(下表)は禁止される:

※JADA 訳注: このセクションには国内法の麻薬以外の物質が含まれる。

禁止表に掲載され明確に禁止されている物質

	成分名	販売名(メーカー)	分類
B	ブプレノルフィン	レベタン(大塚)、ノルспан(ムンディ-久光)他	非麻薬性鎮痛薬
D	デキストロモラミド	—	
	ジアモルヒネ(ヘロイン)	—	
F	フェンタニルおよび誘導体	アブストラル(協和発酵キリン-久光)、アルチバ(ヤンセン)、イーフェンバツカル(帝國-大鵬)、タラモナル(第一三共プロファーマ)、デュロテップ MT(ヤンセン)、フェンタニル(各社)、フェントス(久光-協和発酵キリン)、ワンデュロパッチ(ヤンセン)他	麻薬
H	ヒドロモルフォン	—	
M	メサドン	メサペイン(帝國-テルモ)	麻薬
	モルヒネ	モルヒネ塩酸塩(各社)、オプソ(大日本住友)、アンペック(大日本住友)、プレペノン(テルモ)、MS コンチン(塩野義)、カディアン(大日本住友)、ピーガード(田辺三菱)、モルペス(藤本)、MS ツワイスロン(帝國-日本化薬)、モヒアト(武田)、パシーフ(武田)他	麻薬
N	ニコモルフィン	—	
O	オキシコドン	オキシコンチン(塩野義)、オキノーム(塩野義)、オキファスト(塩野義)、パビナル(武田)他	麻薬
	オキシモルフォン	—	

P	ペンタゾシン	ソセゴン(丸石)、トスパリール(小林化工)、ペルタゾン(あすか-日本化薬)、ペンタジン(第一三共)	非麻薬性鎮痛薬
	ペチジン	オピスタン(田辺三菱)他	麻薬

[禁止される理由]

- ・ 麻薬は鎮痛、鎮静による精神・心理機能の向上とリラクゼーション、また、陶酔感、多幸福感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 副作用として、呼吸抑制、呼吸麻痺、依存性、血圧降下、ショック、めまい、眠気、嘔吐、虚脱、便秘、筋萎縮、視調節障害が見られる。

Q.” Open List” ,” Closed List” とは？

A. 「S7.麻薬」のように禁止される物質・方法を限定したセクションを” Closed List” と言い、「類似の化学構造又は類似の生物学的効果を有するもの」「以下の物質が禁止されるが、これらに限定するものではない」等と記載があり、禁止される物質・方法の代表例が掲載されているセクションを” Open List” と言います。2008年北京オリンピックで金メダルを獲得したジャマイカチームの違反は、当時、禁止表に明記されていなかったメチルヘキサンアミン(S6.bに該当、Open List)が問題となりました。

S8. カンナビノイド

以下の物質は禁止される:

- 天然[大麻、ハシシュおよびマリファナ、あるいは合成 Δ9-テトラヒドロカンナビノール(THC)等]
- カンナビノイド様物質[“スパイス”、JWH-018、JWH-073、HU-210 等]

[禁止される理由]

- ・ 思考、知覚、気分を異常に変化させ、多幸福感、高揚感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 憂うつ感、被暗示性の増強、錯乱、幻覚を伴うことがある。選手が競技に対する不安や焦りから逃避する目的で嗜癖に陥る危険性がある。

Q.「大麻」とは？

A. 大麻草 Cannabis sativa の葉を乾燥したものがマリファナ、樹脂がハシシュである。主な成分は Δ9-テトラヒドロカンナビノール (THC)、カンナビロール等。

Q.「カンナビノイド様物質」とは？

A. 合成カンナビノイド類で、大麻の幻覚成分である THC と同じく、カンナビノイド受容体のアゴニスト。通称 JWH-018 および誘導体 JWH-073、HU-210 等があり、「Spice」に添加されている。

S9. 糖質コルチコイド

糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用または経直腸使用はすべて禁止される

[禁止される理由]

- ・ エネルギー代謝を活性化させ、競技力向上を狙って使用される。あるいは、陶酔感を期待して使用されるため禁止。
- ・ 炎症を抑える作用があるので、ケガをしても競技を継続できてしまうことがあるので注意。
- ・ 感染の増悪、続発性副腎機能不全、消化性潰瘍が発現する。

Q. 痔疾患用の糖質コルチコイドを含む注入軟膏や坐剤は禁止されますか？

A. 経直腸使用とみなされ禁止されます。

Q. 糖質コルチコイドを禁止されない経路（関節内・関節周囲・腱周囲注射等）で使用し、競技会検査で検出された時の対応は？

A. 使用経路について証明する医療記録を提示できるよう備えておく必要があります。

Ⅲ. 特定競技において禁止される物質

P1. アルコール

以下の競技において、アルコール(エタノール)は**競技会(時)**に限って禁止される。検出方法は、呼気分析および/または血液分析である。ドーピング違反が成立する閾値は血中アルコール濃度 0.10g/L と同等の濃度である。

- 航空スポーツ(国際航空連盟:FAI)
- アーチェリー(国際アーチェリー連盟:WA)
- 自動車(国際自動車連盟:FIA)
- パワーボート(国際パワーボート連合:UIM)

[禁止される理由]

- ・ 運動能力や感覚機能、判断力が低下する。通常 1~1.5mg/mL で大脳皮質の抑制がとれて多弁、陽気になる。1.5mg/mL 以上で運動失調を来す。4.5mg/mL 以上で呼吸抑制のため死に至る。
 なお、道路交通法の酒気帯び運転は、血中濃度 0.3g/L(呼気濃度 0.15mg/L)以上。

P2. ベータ遮断薬

ベータ遮断薬は、以下の競技種目において**競技会(時)**に限って禁止される。指示がある場合は**競技会外**においても禁止される。

- アーチェリー(国際アーチェリー連盟:WA)(競技会外においても禁止)
- 自動車(国際自動車連盟:FIA)
- ビリヤード(全ての種目)(世界ビリヤード・スポーツ連合:WCBS)
- ダーツ(世界ダーツ連盟:WDF)
- ゴルフ(国際ゴルフ連盟:IGF)
- 射撃(国際射撃連盟:ISSF、国際パラリンピック委員会:IPC)(競技会外においても禁止)
- スキー/スノーボード(国際スキー連盟:FIS)ージャンプ、フリースタイル(エアリアル/ハーフパイプ)、スノーボード(ハーフパイプ/ビッグエアー)
- 水中スポーツ(世界水中連盟:CMAS)コンスタント-ウェイト アブネア(フィンありフィンなし)、ダイナミックアブネア(フィンありフィンなし)、フリーイマージョン アブネア、ジャンプ ブルー アブネア、スピアフィッシング、スタティック アブネア、ターゲットシューティングおよびバリアブル ウェイト アブネア

以下の物質(下表)が禁止されるが、これらに限定するものではない。

禁止表に掲載されているベータ遮断薬

	成分名	販売名(メーカー)
A	アセプトロール	アセタノール(サノフィ)
	アルプレノロール	スカジロール(寿)
	アテノロール	テノミン(アストラゼネカ)他
B	ベタキソロール	ケルロング(サノフィ)、ベトプティック点眼液(日本アルコン)他
	ビソプロロール	メインテート(田辺三菱)、ビソノテープ(トーアイエイヨー-アステラス)他
	ブノロール	—
C	カルテオロール	ミケラン(大塚)他
	カルベジロール	アーチスト(第一三共)他
	セリプロロール	セレクトール(日本新薬)他

E	エスマロール	ブレビブロック(丸石)
L	ラベタロール	トランデート(アスペン)他
	レボプロロール	ミロル点眼液(杏林-科研)他
M	メチプラノロール	—
	メトプロロール	セロケン(アストラゼネカ)他
N	ナドロール	ナディック(大日本住友)
O	オクスプレノロール	—
P	ピンドロール	カルビスケン(アルフレッサ)他
	プロプラノロール	インデラル(アストラゼネカ)他
S	ソタロール	ソタコール(ブリistol)
T	チモロール	チモプトール点眼液(参天)他

[禁止される理由]

- ・ 静穏作用のため選手の不安解消や「あがり」の防止、また、心拍数と血圧の低下作用で心身の動揺を少なくするため禁止。

Q. 眼圧を下げる点眼薬も禁止されますか？

A. 緑内障治療薬のベータ遮断薬の点眼薬は禁止されます。

2017年監視プログラム

以下の物質が2017年監視プログラムに掲載される:

1. 興奮薬:

競技会(時)のみ: ブプロピオン、カフェイン、ニコチン、フェニレフリン、フェニルプロパノールアミン、ピプラドロール、シネフリン

2. 麻薬:

競技会(時)のみ: コデイン、ミトラギニン、トラマドール

3. 糖質コルチコイド:

競技会(時) (経口使用、静脈内使用、筋肉内使用または経直腸使用以外の投与経路)
競技会外 (すべての投与経路)

4. テルミサルタン:

競技会(時)および競技会外

5. ベータ2作用薬:

競技会(時)および競技会外: ベータ2作用薬同士の組合せ

* 世界アンチ・ドーピング規程(4.5): "WADAは、署名当事者及び各国政府との協議に基づき、禁止表に掲載されていないが、スポーツにおける濫用のパターンを把握するために監視することを望む物質について監視プログラムを策定するものとする。"

○監視プログラムに掲載されている物質

成分名	販売名(メーカー)
ブプロピオン	—
カフェイン	レスピア(ノーベル)、無水カフェイン(小塚)他
ニコチン	ニコチネル TTS(GSK-ノバルティス)
フェニレフリン	ネオシネジン(興和)他
フェニルプロパノールアミン	—
ピプラドロール	—
シネフリン	チンピ(生薬)他
コデイン	コデインリン酸塩(各社)他
ミトラギニン	—
トラマドール	トラマール(日本新薬)、ワントラム(日本新薬)他
糖質コルチコイド	—
テルミサルタン	ミカルディス(日本ベーリンガー-アステラス)他
ベータ2作用薬同士の組合せ	—

Q. 監視プログラムの物質は禁止されないのですか?

A. 当該年においては禁止されません。

しかし、メルドニウムのように、2015年は監視プログラムだった物質が、2016年に禁止物質となったため違反となった事例もあるので、注意してください。

文献

1) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構: 世界アンチ・ドーピング規程 2017年禁止表国際基準, 2017

3. 2017 年 WADA 禁止表 主要な変更の要約と注釈

常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)

禁止物質

S1. 蛋白同化薬

- 内因性に低濃度生成されるため、ボルデノン、ボルジオン、19-ノルアンドロステンジオン、およびナンドロロンを S1.b セクションへ移動し、19-ノルアンドロステンジオールを S1.b セクションへ追加した。この変更は、これらの物質が禁止されることに対して影響は与えない。これらの物質に対する検出結果の解釈と報告は固有のテクニカルドキュメントに記載している[TD2016IRMS および/または TD2016NA]。
- “デルタ-2”もしくは 2-アンドロステノンとして一般的に知られている 5 α -アンドロスタ-2-エン-17-オンを、最近、より多く栄養補助食品中で見つけられるため DHEA の代謝物の例として追加した。

変更のポイント

- ボルデノン、ボルジオン、19-ノルアンドロステンジオン、ナンドロロンが S1.a のセクションから S1.b のセクションへ移動になりました。なお、セクションは移動しても、これらの物質が禁止されることに変更はありません。
- S1.b のセクションに 19-ノルアンドロステンジオールが例として追加されました。
- 栄養補助食品中によく配合されている、“デルタ-2”もしくは 2-アンドロステノン(5 α -アンドロスタ-2-エン-17-オン)が、DHEA の代謝物の例として、S1.b のセクションに追加されました。

S2. ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質

- 赤血球新生刺激物質の範囲を広げるため、GATA 阻害薬[K-11706 等]およびトランスフォーミング増殖因子 β (TGF- β)阻害薬[ソタテルセプト、ラスパテルセプト等]を追加した。
- FG-4592 の国際一般名(INN)であるロキサデュスタットを追加した。
- モリデュスタットを HIF 安定薬のもう一つの例として追加した。
- コバルト:コバルトを含有するビタミン B12 は禁止物質ではない。

変更のポイント

- 赤血球新生刺激物質(ESAs)の例として、GATA 阻害薬[K-11706 等]、トランスフォーミング増殖因子 β (TGF- β)阻害薬[ソタテルセプト、ラスパテルセプト等]が追加されました。
- FG-4592 の国際一般名(ロキサデュスタット)が追記されました。
- HIF 安定薬の例として、モリデュスタットが追加されました。
- ビタミン B12(コバルトを含有)は、禁止されません。

S3. ベータ 2 作用薬

- 異性体への言及を単純化した。
- 選択的および非選択的ベータ 2 作用薬の例を追加した(フェノテロール、ホルモテロール、ヒゲナミン、インダカテロール、オロダテロール、プロカテロール、レプロテロール、サルブタモール、サルメテロール、テルブタリン、ビランテロール)。
- ヒゲナミンは植物のイボツツラフジ(*Tinospora crispa*)の成分であると報告されており、いくつかの栄養補助食品で検出されている。ヒゲナミンは非選択的ベータ 2 作用薬である。
- サルブタモールの投与パラメーターを改め、24 時間分の全量を一度に投与されるべきではない事をより明確にした。
- サルメテロールの最大量を、製造業者の推奨量に従って提示した。
- 吸入サルメテロールの適切な尿中濃度の確立のための研究は進行中である。現時点では、テクニカルドキュメント TD2015MRPL は、10ng/mL 以下のサルメテロールについては報告を要求していない。

変更のポイント

- 2016年禁止表では、「すべてのベータ2作用薬は、関連するすべての光学異性体(例えば、d体およびl体)を含めて禁止される」とされていましたが、2017年禁止表では「すべての選択的および非選択的ベータ2作用薬は、すべての光学異性体を含めて禁止される。」となり、光学異性体に関する記載が単純化されました。
- フェノテロール、ホルモテロール、ヒゲナミン、インダカテロール、オロダテロール、プロカテロール、レプロテロール、サルブタモール、サルメテロール、テルブタリン、ビランテロールが選択的および非選択的ベータ2作用薬の例として追加されました。
- 非選択的ベータ2作用薬の「ヒゲナミン」は、植物のイボツツラフジ(*Tinospora crispa*)の成分であると報告されており、栄養補助食品から検出されています。また、ヒゲナミンは、Norcochlorine(ノルコクラウリン)、Demethylcochlorine(デメチルコクラウリン)、附子(ブシ)、丁子(チョウジ)、細辛(サイシン)、南天実(ナンテンジツ)、呉茱萸(ゴシュユ)にも含まれるとされています³⁾。
- 吸入サルブタモールの取扱いについて、「12時間ごとに800 μ gを超えない」旨の記載が追記され、より明確にされました。
- 吸入サルメテロールについて、「24時間で最大200 μ g」との文言が追記されました。吸入サルメテロールについては、研究が進行中です。

S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬

- アンドロスタ-3,5-ジエン-7,17 ジオン(アリミスタン)を、アロマトラーゼ阻害薬の新たな例として追加した。

変更のポイント

- アロマトラーゼ阻害薬の例として、アンドロスタ-3,5-ジエン-7,17 ジオン(アリミスタン)が追加されました。

禁止方法

M1.血液および血液成分の操作

- 静脈内投与ではなく、吸入による酸素自体の補給は許可される。これを明確にするために、M1.2に“吸入による酸素自体の補給は除く”と記載した。

変更のポイント

- “吸入による”酸素自体の補給は禁止されないことが明確にされました。

競技会(時)に禁止される物質と方法

S6.興奮薬

- リスデキサンフェタミンをS6.aへ追加した。;これはアンフェタミンの不活性型プロドラッグである。
- メチルヘキサンアミンに対するINNがないため、国際純正・応用化学連合[IUPAC]名である4-メチルヘキサン-2-アミンを追加した。メチルヘキサンアミンにはいくつかの他の同義語が存在する:例として、1,3-ジメチルアミルアミン、ジメチルペンチルアミン;メチルヘキサミン;メチルヘキサンアミン;1,3-ジメチルペンチルアミン。
- 通常の食品の消費量では、フェネチルアミンは違反が疑われる分析報告となるには十分な量ではないであろう。

変更のポイント

- アンフェタミンの不活性型プロドラッグである「リスデキサンフェタミン」が、S6.a のセクションに例として追加されました。
- メチルヘキサンアミンの IUPAC 名 (4-メチルヘキサン-2-アミン) が追記されました。メチルヘキサンアミンには、同義語として 1,3-ジメチルアミルアミン等があります。
- WADA の見解では、フェネチルアミンは、通常の食品の消費量であれば、違反となることは考えにくいとのことです。

S7.麻薬

- ニコモルフィンを追加した。ニコモルフィンとは投与後モルヒネに変化するオピオイド作用薬である。

変更のポイント

- 投与後にモルヒネ(本セクションで禁止される麻薬)に変化する「ニコモルフィン」が例として追加されました。

S9.糖質コルチコイド

- 関係者のコメントを考慮し、2017 年ではこのセクションに対する変更はしなかった。

変更のポイント

- 2017 年禁止表において、本セクションに変更はありません。

2017 年監視プログラム 主要な変更の要約と注釈

監視プログラム

使用パターンを把握するために以下の物質を追加した。

- コデイン;
- 複数のベータ 2 作用薬の同時使用

変更のポイント

- 「コデイン」、「複数のベータ 2 作用薬の同時使用」が監視プログラムに新たに追加されました。

詳しくは、WADA ホームページ (<http://www.wada-ama.org/>) をご参照下さい。

出典

- 1) https://www.wada-ama.org/sites/default/files/resources/files/2016-09-29_-_wada_prohibited_list_2017_eng_final.pdf
- 2) <http://www.playtruejapan.org/wp/wp-content/uploads/2016/12/3d0fcdb70bcf45de26a66192cd2a7dd7-2.pdf>
- 3) 平成 28 年 12 月 19 日付、事務連絡「2017 年禁止表国際基準の Higenamine (ヒゲナミン) に関する注意喚起」

(注意事項) 2017 年禁止表国際基準は英文版が原本となります。本国際基準の英語版と日本語版に差異がある場合には、英語版が優先されます。

4. 特に気をつけたい一般用医薬品・要指導医薬品と健康食品・サプリメント

1) 胃腸薬に注意

胃腸薬にはヒゲナミンやストリキニーネ(いずれも禁止物質)を含有する生薬チョウジやホミカが成分として含まれているものがあります。ヒゲナミン(チョウジ)はベータ2作用薬、ストリキニーネ(ホミカ)は興奮薬として禁止され、検出されれば直ちに違反です。胃腸薬を使う場合は禁止物質が含まれていないことを確認しましょう。

(例) 使ってはいけない胃腸薬

パンジラス顆粒(テイカ製薬-白石薬品)	ワクナガ胃腸薬 G(湧永製薬)
救胆(島伊兵衛薬品)	金魚胃腸薬(大和合同製薬)
済仁(森本製薬)	赤玉はら薬(大和合同製薬) など

2) 滋養強壮薬に注意

滋養強壮薬には、禁止物質である蛋白同化薬(テストステロン)及びホルモンの関連物質を含む漢方薬、また、禁止物質であるストリキニーネ(ホミカ)が含まれているものがあります。そして、医薬品以外のいわゆる健康食品として、滋養強壮目的の錠剤やドリンク剤が多数市販されており、これらの中にテストステロン等の関連物質が含まれている可能性も否定できません。**国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。**

* 蛋白同化薬及び関連物質には、テストステロン、メチルテストステロンの他に、生薬成分である、海狗腎(カイクジン)、麝香(ジャコウ)、鹿茸(ロクジョウ)などがあります。

(例) 使ってはいけない滋養強壮薬: 蛋白同化薬(テストステロン)及びホルモンの関連物質を含む

オットピン-S(ヴィタリス製薬-あかひげ薬局)	外用ホルモン塗布剤オットピン(ヴィタリス製薬-大和製薬・愛)
活力・M(東南製薬)	強力パロネス(日新製薬・滋)
金蛇精(糖衣錠)(摩耶堂製薬-大和製薬・愛)	トノス(大東製薬)
グローミン(大東製薬-大木製薬)	プリズマホルモン精(原沢製薬-宝仙堂)
プリズマホルモン錠(原沢製薬-宝仙堂)	ヘヤーグロン(大東製薬-あかひげ薬局、ワン・ツー)
プリズマホルモン軟膏(原沢製薬)	など

(例) 使ってはいけない滋養強壮薬: ストリキニーネ(ホミカ)を含む

ハンピロン(日本薬品-あかひげ薬局)	など
--------------------	----

3) 毛髪・体毛用薬に注意

毛髪・体毛用塗り薬では、男性ホルモンが配合されているものがあり、禁止されています。**国体期間中に限らず、普段から使用しないようにしましょう。**

(例) 使ってはいけない体毛用薬: 蛋白同化薬(テストステロン)及び関連物質を含む

ペレウス(協和新薬-森下仁丹、三友薬品)	マイクロゲン・パスタ(啓芳堂製薬) など
----------------------	----------------------

参考: 一般用医薬品ではありませんが、円形脱毛症の場合には、糖質コルチコイドの内服が用いられることがあり、TUE が必要になります。

4) 鎮咳去痰薬に注意

市販の鎮咳去痰薬に含まれるトリメトキノール、メキシフェナミンは禁止物質とみなされます。また、生薬の南天実にはヒゲナミン(禁止物質)が含まれます。

(例) 使ってはいけない鎮咳去痰薬:トリメトキノール、メキシフェナミンを含む

アスクロン(大正製薬)	新セキコデチンカプセル(至誠堂製薬)
新カナドリン錠(廣昌堂-ノーエチ薬品)	セキエース(ダイト-北海道厚生農業共同組合連合会)
新トニン咳止め液(佐藤製薬)	ダスモック SP(小林製薬)
セキカット(ダイト)	フストールシロップ A(オール薬品) など

5) 漢方薬に注意

漢方薬を構成する生薬には、それぞれたくさんの成分が含まれており、1つ1つの成分が禁止物質にあたるかどうか特定するのは困難です。漢方薬にも明らかに禁止物質を含むものがあり、例として、丁子、附子、細辛、南天実、呉茱萸にはヒゲナミン、麻黄にはエフェドリンやメチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、ホミカにはストリキニーネ、そして前述の滋養強壮薬には蛋白同化作用を示す成分が含まれています。また、半夏にも微量ですがエフェドリン類が含まれるので、注意が必要です。さらに名前が同じでも製造販売会社、原料の産地、収穫の時期などで成分が違ふことがあります。また、カタカナ表記で西洋薬と間違えてしまうような漢方薬もあります。

○漢方薬の TUE 申請について:一般的に漢方薬を使用しなくても疾患の治療が可能な場合、TUE 国際基準の付与基準に該当せず、承認されません。また、漢方薬が含有する禁止物質が特定できない場合 TUE 申請ができません。TUE は物質を申請して、その物質に対して治療使用特例が認められます。漢方薬の方剤名は物質名ではありませんので、方剤名で TUE 申請はできません。

6) 風邪薬やのど飴に注意

多くの総合感冒薬(いわゆる風邪薬)には禁止物質のエフェドリンやメチルエフェドリン等が含まれ、また、のど飴には禁止物質のヒゲナミンが含まれているものもあるため、注意が必要です。

7) その他の注意する医薬品

○鼻炎用薬:市販の鼻炎用薬には興奮薬として禁止されるプソイドエフェドリンが配合されていることが多く、注意が必要です。

○鼻づまりの点鼻薬、点眼薬:ナファゾリン等の血管収縮剤は、点鼻・点眼を含む局所使用が許されていますが、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性があります。また、点鼻薬は連用により鼻づまりを悪化させる恐れがあります。

○アレルギーの内服薬:市販のアレルギー用薬には禁止物質が配合されていることがあり、注意が必要です。

8) 健康食品・サプリメントに注意

国内外で多数の健康食品・サプリメントが入手できますが、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)は、スポーツでのサプリメントの使用を推奨していません。

国立スポーツ科学センターは、スポーツで使用できるダイエタリーサプリメントとして、炭水化物やたんぱく、ビタミン、ミネラルなどの栄養主成分とするもので、日常の食事から十分な量を摂取できない場合にそれらを補うもの、およびエルゴジェニックエイドといって運動量増加を助ける栄養素、水分、電解質などの成分を挙げています。

海外では、ラベルに表示しないまま不正に興奮薬やステロイドなどの医薬品成分を添加したサプリメント製品が多数流通し、そのような製品による陽性も毎年報告されているため、製造基準や製品管理の品質が不明な製品の使用は避けることが賢明です。

また、サプリメントの定義は国によって異なり、海外でサプリメントとして販売されているからといって日本国内の製品と同じとは限らないことにも留意しておく必要があります。

○海外の製品

* 6-オキソ(4-アンドロステン-3,6,17-トリオン)や、ゼラニウム油あるいはゼラニウム根エキスとして表示されているメチルヘキサミンを含む栄養サプリメントが販売されています。

- * 2004年3月、米国食品医薬品局(FDA)はアンドロステンジオン配合サプリメントの販売を自主的に中止するよう通知し、2004年4月には「エフェドラ(エフェドリン類)」成分を含むサプリメントの販売を禁止しました。しかし、これらがまだ流通している可能性は否定できず、また、エフェドラの代わりにダイエットサプリメントとして登場した「ビターオレンジサプリメント」にはシネフリン(監視プログラム)が含まれています。
- * 中国製ダイエット食品による死亡例を含む肝機能障害が国内で多数報告されていますが、これらには2007年禁止表に掲載された興奮薬のシブトラミンやマジンドールが含まれているものがあったことが判明しています。
- * 厚生労働省がインターネット上で広告され販売されていた、いわゆる健康食品等を購入し、国立医薬品食品衛生研究所で分析を行った結果、ドーピング禁止物質を含む医薬品成分が検出された製品があったことがわかっています。(http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11126000-Iyakushokuhinkyoku-Kanshishidoumayakutaisakuka/H25net_results.pdf)

○胎盤由来成分

美容や若返りを効能としてうたっている製品には、胎盤由来成分などの禁止物質が含まれる可能性があります。

○ビタミン、ビタミン様物質(コエンザイム Q10、L-カルニチンなど)

ビタミン、コエンザイム Q10 や L-カルニチンなどのビタミン様物質は禁止されていません。しかし、これらに種々の強壯剤を配合した製剤、特に外国製品には禁止物質を含むものがあります。

○アミノ酸

アミノ酸含有のスポーツドリンクが流行です。アミノ酸そのものはドーピング物質ではありませんが、スポーツドリンクには製品によってさまざまな天然物(ホルモン性の天然・合成成分など)を添加したのもありますから注意が必要です。

○機能性表示食品

2015年4月より機能性表示食品制度が始まり、6月から市販されています。機能性成分の中に禁止物質に該当するものがあるのかは不明ですが、届け出た内容は消費者庁のウェブサイトで公開されていますので確認してください。

サプリ・トクホ相談 Q&A(静岡県薬剤師会編、(株)南山堂 発行)も併せてご参照ください。

(参考)JADAにより認定されたスポーツドリンク、エネルギーアシスト系食品等の競技者が使用する機会が多い飲料及び食品があります。これらは更新されますので、下記の(公財)日本アンチ・ドーピング機構のホームページを参照してください。

<http://www.playtruejapan.org/qualified/>



JADA マーク



JADA 認定商品マーク

5. 使用可能薬リスト 2017 年版 / 一般用医薬品・要指導医薬品: OTC DRUGS etc

はじめに

- 禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(禁止表で規定される方法や添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の一般用医薬品・要指導医薬品(一部、医薬部外品を含む)の例をあげました。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 主に健康なスポーツ選手が急性の病気に対して使用する内服薬、外用薬をあげています。
- 生薬や植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- 名前全体が完全に一致することをお確かめください。ほとんど同じ名前でも、接頭語として「新」がついたり、接尾語として「錠」や「会社名」、アルファベットがついているだけで、成分の組成が異なることもあります。
- JAPIC 一般用医薬品集 2016 年 7 月版を参考に、現在市販されていると思われる製品をあげています。(特納品など、一部薬局店頭では入手しづらい製品もあります。)
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**

(1) 解熱鎮痛薬

(注意)

- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
アスピリン	バイエルアスピリン	佐藤製薬
アスピリン・合成ヒドロタルサイト	バファリン A	ライオン
アセトアミノフェン	タイレノール A 小児用バファリン C II バファリンルナ J こどもリングルサット	ジョンソン・エンド・ジョンソン ライオン ライオン 佐藤製薬
アセトアミノフェン・イブプロフェン	グレラン・ビット ノーシンアイ頭痛薬	武田薬品 アラクス
アルミノプロフェン	ルミフェン	佐藤製薬
イブプロフェン	イブ フェリア リングルアイビー α 200	エスエス製薬 武田薬品 佐藤製薬
イブプロフェン・ブチルスコポラミン臭化物	エルペインコーワ	興和新薬
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン S ユニペイン L	第一三共ヘルスケア 小林薬品
ロキソプロフェンナトリウム水和物・酸化マグネシウム	ロキソニン S プラス	第一三共ヘルスケア
ロキソプロフェンナトリウム水和物・乾燥水酸化アルミニウムゲル	バファリン EX	ライオン

(2) 解熱鎮痛薬【坐剤】

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
アセトアミノフェン	こどもパブロン坐薬 キオフィーバ	大正製薬 樋屋奇応丸

(3) 総合感冒薬

● かぜ薬についての基本的な考え方

カフェインなどが禁止物質から外れたため、禁止物質を含む総合感冒薬は少なくなった。しかし、依然多くの総合感冒薬にはエフェドリン類などの禁止物質が含まれており、注意が必要である。また、カフェインは禁止物質からは外れたが、モニタリング物質として使用をモニターされる。

いずれにせよ、かぜのウイルスに直接作用する薬はないので、症状にあわせて禁止物質を含まない薬を選択し、使用する方が安全である。

(注意)

- 多くの総合感冒薬には禁止物質が含まれている。
→エフェドリン類など多くの禁止物質が含まれている。
- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
→よく使われる漢方薬(葛根湯・小青竜湯など)には禁止物質(麻黄)が含まれている。
→漢方のかぜ薬は穏やかと思われがちだが、麻黄にはエフェドリン類などの禁止物質が含まれている。
- 似たような名前でも処方異なるものに注意。名前が完全に一致することを確認する。
(例)○ストナアイビー、×ストナアイビージェル
→「ストナアイビー」は使用可能であるが、「ストナアイビージェル」にはメチルエフェドリンが含まれている。
- 2010年より、プソイドエフェドリンが禁止物質として再導入された。
- パブロン、ベンザブロック、ルルシリーズのほとんどには、禁止物質(メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄)が含まれている。
→パブロン、ベンザブロック、ルルシリーズは一般的な総合感冒薬であるため注意。
- カフェイン、フェニルプロパノールアミンは2004.1.1禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。
→カフェインだけでなく、フェニルプロパノールアミンもモニタリング物質に該当する。
- コデインは、2017.1.1よりモニタリング物質となったため、検査結果は報告される。

<使用可能薬例> 注:特納品(健保組合等の組合員に特別限定販売されている商品で、広く市販されていないもの)

成分名	代表的な販売名	販売会社名
イブプロフェン・ジヒドロコデインリン酸塩・グアヤコールスルホン酸カリウム・ジフェニルピラリン塩酸塩・無水カフェイン	ストナアイビー	佐藤製薬
アセトアミノフェン・サリチルアミド・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ノスカピン塩酸塩水和物・カフェイン水和物・アスコルビン酸	新エスタック「W」	エスエス製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・アセトアミノフェン・無水カフェイン・ペントキシベリンクエン酸塩・グアヤコールスルホン酸カリウム	新ルルエース ^注	第一三共ヘルスケア

アンブロキソール塩酸塩・L-カルボシステイン・ジヒドロコデインリン酸塩・アセトアミノフェン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・リボフラビン	パブロン S ゴールド W 錠 パブロン S ゴールド W 微粒	大正製薬 大正製薬
アセトアミノフェン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・カフェイン水和物	ニシミドン液小児用	日新製薬・滋

(4) 鎮咳・去痰薬

(注意)

- エフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、メキシフェナミン、トリメキノールは禁止物質。
→メキシフェナミン、トリメキノールは WADA 禁止表に名称の記載はないが、類似の化学構造または類似の薬理効果を有するものとして禁止される。
- ナンテンジツ(ヒゲナミンを含む)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬)
- カフェイン、フェニルプロパノールアミンは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり現在は禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。
- コデインは、2017.1.1 よりモニタリング物質となったため、検査結果は報告される。
→鎮咳去痰薬にもモニタリング物質が含まれているものがある。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ジヒドロコデインリン酸塩・リゾチーム塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	新ルビカップ	日水製薬
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・ジプロフィリン・リゾチーム塩酸塩	コンタックせき止め ST	GSK
L-カルボシステイン・ブロムヘキシン塩酸塩	クールワン去たんソフトカプセル ストナ去たんカプセル エフストリン去たん錠 タイムコール去たん錠	杏林製薬 佐藤製薬 大昭製薬 日邦薬品
ジヒドロコデインリン酸塩・グアイフェネシン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・無水カフェイン	新ブロン液エース	エスエス製薬
チベピジンヒベンズ酸塩・リゾチーム塩酸塩・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ニッシンせき止め顆粒	日新薬品

(5) 鎮咳・去痰薬【トローチ/ドロップ】

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩化セチルピリジニウム・デキストロメトルファンフェノールフタリン塩	エフストリントローチ コデステシントローチ	大昭製薬 プロダクト・イノベーション、アクシス
デキストロメトルファンフェノールフタリン塩・グアヤコールスルホン酸カリウム・セチルピリジニウム塩化物水和物	コデミン G トローチ セキトローチ タイワケシノールトローチ テラポニンセキトローチ ノドロップコフ ベンザブロックトローチ	日新薬品 三宝製薬、福地製薬 大和製薬・愛 日新薬品 日新薬品 武田薬品
ノスカピン・グアヤコールスルホン酸カリウム・塩化セチルピリジニウム	新エスベナントローチ	白石薬品

(6) 胃腸薬 < ① 胃炎・胃潰瘍、② 腹痛(鎮痙・鎮痛薬)、③ 健胃・総合胃腸薬(配合薬) >

(注意)

- チョウジ(ヒゲナミンを含む)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬)
- ホミカ(ストリキニーネを含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 似たような名前で処方が異なるものに注意。
(例)○スクラート胃腸薬(顆粒)、×スクラート胃腸薬 **S(散剤)**
→「スクラート胃腸薬(顆粒)」は使用可能であるが、「スクラート胃腸薬 **S(散剤)**」にはチョウジが含まれている。
○ワクナガ胃腸薬 U、×ワクナガ胃腸薬 **G**
→「ワクナガ胃腸薬 U」は使用可能であるが、「ワクナガ胃腸薬 **G**」にはホミカが含まれている。
- 局所麻酔薬(オキセサゼイン:スイッチ OTC)は 2004.1.1 から使用可能。
→局所麻酔薬は以前は禁止されていたが、2004 年禁止表から削除され、使用可能となった。

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 胃炎・胃潰瘍		
ニザチジン	アシノン Z アシノン Z 胃腸内服液 アシノン Z 錠	ゼリア新薬 ゼリア新薬 ゼリア新薬
ファモチジン	ガスター10、ガスター10 S 錠 ガスター10(散) ガスター10 内服液 ベッセン H2	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 新新薬品
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	イノセアワンブロック	佐藤製薬
② 腹痛(鎮痙・鎮痛薬)		
ブチルスコポラミン臭化物	ストマオフ糖衣錠 ブスコパン A 錠 ブチスコミン	ゼリア新薬 エスエス製薬 佐藤製薬
ブチルスコポラミン臭化物・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	ブスコパン M カプセル	エスエス製薬
ジサイクロミン塩酸塩・乾燥水酸化アルミニウムゲル・酸化マグネシウム	コランテル A 顆粒	塩野義製薬
オキセサゼイン	サクロン Q ロミノン三宝 Oz	エーザイ 三宝製薬
③ 健胃・総合胃腸薬(配合薬)		
ロートエキス・スクラルファート水和物・合成ヒドロタルサイト・ケイ酸アルミン酸マグネシウム・アズレンスルホン酸ナトリウム・L-グルタミン	スクラート胃腸薬(顆粒)	ライオン
トロキシピド・アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・ロートエキス 3 倍散 C・炭酸水素ナトリウム・ケイ酸マグネシウム・沈降炭酸カルシウム	イノセアバランス	佐藤製薬
ロートエキス・銅クロロフィリンカリウム・水酸化マグネシウム・無水リン酸水素カルシウム	サクロン S	エーザイ
カルニチン塩化物・ラクトミン・ジメチルポリシロキサン・パントテン酸カルシウム・銅クロロフィリンナトリウム・ビオチン・スターゼ 2000・プロザイム 6・リパーゼ AP12	パンシロンビオリズム健胃消化整腸薬	ロート製薬

ピレンゼピン塩酸塩水和物・炭酸水素ナトリウム・メタケイ酸アルミン酸マグネシウム・ビオチンアスターゼ 2000	ガストール錠 ガストール細粒	エスエス製薬 エスエス製薬
水酸化マグネシウム	ミルマグ液 スイマグ	エムジーファーマ 三保製薬研究所
セトラキサート塩酸塩・ロートエキス3倍散・沈降炭酸カルシウム・水酸化マグネシウム	第一三共胃腸薬コアブロック散剤 第一三共胃腸薬コアブロック錠剤	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア
アズレンスルホン酸ナトリウム・アルジオキサ・合成ヒドロタルサイト・ロートエキス散・沈降炭酸カルシウム	ワクナガ胃腸薬 U	湧永製薬
乾燥酵母	エビオス錠*	アサヒフードアンドヘルスケア
ラクトミン(乳酸菌)・糖化菌(納豆菌)・ビオチンアスターゼ・乾燥酵母	ビオラクターゼ*	米田薬品
宮入菌(酪酸菌)末・ウルソデオキシコール酸	ミヤリサン U 錠*	ミヤリサン製薬

(7) 消化薬

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ウルソデオキシコール酸	タナベ胃腸薬ウルソ	田辺三菱製薬
ビオチンアスターゼ 2000・リパーゼ AP12・ニューラーゼ	新ビオチンアスターゼ*	天野商事
有胞子性乳酸菌(ラクボン原末)・タカチンアスターゼ N1・ビオチン	パンラクミン錠*	第一三共ヘルスケア

(8) 便秘治療薬

(注意)

- 女性用の便秘治療薬に注意。カタカナ表記でも漢方薬の製品がある。
(例) × 新ココアポ A 錠・S 錠
→「新ココアポ A 錠・S 錠」は防風通聖散という漢方薬であり、禁止物質である麻黄(エフェドリン類)を含有する。また、防風通聖散は、最近では皮下脂肪の分解等を目的に使用される事が多くなり、「ナイシトール 85」、「ココスリム」のような製品名でも販売されている。
- グリセロール(グリセリン)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
→ 禁止される使用経路は特に限定されておらず、尿中に相当量のグリセリンが存在する場合は、ドーピング違反が疑われる。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
センノシド・ビスコジル	カイベール C ラクトール S	アラクス カイゲンファーマ
ビスコジル	コーラック カイラックス ツージーQ	大正製薬 日新薬品 小林製薬
ビスコジル・センノシドカルシウム・ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)	スルーラックプラス	エスエス製薬
ピコスルファートナトリウム水和物	ピコラックス ビュースルー・ソフト	佐藤製薬 皇漢堂製薬
ピコスルファートナトリウム水和物・ビフィズス菌・ラクトミン(乳酸菌)	ビオフィルミン便秘薬	武田薬品
酸化マグネシウム	アクアナチュラル便秘薬 スラーリア便秘薬	フジックス ロート製薬

炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	コーラック坐薬タイプ 新レシカルボン坐剤 S	大正製薬 ゼリア新薬
-------------------------	---------------------------	---------------

(9) 整腸薬・下痢止め

<使用可能薬例> * : 医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩酸ロペラミド	イノック下痢止め シグナル下痢止め トメダインコーワフィルム ペロット下痢止め ロペラマックサット	湧永製薬 エスエス製薬 興和新薬 ゼリア新薬 佐藤製薬
ベルベリン塩化物水和物・ロートエキス・タンニン酸アルブミン・ウルソデオキシコール酸	新タントーゼ A	第一三共ヘルスケア
ロートエキス3倍散・タンニン酸ベルベリン	ストツパ下痢止め EX 小中学生用ストツパ下痢止め EX	ライオン ライオン
カゼイ菌・ビフィズス菌	ヤクルト BL 整腸薬*	ヤクルト本社
ビフィズス菌・ラクトミン	わかもと整腸薬*	わかもと製薬
ラクトミン(フェカリス菌・アシドフィルス菌)・ビフィズス菌・ジメチルポリシロキサン	ラツパ整腸薬 BF*	大幸薬品
宮入菌(酪酸菌)末	強ミヤリサン(錠)*	ミヤリサン製薬
コンク・アシドフィルス菌末・コンク・ビフィズス菌末・コンク・フェカリス菌末	新ビオフェルミン S 錠* 新ビオフェルミン S 細粒*	武田薬品 武田薬品

(10) アレルギー用薬(鼻炎内服薬を含む)

(注意)

- メチルエフェドリン、プソイドエフェドリンは競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
- カフェイン、フェニレフリンは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
→アレルギー用薬にもモニタリング物質が含まれている。
- 市販のアレルギー用薬には禁止物質やモニタリング物質を配合する薬が多い。
→生薬を配合するものにも注意が必要。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
メキタジン	ストナリニ・ガード ポジナール M 錠	佐藤製薬 ノーエチ薬品
メキタジン・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・ニコチン酸アミド	ピロット A 錠	全薬工業
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ糖衣錠	興和新薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グルコン酸カルシウム水和物・アスコルビン酸散	タミナス A 錠	湧永製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸カリウム・リン酸ピリドキサー	アレギトール	日邦薬品
クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸カリウム・ピリドキシン塩酸塩・グルコン酸カルシウム水和物	アレルギーール錠	第一三共ヘルスケア

ケトチフェンマル酸塩	コンタック 600 ファースト ザジテン AL 鼻炎カプセル ヒストミン鼻炎カプセル Z	GSK GSK 小林薬品
アゼラスチン塩酸塩	スカイナーAL錠	エーザイ
エピナスチン塩酸塩	アレジオン 10 アレジオン 20	エスエス製薬 エスエス製薬
フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラFX	久光製薬
セチリジン塩酸塩	コンタック鼻炎 Z ストナリニ Z	GSK 佐藤製薬
エバステン	エバステル AL	興和新薬
ペミロラストカリウム	アレギサール鼻炎	田辺三菱製薬

(11)点鼻薬

(注意)

- 多くの点鼻薬には、ナファゾリン(イミダゾール誘導体)などの血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質またはその関連物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
 - ナファゾリン、テトラヒドロゾリン等のイミダゾール誘導体は、点鼻を含む局所使用が認められている。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
クロモグリク酸ナトリウム・ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ナザールブロック	佐藤製薬
ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ベンザルコニウム塩化物	クールワン鼻スプレー	杏林製薬
ナファゾリン塩酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・塩酸リドカイン・ベンゼトニウム塩化物	新ルル点鼻薬	第一三共ヘルスケア
塩酸テトラヒドロゾリン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ベンゼトニウム塩化物・リドカイン	ベンザ鼻炎スプレー	武田薬品
オキシメタゾリン塩酸塩	ナシビン M スプレー	佐藤製薬
ケトチフェンマル酸塩	ザジテン AL 鼻炎スプレーα	GSK
ケトチフェンマル酸塩・ナファゾリン塩酸塩	パブロン点鼻クイック	大正製薬
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	コンタック鼻炎スプレー<季節性アレルギー専用> ナザールα AR<季節性アレルギー専用> エージーアレルカット EX<季節性アレルギー専用>	GSK 佐藤製薬 第一三共ヘルスケア

(12)吐き気・乗り物酔い予防薬

(注意)

- 吐き気・乗り物酔いの予防薬には、カフェインを含むものが多数ある。
- カフェインは 2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更となり禁止されないが、検査結果は従来通り報告される。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
塩酸メクリジン	センパア S	大正製薬
塩酸メクリジン・ピリドキシン塩酸塩	スカイラブソフト	伊丹製薬
塩酸メクリジン・スコポラミン臭化水素酸塩水和物	乗り物酔い止め QD 錠 センパア こどもセンパア S タケダ乗り物酔い止め	第一三共ヘルスケア 大正製薬 大正製薬 武田薬品
マレイン酸フェニラミン・アミノ安息香酸エチル・スコポラミン臭化水素酸塩水和物・無水カフェイン・ピリドキシン塩酸塩	アネロン「ニスキャップ」	エスエス製薬
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩・スコポラミン臭化水素酸塩水和物	トラベルミン チュロップぶどう味 トラベルミン チュロップレモン味	エーザイ エーザイ
塩酸メクリジン・ジプロフィリン	トリブラ S 錠	大木製薬
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン	トラベルミン マイトラベル錠	エーザイ 興和

(13)催眠・鎮静薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ジフェンヒドラミン塩酸塩	グ・スリーP ドリエル ネオデイ プロリズム	第一三共ヘルスケア エスエス製薬 大正製薬 カイゲンファーマ

(14) 鉄欠乏性貧血用薬

(注意)

- 生薬由来成分が配合されている鉄剤は注意。
→成分が確認できるかチェックする。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
溶性ピロリン酸第二鉄・アスコルビン酸・トコフェロール酢酸エステル・シアノコバラミン・葉酸	マステゲン錠	日本臓器製薬
溶性ピロリン酸第二鉄・シアノコバラミン・葉酸	ファイチ ヘマニック	小林製薬 全薬工業

(15) 痔疾用薬

(注意)

- 多くの痔疾用の坐薬・軟膏には、血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止。
→糖質コルチコイドを含む注入軟膏・坐剤などを直腸経由で使用することは禁止。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
リドカイン・グリチルレチン酸・アラントイン・トコフェロール酢酸エステル	ボラギノール M 軟膏 ボラギノール M 坐剤	武田薬品 武田薬品
リドカイン・酸化亜鉛・クロルヘキシジン塩酸塩・アラントイン・グリチルレチン酸・トコフェロール酢酸エステル・トメントール	レック H 軟膏 レック H 坐剤	湧永製薬 湧永製薬

(16) 女性用薬(腔カンジダ関連薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
クロトリマゾール	エンペシド L	佐藤製薬
オキシコナゾール硝酸塩	オキナゾール L100 フェミニーナ 腔カンジダ錠	田辺三菱製薬 小林製薬
ミコナゾール硝酸塩	メディリート メディリートクリーム	大正製薬 大正製薬
イソコナゾール硝酸塩	メンソレータムフレディ CC 腔錠 メンソレータムフレディ CC クリーム	ロート製薬 ロート製薬

(17)目薬<①感染症、②ビタミン類・疲れ目、③人工涙液・ドライアイ、④洗眼薬、⑤花粉症・抗アレルギー>

(注意)

- ナファゾリンなど(イミダゾール誘導体)の血管収縮剤は、点眼を含む局所使用が認められている。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 感染症		
スルファメキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム・イプシロン-アミノカブロン酸・ピリドキシン塩酸塩	抗菌アイリス使いきり	大正製薬
スルファメキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム	新サルファ・ルビー ノアール SG ノアールワン SG	日邦薬品 佐藤製薬 佐藤製薬
スルファメキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム	ユニーサルファ目薬	小林薬品
スルファメキサゾール・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・タウリン	サンテ抗菌新目薬	参天製薬
スルファメキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・酢酸 d- α -トコフェロール	ロート抗菌目薬 EX	ロート製薬
スルファメキサゾールナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・イプシロン-アミノカブロン酸	ティアレ抗菌目薬	オフテクス
② ビタミン類・疲れ目		
ネオスチグミンメチル硫酸塩・シアノコバラミン・フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム・タウリン・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	アイリス 50	大正製薬
ネオスチグミンメチル硫酸塩・イプシロン-アミノカブロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・酢酸 d- α -トコフェロール・タウリン・パンテノール	サンテ 40 プラス	参天製薬
クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン・タウリン	サンテドウ	参天製薬
シアノコバラミン・ピリドキシン塩酸塩・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・タウリン	ポポンピュメリ目薬 R	塩野義製薬
タウリン・酢酸 d- α -トコフェロール・ピリドキシン塩酸塩・L-アスパラギン酸カリウム・ネオスチグミンメチル硫酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ロートゴールド 40	ロート製薬
ネオスチグミンメチル硫酸塩・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・イプシロン-アミノカブロン酸・L-アスパラギン酸カリウム・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	ノアール小児用	佐藤製薬

③ 人工涙液・ドライアイ		
塩化ナトリウム・塩化カリウム	アイブルーCL ソフトサンティア	カイゲンファーマ 参天製薬
塩化ナトリウム・ヒプロメロース	アスパラ目薬モイスト CL	田辺三菱製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・ヒドロキシエチルセルロース	なみだロートコンタクト	ロート製薬
塩化ナトリウム・塩化カリウム・ブドウ糖	New マイティア CL-a	武田薬品
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・塩化ナトリウム・L-アスパラギン酸カリウム・タウリン	スマイルコンタクトピュア	ライオン
塩化ナトリウム・塩化カリウム・タウリン	アイリス CL-I ネオ	大正製薬
④ 洗眼薬		
イブシロン-アミノカブロン酸・アラントイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム・グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・トコフェロール酢酸エステル	アイボン d	小林製薬
イブシロン-アミノカブロン酸・グリチルリチン酸二カリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・L-アスパラギン酸カリウム	アルガード目すっきり洗眼薬 α	ロート製薬
L-アスパラギン酸カリウム・タウリン・イブシロン-アミノカブロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ピリドキシン塩酸塩・パンテノール・酢酸 d-α-トコフェロール	スマイルアミノウォッシュ	ライオン
イブシロン-アミノカブロン酸・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・ピリドキシン塩酸塩・タウリン	フレッシュアイ AG	第一三共ヘルスケア
グリチルリチン酸二カリウム・ビタミン B6・酢酸 d-α-トコフェロール・L-アスパラギン酸カリウム・タウリン・コンドロイチン硫酸ナトリウム	ロート C キューブアミノモイスト	ロート製薬
⑤ 花粉症・抗アレルギー		
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩	アイブルーAG II アイラート AG サンテアルフリー新目薬 ビュークリア AL クール フォスターALG	カイゲンファーマ 全薬工業 参天製薬 ゼリア新薬 キョーリンリメディオ
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	エーゼットアルファ	ゼリア新薬
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン AL 点眼薬	GSK
クロモグリク酸ナトリウム・クロルフェニラミンマレイン酸塩・プラノプロフェン・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	ロートアルガードクリアブロック Z ロートアルガードクリアマイルド Z	ロート製薬 ロート製薬
ケトチフェンフマル酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・タウリン	アイリス AG ガード	大正製薬
アシタザノラスト水和物	アイフリーコーワ AL	興和新薬
ベミロラストカリウム	ノアール P ガード点眼液	佐藤製薬
トラニラスト	ロートアルガードプレテクト	ロート製薬

(18)うがい薬・口腔内用薬

(注意)

- チョウジ(ヒゲナミンを含む)が配合されているうがい薬や歯痛・歯槽膿漏薬に注意。(WADA 禁止表 S2.ベータ2 作用薬)

<使用可能薬例> *:医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
ポビドンヨード	浅田飴のどクールスプレー イソジンうがい薬 ネオヨジンうがいぐすり フィニッシュコーワ	浅田飴 シオノギヘルスケア 岩城製薬 興和新薬
クロルヘキシジングルコン酸塩	うがい薬コロロ SP	サラヤ
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	セピーAZ のどスプレークール パブロンうがい薬 AZ ルルのどスプレー	ゼリア新薬 大正製薬 第一三共ヘルスケア
セチルピリジニウム塩化物水和物	ヴィックスメディケイテッドドロップ B・C・GA・GF・HL・L・O・R・U* のどぬーるスプレークリアミント a*	大正製薬 小林製薬
セチルピリジニウム塩化物水和物・クロルフェニラミンマレイン酸塩・グリチルリチン酸二カリウム	ペレックストローチ	大鵬薬品
リゾチーム塩酸塩・グリチルリチン酸二カリウム・デカリニウム塩化物	ノバポン L トローチ	田辺三菱製薬
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・セチルピリジニウム塩化物水和物	チョコラ BB 口内炎リペアショット	エーザイ
アズレンスルホン酸ナトリウム・グリチルリチン酸・セチルピリジニウム塩化物水和物	サトウ口内軟膏	佐藤製薬
フッ化ナトリウム	エフコート	サンスター

(19)皮膚外用薬

<①殺菌消毒薬、②しもやけ・あかぎれ用薬、③液体絆創膏、④鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬、⑤殺虫剤、⑥毛髪用薬、⑦化膿性疾患用薬、⑧抗真菌薬、⑨抗ウイルス薬>

(注意)

- 多くの軟膏には糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質が含まれているが、2005.1.1 から皮膚外用薬としての糖質コルチコイドは使用可能になった。
→糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止、それ以外の投与経路については禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。

<使用可能薬例> *:医薬部外品

成分名	代表的な販売名	販売会社名
① 殺菌消毒薬		
ポビドンヨード	イソジンきず薬 イソジン軟膏	シオノギヘルスケア シオノギヘルスケア
オキシドール	オキシドール	各社
ベンザルコニウム塩化物	オスバン S ラビネット P	武田薬品 健栄製薬
クロルヘキシジングルコン酸塩	ヒビスコール S	サラヤ

セチルピリジニウム塩化物水和物・クロルフェニラミンマレイン酸塩・ジブカイン塩酸塩・ナファゾリン塩酸塩	キズアワワ	小林製薬
ベンザルコニウム塩化物・ナファゾリン塩酸塩・ジフェンヒドラミン塩酸塩・ジブカイン塩酸塩	新レブメント-FN	湧永製薬
ベンゼトニウム塩化物・アラントイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩	マキロン S	第一三共ヘルスケア
ベンゼトニウム塩化物・アラントイン	ムヒのきず液	池田模範堂
② しもやけ・あかぎれ用薬		
白色ワセリン	白色ワセリン	各社
ヘパリン類似物質	HP クリーム アットノン	ノバルティスファーマ 小林製薬
ヘパリン類似物質・ジフェンヒドラミン・トメントール	シモアキュア	小林製薬
トコフェロール酢酸エステル・ニコチン酸ベンジルエステル・ジフェンヒドラミン・グリチルリチン酸二カリウム	ハイスキール	佐藤製薬
③ 液体絆創膏		
ピロキシリン	サカムケア a	小林製薬
ピロキシリン・d-カンフル	コロスキン	東京甲子社
④ 鎮痛・鎮痒・収れん・消炎薬		
インドメタシン	インサイドテープ バンテリンコーワ新ミニパット	エスエス製薬 興和新薬
インドメタシン・トメントール	サロンパス EX バンテリンコーワ液 S バンテリンコーワゲル LT	久光製薬 興和新薬 興和新薬
ケトプロフェン・トメントール	オムニードケトプロフェンパップ	テイコクファルマケア
フェルビナク	ナボリン フェルビナク 70 パスタイム FX7 フェイタスシップ メンフラ フェルビナク	エーザイ 祐徳薬品 久光製薬 大正製薬
フェルビナク・トメントール	サロメチール FB ゲル α ゼノールエクサム SX ゼノールエクサム液ゲル	佐藤製薬 大鵬薬品 大鵬薬品
ジクロフェナクナトリウム	サロメチールジクロローション ジクロテクト PRO テープ ボルタレン EX テープ ボルタレン AC ローション	佐藤製薬 大正製薬 ノバルティスファーマ ノバルティスファーマ
ジクロフェナクナトリウム・トメントール	ジクロテクト PRO スプレー フェイタス Zα ローション ボルタレン EX スプレー	大正製薬 久光製薬 ノバルティスファーマ
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン S テープ ロキソニン S パップ ロキソニン S ゲル	第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア 第一三共ヘルスケア
サリチル酸グリコール・dl-トメントール・グリチルレチン酸	アイスラブゲル	ロート製薬
サリチル酸グリコール・トメントール・トコフェロール酢酸エステル	トクホン E	大正製薬

サリチル酸メチル・トメントール・dl-カンフル・ノナン酸バニリルアミド・クロルフェニラミンマレイン酸塩・チモール	アンメルツヨココ	小林製薬
サリチル酸メチル・トメントール・ハッカ油・dl-カンフル・ノニル酸ワニリルアミド・トコフェロール酢酸エステル	メンフラ A	大正製薬
サリチル酸グリコール・トメントール・ノニル酸ワニリルアミド・ビタミンE 酢酸エステル・グリチルリチン酸	トクホン チール A	大正製薬
クロタミトン・ジフェンヒドラミン塩酸塩・グリチルレチン酸・アラントイン・イソプロピルメチルフェノール・トコフェロール酢酸エステル	オイラックスソフト	第一三共ヘルスケア
ジフェンヒドラミン塩酸塩・リドカイン・グリチルレチン酸・パンテノール・トコフェロール酢酸エステル	近江兄弟社メンターム EX ソフト	近江兄弟社
リドカイン・トコフェロール酢酸エステル・ジフェンヒドラミン塩酸塩・イソプロピルメチルフェノール	フェミニーナ軟膏 S	小林製薬
ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸・トメントール・dl-カンフル・イソプロピルメチルフェノール	ムヒ S	池田模範堂
ジフェンヒドラミン塩酸塩・パンテノール・トコフェロール酢酸エステル・グリチルレチン酸	ムヒソフト GX ムヒソフト GX 乳状液	池田模範堂 池田模範堂
クロタミトン・ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸・イソプロピルメチルフェノール・トコフェロール酢酸エステル	ユースキン I ユースキン I ローション ユースキン N	ユースキン製薬 ユースキン製薬 ユースキン製薬
ジフェンヒドラミン塩酸塩・酸化亜鉛・グリチルレチン酸	レスタミンコーワパウダークリーム	興和新薬
ウフェナマート・ジフェンヒドラミン・グリチルレチン酸	ロバック U	武田薬品
⑤ 殺虫薬		
ディート	キンカン虫よけスプレーP* サラテクト FA スキンベープミスト SH ムヒの虫よけムシペール α	金冠堂 アース製薬 フマキラー 池田模範堂
⑥ 毛髪用薬		
ミノキシジル	リアップ	大正製薬
⑦ 化膿性疾患用薬		
イブプロフェンピコノール	エバユースにきび薬 フレッシュアクネクリーム	第一三共ヘルスケア 久光製薬
イブプロフェンピコノール・イソプロピルメチルフェノール	ペアアクネクリーム W	ライオン
クロルヘキシジングルコン酸塩	オロナイン H 軟膏	大塚製薬
コリスチン硫酸塩・バシトラシン	ドルマイシン軟膏	ゼリア新薬
オキシテトラサイクリン塩酸塩・ポリミキシン B 硫酸塩	テラマイシン軟膏 a	ジョンソン・エンド・ジョンソン
⑧ 抗真菌薬		
アモロルフィン塩酸塩	トークール	杏林製薬
ラノナゾール・クロルフェニラミンマレイン酸塩・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール	ピロエース Z ジェットスプレー	第一三共ヘルスケア

ブテナフィン塩酸塩・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール・ベンザルコニウム塩化物	スコルバ EX	武田薬品
ブテナフィン塩酸塩・塩酸リドカイン・dl-カンフル	ラマストン MX2 ラマストン MX2 液 ラマストン MX2 ゲル	佐藤製薬 佐藤製薬 佐藤製薬
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール AT 液 ラミシール AT クリーム	GSK GSK
テルビナフィン塩酸塩・ジフェンヒドラミン塩酸塩・グリチルレチン酸・イソプロピルメチルフェノール	バリアクト Hi 液 バリアクト Hi クリーム	ゼリア新薬 ゼリア新薬
オキシコナゾール硝酸塩・リドカイン・クロタミトン・グリチルレチン酸・トメントール	ニュータムシチンキゴールド a	小林製薬
ビホナゾール	エーワン L エーワン L クリーム エーワン L スプレー	三友薬品 三友薬品 三友薬品
ミコナゾール硝酸塩・クロタミトン・リドカイン・グリチルレチン酸ニカリウム・尿素	ダマリン L ダマリン S	大正製薬 大正製薬
⑨ 抗ウイルス薬		
アシクロビル	アクチビア軟膏 ヘルペシアクリーム	GSK 大正製薬
ビダラビン	アラセナ S アラセナ S クリーム	佐藤製薬 佐藤製薬

6. 使用可能薬リスト 2017 年版 / 医療用医薬品:ETHICAL DRUGS

はじめに

- 禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(禁止表で規定される方法や添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の医療用医薬品の例をあげました。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 使用可能薬リストの医薬品は、主要な製品を記載してあります。「他」と書いてあるものは、記載以外にも医薬品があることを意味します。メーカー名は(製造販売-発売・販売)です。
- ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、先発医薬品と同一の有効成分を含有し、基本的には変わりません。
- 生薬や植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**

(1) 解熱・鎮痛・抗炎症薬 <①非ピリン系解熱鎮痛薬、②配合剤、③非ステロイド性抗炎症薬、④片頭痛治療薬>

● かぜ薬についての基本的な考え方

カフェインなどが禁止物質から外れたため、禁止物質を含む総合感冒薬は少なくなった。しかし、カフェインは禁止物質からは外れたが、モニタリング物質として使用をモニターされる。

いずれにせよ、かぜのウイルスに直接作用する薬はないので、症状に合わせて禁止物質を含まない薬を選択し、使用する方が安全である。

(注意)

- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)は競技会(時)禁止物質。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)
- よく使われる漢方薬(葛根湯・小青竜湯・麻黄湯・麻黄附子細辛湯など)には禁止物質(麻黄・附子・細辛)が含まれている。
→漢方のかぜ薬は穏やかと思われがちだが、麻黄にはエフェドリン類、附子・細辛にはヒゲナミンなどの禁止物質が含まれている。
- モニタリング物質のカフェイン(2004.1.1 より禁止物質からモニタリング物質に変更)、トラマドールは使用可能であるが、検査結果は従来通り報告されることがある。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 非ピリン系解熱鎮痛薬	
アセトアミノフェン(パラセタモール)	カロナール(あゆみ)他
② 配合剤(頭痛、感冒など)	
アスピリン・ダイアルミネート	パファリン配合錠 A330(ライオン-エーザイ)他
アンチピリン・カフェイン・クエン酸	ミグレニン(各社)
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 配合顆粒(杏林)
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	PL 配合顆粒(塩野義)、幼児用 PL 配合顆粒(塩野義)、ピーエイ配合錠(全星-全星、田辺三菱、田辺製薬販売、沢井、ニプロ)、トーフチーム配合顆粒(東和)他
サリチルアミド・アセトアミノフェン・無水カフェイン・クロルフェニラミンマレイン酸塩	ペレックス配合顆粒(大鵬)、小児用ペレックス配合顆粒(大鵬)

イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アシルイソプロピルアセチル尿素・無水カフェイン	SG 配合顆粒(塩野義)
③ 非ステロイド性抗炎症薬	
－酸性抗炎症薬－	
アスピリン	アスピリン(各社)
アセメタシン	ランツジールコーワ錠(興和-興和創薬)
アンピロキシカム	フルカムカプセル(ファイザー)他
アンフェナクナトリウム水和物	フェナゾックスカプセル(Meiji Seika)
イブプロフェン	ブルフェン(科研)他
インドメタシン	インテバン SP(帝國)他
インドメタシンファルネシル	インフリー(エーザイ)
エトドラク	オステラック錠(あすか-武田)、ハイペン錠(日本新薬)他
オキサプロジン	アルボ錠(大正-大正富山)
ケトプロフェン	ケトプロフェン坐剤(各社)
ザルトプロフェン	ソルトン錠(日本ケミファ)、ペオン錠(ゼリア)他
ジクロフェナクナトリウム	ナポール SR カプセル(久光)、ボルタレン(ノバルティス)他
スリンダク	クリノリル錠(日医エ-杏林)
セレコキシブ	セレコックス錠(アステラス)
ナブメトン	レリフェン錠(三和化学)
ナプロキセン	ナイキサン錠(田辺三菱-田辺製薬販売)
ピロキシカム	バキソ(富山化学-大正富山)他
プラノプロフェン	ニフラン錠(田辺三菱)他
フルルビプロフェン	フロベン(科研)他
メフェナム酸	ポンタール(第一三共)他
メロキシカム	モービック錠(日本ベーリンガー)他
モフェゾラク	ジソペイン錠(田辺三菱)
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン(第一三共)他
ロルノキシカム	ロルカム錠(大正-大正富山)
－塩基性抗炎症薬－	
チアラミド塩酸塩	ソランタール錠(アステラス)
－その他－	
ブレガバリン	リリカカプセル(ファイザー)
④ 片頭痛治療薬	
エルトリプタン臭化水素酸塩	レルパックス錠(ファイザー)
スマトリプタンコハク酸塩	イミグラン(GSK)他
ゾルミトリプタン	ゾーミッグ(アストラゼネカ)他
ナラトリプタン塩酸塩	アマージ錠(GSK)
リザトリプタン安息香酸塩	マクサルト(杏林-エーザイ)
塩酸ロメリジン	ミグシス錠(ファイザー)

(2) 中枢性筋弛緩薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
アフロクアロン	アロフト錠(田辺三菱-田辺製薬販売)他
エペリゾン塩酸塩	ミオナール(エーザイ)他
クロルフェネシンカルバミン酸エステル	リンラキサー錠(大正-大正富山)他
チザニジン塩酸塩	テルネリン(ノバルティス)他

(3) 鎮咳・去痰薬

(注意)

- エフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、附子・丁子・細辛・南天実・呉茱萸(いずれもヒゲナミンを含む)、トキシフェナミン、トリメキノールは禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬、S6.興奮薬)
→トキシフェナミン、トリメキノールは WADA 禁止表に名称の記載はないが、類似の化学構造または類似の薬理効果を有するものとして禁止される。
- コデインは、2017.1.1 よりモニタリング物質に追加され、禁止はされないが、検査結果は報告される。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
—中枢性鎮咳薬—	
エプラジノン塩酸塩	レスプレン錠(中外)
クロペラスチン	フスタゾール(田辺三菱)
クロフェダノール塩酸塩	コルドリン(日本新薬)
コデインリン酸塩水和物	コデインリン酸塩(各社)
ジメモルファンリン酸塩	アストミン(オーファンパシフィック)他
チペピジンヒベンズ酸塩	アスベリン(田辺三菱-田辺製薬販売)
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	メジコン散・錠(塩野義)他
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・クレゾールスルホン酸カリウム	メジコン配合シロップ(塩野義)
ベントキシベリンクエン酸塩	トクレスパンスールカプセル(大日本住友)他
ベンプロベリンリン酸塩	フラベリック錠(ファイザー)
—去痰薬—	
L-カルボシステイン	ムコダイン(杏林)他
アンブロキシソール塩酸塩	ムコソルバン(帝人)、ムコサール(日本ベーリンガー)他
フドステイン	クリアナール(田辺三菱)他
ブロムヘキシソール塩酸塩	ビソルボン錠・細粒(日本ベーリンガー)他

(4) 気管支拡張・喘息・COPD 治療薬

(注意)

- ベータ2作用薬は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬)
- 禁止物質「ベータ2作用薬」のうち、吸入サルブタモール(24時間で最大1600 μ g、12時間ごとに800 μ gを超えない)*、吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量54 μ g)*および吸入サルメテロール(24時間で最大200 μ g)は禁止されず、TUEも不要。
*尿中サルブタモールが1000ng/mL、あるいは尿中ホルモテロールが40ng/mLを超える場合は、違反が疑われる分析報告(AAF)として扱われる。
→サルタノールインヘラー、ベネトリン吸入液、アイロミールエアゾール、シムビコートタービュヘイラー(ブデソニドとの配合剤)、アドエアエアゾール、アドエアディスク(いずれもフルチカゾンプロピオン酸エステルとの配合剤)、フルティフォームエアゾール(フルチカゾンプロピオン酸エステルとの配合剤)、セレベントロタディスク、セレベントディスク、オーキシスタービュヘイラー**の10製品が上記3成分を含有する吸入薬。
**ホルモテロールは24時間で最大18 μ g。
- 糖質コルチコイドの吸入使用は禁止されない。
- エフェドリン、メチルエフェドリン、プソイドエフェドリン、麻黄・半夏(いずれもエフェドリン類を含む)、附子・丁子・細辛・南天実・呉茱萸(いずれもヒゲナミンを含む)は禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2作用薬、S6.興奮薬)
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーキサンチン誘導体ー	
アミノフィリン水和物	ネオフィリン原末・錠(サンノーバーエーザイ)
テオフィリン	テオドル(田辺三菱)、ユニフィルLA錠(大塚)、テオロング(エーザイ)、スロービッド(サンド)他
ーロイコトリエン拮抗薬ー	
プラナルカスト水和物	オノン(小野)他
モンテルカストナトリウム	キプレス(杏林)、シングレア(MSD)他
ー抗コリン薬(吸入)ー	
イプラトロピウム臭化物水和物	アトロベントエロゾル(帝人)
グリコピロニウム臭化物	シーブリ吸入用カプセル(ノバルティス)
チオトロピウム臭化物水和物	スピリーバ(日本ベーリンガー)

<使用可能薬例(吸入ベータ2作用薬、吸入ベータ2作用薬+吸入糖質コルチコイド、吸入糖質コルチコイド)>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー吸入ベータ2作用薬ー	
サルブタモール硫酸塩	アイロミールエアゾール(大日本住友)、サルタノールインヘラー(GSK)、ベネトリン吸入液(GSK)
サルメテロールキシナホ酸塩	セレベント(GSK)
ホルモテロールフマル酸塩水和物	オーキシスタービュヘイラー(アストラゼネカ-Meiji Seika)
ー吸入ベータ2作用薬 +吸入糖質コルチコイドー	
サルメテロールキシナホ酸塩・フルチカゾンプロピオン酸エステル	アドエア(GSK)
ホルモテロールフマル酸塩水和物・ブデソニド	シムビコートタービュヘイラー(アストラゼネカ-アステラス)
ホルモテロールフマル酸塩水和物・フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルティフォームエアゾール(杏林)

ー吸入糖質コルチコイドー シクレソニド	オルベスコインヘラー(帝人)
ブデソニド	パルミコート(アストラゼネカ)
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルタイド(GSK)
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	キュバールエアゾール(大日本住友)
モメタゾンフランカルボン酸エステル	アズマネックスツイストヘラー(MSD)

(5)アレルギー治療薬

(注意)

- 糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は競技会(時)禁止。
(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは投与形態により申請方法が異なる。経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はTUEが必要、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- プソイドエフェドリンは競技会(時)禁止物質(WADA 禁止表 S6.興奮薬、b.特定物質)で、尿中濃度 $150 \mu\text{g}/\text{mL}$ を超える場合は禁止される。
→プソイドエフェドリンが配合されているディレグラ配合錠(サノフィ)がアレルギー性鼻炎治療薬として販売されている。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ー抗ヒスタミン薬ー	
クレマスチンフマル酸塩	タベジール(ノバルティス)、テルギンG(高田-マルホ)他
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ(高田)他
クロルフェニラミンマレイン酸塩	アレルギーン散(第一三共)、クロダミンシロップ(日医工)、ネオレストアミンコーワ散(興和-興和創薬)他
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ錠(興和-興和創薬)
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	ペリアクチン(日医工)他
プロメタジン	ヒベルナ散・糖衣錠(田辺三菱)、ピレチア(高田)
メキタジン	ゼスラン(旭化成)、ニポラジン(アルフレッサ)他
ー抗アレルギー薬ー	
アゼラスチン塩酸塩	アゼプチン錠(エーザイ)他
エバステン	エバステル(大日本住友-Meiji Seika)他
エピナスチン塩酸塩	アレジオン(日本ベーリンガー)他
エメダスチンフマル酸塩	レミカットカプセル(興和-興和創薬)他
オキサトミド	セルテクト(協和発酵キリン)他
オロパタジン塩酸塩	アレロック(協和発酵キリン)他
クロモグリク酸ナトリウム	インタール(サノフィ)他
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン(ノバルティス)、ジキリオンシロップ(日医工-高田)他
スプラタストシル酸塩	アイピーディ(大鵬)他
セチリジン塩酸塩	ジルテック(ユーシービー-第一三共、GSK)他
デスロラタジン	デザレックス錠(MSD)
トラニラスト	リザベン(キッセイ)他
トラネキサム酸	トランサミンカプセル・錠・散・シロップ(第一三共)他
ヒドロキシジン	アタラックス(ファイザー)他
フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラ(サノフィ)他

ベポタスチンベシル酸塩	タリオン(田辺三菱)
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ホモクロミン錠(エーザイ)他
ラマトロバン	バイナス錠(バイエル-日本新薬)
レボセチリジン塩酸塩	ザイザル(GSK)
ロラタジン	クラリチン(バイエル-塩野義)他

(6) 抗めまい薬(乗り物酔い予防)

(注意)

- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ジフェンドール塩酸塩	セファドール(日本新薬)他
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン	トラベルミン配合錠(サンノーバー-エーザイ)
ジメンヒドリナート	ドラマミン錠(陽進堂)
ベタヒスチンメシル酸塩	メリスロン錠(エーザイ)他

(7) 胃腸薬<①胃炎・胃潰瘍、②腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)、③胃腸機能調整薬>

(注意)

- 局所麻酔薬(オキセサゼイン等)は2004.1.1から使用可能となった。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 胃炎・胃潰瘍	
—H₂受容体拮抗薬—	
シメチジン	タガメット錠・細粒(大日本住友)、カイロック細粒(藤本)他
ニザチジン	アシノン錠(ゼリア)他
ファモチジン	ガスター錠・D錠・散(アステラス)他
ラニチジン塩酸塩	ザンタック錠(GSK)他
ラフチジン	プロテカジン(大鵬)他
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	アルタットカプセル・細粒(あすか-武田)他
—プロトンポンプ阻害薬—	
エソメプラゾール	ネキシウムカプセル(アストラゼネカ-第一三共)
オメプラゾール	オメプラール錠(アストラゼネカ)、オメプラゾン錠(田辺三菱)他
ラベプラゾールナトリウム	パリエット錠(エーザイ-EAファーマ)他
ランソプラゾール	タケプロンカプセル・OD錠(武田)他
—プロトンポンプ阻害・酸抑制—	
ボノプラザン	タケキャブ錠(武田)
—酸中和薬—	
乾燥水酸化アルミニウムゲル・水酸化マグネシウム	マーロックス懸濁用配合顆粒(サノフィ)、マルファ懸濁用配合顆粒(東洋製化-小野)他
合成ケイ酸アルミニウム	合成ケイ酸アルミニウム(各社)

－粘膜抵抗強化薬－ アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール(日本新薬)
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・L-グルタミン	マーズレン(寿)、グリマック配合顆粒(沢井)他
アルギン酸ナトリウム	アルロイド G(カイゲンファーマ)他
アルジオキサ	イサロン(あすか-武田)他
エカベトナトリウム水和物	ガストローム顆粒(田辺三菱)他
スクラルファート水和物	アルサルミン(中外)他
ボラブレジンク	プロマック(ゼリア)他
メチルメチオニンスルホニウムクロリド	キャベジン U コーワ錠(興和-興和創薬)他
－粘液産生・分泌促進薬－ テプレノン	セルベックス(エーザイ-EA ファーマ)他
レバミピド	ムコスタ(大塚)他
－胃粘膜微小循環改善薬－ セトラキサート塩酸塩	ノイエル(第一三共エスファ)他
ソファルコン	ソロン(大正-大正富山)他
ベネキサート塩酸塩ベータデクス	ウルグートカプセル(塩野義)他
② 腹痛(鎮痙薬・粘膜分泌抑制薬)	
ブチルスコポラミン臭化物	ブスコパン錠(日本ベーリンガー)他
ブトロピウム臭化物	コリオパン(エーザイ)
チメピジウム臭化物水和物	セステンカプセル・細粒(田辺三菱-田辺製薬販売)他
ロートエキス	ロートエキス(各社)
③ 胃腸機能調整薬	
アコチアミド塩酸塩水和物	アコファイド錠(ゼリア-アステラス)
イトプリド塩酸塩	ガナトン錠(マイラン EPD-アステラス)他
ジメチルポリシロキサン	ガスコン(キッセイ)他
ドンペリドン	ナウゼリン(協和発酵キリン)他
メクロプラミド	エリーテン錠(高田)、テルペラン錠(あすか-武田)、プリンペラン錠・細粒・シロップ(アステラス)他
モサプリドクエン酸塩水和物	ガスモチン(大日本住友)他

(8) 総合消化酵素

(注意)

- 丁子(ヒゲナミンを含む)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S3.ベータ2 作用薬)
→生薬を配合する健胃消化剤には、丁子を含むものがある。丁子には、ベータ2 作用をもつヒゲナミンが含まれるので注意。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ジアスメン・ジアスターゼ・オノテース・モルシン・ボンラーゼ・セルロシン A.P.・パンクレアチン・ポリパーゼ・オノプローゼ A	タフマック E(小野)
濃厚膵臓性消化酵素・細菌性脂肪分解酵素・アスペルギルス産生消化酵素・繊維素分解酵素	ベリチーム配合顆粒(塩野義)
ヒロダーゼ・マミターゼ・リパーゼ A・セルラーゼ AP3・濃厚パンクレアチン	ポリトーゼ(武田)

(9)便秘治療薬

(注意)

- グリセロール(グリセリン)は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
→禁止される使用経路は特に限定されておらず、尿中に相当量のグリセリンが存在する場合は、ドーピング違反が疑われる。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－緩下剤－ カルメロースナトリウム(カルボキシメチルセルロースナトリウム)	バルコーゼ顆粒(サンノーバーエーザイ)、カルメロースナトリウム原末「マルイシ」(丸石)
酸化マグネシウム (略称:カマ、カマグ)	酸化マグネシウム(各社)、重質酸化マグネシウム(各社)、マグラックス(吉田)、マグミット(協和化工-丸石、日医工、シオエ、日本新薬、ニプロ)他
－刺激性下剤－ センノシド A・B	プルゼニド錠(サンファーマ)、センノシド錠(各社)他
ピコスルファートナトリウム水和物	ラクソベロン(帝人)、ピコダルム顆粒(日新:山形-ゼリア)、チャルドール(テバ)、スナイリンドライシロップ(マイラン EPD)他
ピサコジル	テレミンソフト坐薬(EA ファーマ-サンド)他
－その他－ 炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水素ナトリウム	新レシカルボン坐剤(京都-ゼリア)
ルビプロストン	アミティーザカプセル(スキャンポ-マイラン EPD)

(10)止痢・整腸薬

(注意)

- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－止痢薬－ タンニン酸アルブミン	タンナルビン(各社)、タンニン酸アルブミン(各社)
天然ケイ酸アルミニウム	アドソルビン原末(第一三共)
ベルベリン塩化物水和物	キョウベリン錠(大峰堂-日本化薬)
ロペラミド塩酸塩	ロペミン(ヤンセン)他
－整腸薬－ 耐性乳酸菌	エンテロノン-R 散(EA ファーマ)、 Bioフェルミン R(Bioフェルミン-武田)、ラックビー-R 散(興和-興和創薬)、レベニン(わかもと)他
ビフィズス菌	Bioフェルミン錠剤(Bioフェルミン-武田)、ビフィズゲン散(日東-大日本住友)、ラックビー微粒 N(興和-興和創薬)他
酪酸菌	ミヤ BM(ミヤリサン)
ラクトミン	アタバニン散(日東-大日本住友)他
ラクトミン・糖化菌	Bioフェルミン配合散(Bioフェルミン-武田)
乾燥酵母	乾燥酵母エビオス(アサヒ-アサヒグループ食品、田辺三菱)、乾燥酵母(各社)

ー過敏性腸症候群治療薬ー チキジウム臭化物	チアトン(マイラン EPD)他
トリメブチンマレイン酸塩	セレキノ(田辺三菱)他
ポリカルボフィルカルシウム	コロネル(アステラス)、ポリフル(マイラン EPD)他
メベンゾラート臭化物	トランコロン錠(アステラス)他
ラモセトロン塩酸塩	イリボー(アステラス)

(11) 頻尿・過活動膀胱治療薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
イミダフェナシン	ウリトス(杏林)、ステーブラ(小野)
オキシブチニン塩酸塩	ポラキス錠(サノフィ)、ネオキシテープ(久光-旭化成)他
コハク酸ソリフェナシン	ベシケア(アステラス)
酒石酸トルテロジン	デルシトールカプセル(ファイザー)
フェソテロジンフマル酸塩	トビエース錠(ファイザー)
フラボキサート塩酸塩	ブラダロン(日本新薬)他
プロピペリン塩酸塩	パップフォー(大鵬)他

(12) 前立腺肥大治療薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
シロドシン	ユリーフ(キッセイ-第一三共)
タムスロシン塩酸塩	ハルナールD錠(アステラス)他
ナフトピジル	フリバス(旭化成)他

(13) 肝疾患治療薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ウルソデオキシコール酸	ウルソ(田辺三菱)他
グリチルリチン酸モノアンモニウム・グリシン・DL-メチオニン	グリチロン配合錠(ミノファーゲン-EA ファーマ)、ネオファーゲンC配合錠(大鵬)他

(14) 高脂血症用薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーHMG-CoA 還元酵素阻害薬ー アトルバスタチンカルシウム水和物	リピトール錠(アステラス)他
シンバスタチン	リポバス錠(MSD)他
ピタバスタチンカルシウム水和物	リバロ(興和-興和創薬)
プラバスタチンナトリウム	メバロチン(第一三共)他
フルバスタチンナトリウム	ローコール錠(ノバルティス)他
ロスバスタチンカルシウム	クレストール(アストラゼネカ-塩野義)
ーフィブラート系ー クリノフィブラート	リポクリン錠(大日本住友)
フェノフィブラート	トライコア錠(マイラン EPD-帝人)、リピディル錠(あすか-科研、武田)他
ベザフィブラート	ベザトール SR 錠(キッセイ)、ベザリップ錠(中外)他
ープロブコールー プロブコール	シンレスターール(第一三共エスファ)、ロレルコ錠(大塚)他

(15) 血圧降下薬<①Ca拮抗薬、②ACE阻害薬、③アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬、④α遮断薬>

(注意)

- 全ての利尿薬は常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- ベータ遮断薬は特定競技において禁止。(WADA 禁止表 P2.ベータ遮断薬)
→ベータ遮断薬は8種目の競技において禁止(アーチェリー、射撃は常時禁止)。
- Ca拮抗薬、ACE阻害薬、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬、クロニジンは使用可能。
- テルミサルタンの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- 利尿薬が含有されている高血圧症治療配合剤(イルトラ、エカード、コディオ、プレミネント、ミコンビ 他)も複数発売されているので注意。利尿薬の配合剤も禁止。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① Ca拮抗薬	
ージヒドロピリジン系ー 第一世代 ニカルジピン塩酸塩	ペルジピン錠・散・LAカプセル(アステラス)他
ニフェジピン	アダラート(バイエル)、セパミット(MSD)他
第二世代 ニソルジピン	バイミカード錠(バイエル)他
ニルバジピン	ニバジール錠(アステラス)他
バルニジピン塩酸塩	ヒポカカプセル(アステラス)
ベニジピン塩酸塩	コニール錠(協和発酵キリン)他
マニジピン塩酸塩	カルスロット錠(武田)他

第三世代 アゼルニジピン	カルブブロック錠(第一三共)
アムロジピンベシル酸塩	アムロジン(大日本住友)、ノルバスク(ファイザー)他
ーベンゾチアゼピン系ー ジルチアゼム塩酸塩	ヘルベッサー錠・Rカプセル(田辺三菱)他
② ACE 阻害薬	
アラセプリル	セタプリル錠(大日本住友)他
イミダプリル塩酸塩	タナトリル錠(田辺三菱)他
エナラプリルマレイン酸塩	レニベース錠(MSD)他
カプトプリル	カプトリル(第一三共エスファ)他
キナプリル塩酸塩	コナン錠(田辺三菱)
シラザプリル水和物	インヒベース錠(中外)他
テモカプリル塩酸塩	エースコール錠(第一三共)他
デラプリル塩酸塩	アデカット錠(武田)
トランドラプリル	オドリック錠(日本新薬)、プレラン錠(サノフィ)他
ペナゼプリル塩酸塩	チバセン錠(ノバルティス)他
ペリンドプリルエルブミン	コバシル錠(協和発酵キリン)他
リシノプリル水和物	ゼストリル錠(アストラゼネカ)、ロンゲス錠(塩野義)他
③ アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬	
アジルサルタン	アジルバ錠(武田)
イルベサルタン	アバプロ錠(大日本住友)、イルベタン錠(塩野義)
オルメサルタンメドキシミル	オルメテック OD 錠(第一三共)
カンデサルタンシレキセチル	プロプレス錠(武田)他
テルミサルタン	ミカルディス錠(日本ベーリンガー―アステラス)
バルサルタン	ディオバン(ノバルティス)他
ロサルタンカリウム	ニューロタン錠(MSD)他
④ α 遮断薬	
ドキサゾシンメシル酸塩	カルデナリン(ファイザー)他
ブナゾシン塩酸塩	デタントール(エーザイ)
ブラゾシン塩酸塩	ミニプレス錠(ファイザー)

(16) 抗狭心薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
硝酸イソソルビド	ニトロール錠・Rカプセル・スプレー(エーザイ)、フランドル(トーアエイヨー―アステラス)、イソコロナール Rカプセル(佐藤-共和、日医工)他
ニトログリセリン	ニトロダーム TTS(ノバルティス)、ニトロペン舌下錠(日本化薬)、バソレーターテープ(三和化学)、ミオコールスプレー(トーアエイヨー―アステラス)、ミリステープ(日本化薬)他

(17) 催眠・鎮静・抗不安薬

(注意)

- 国境を越えた移動には厳重な規制があるので要注意！
→入国する国の規制、また、日本国内へ持ち込む際の規制がある。
- フルニトラゼパム製剤(販売名:サイレース、ロヒプノール他)の米国への持ち込みは量に関係なく一切禁止。
→不明な点は各国大使館に問い合わせる。
- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーベンゾジアゼピン系ー	
<u>超短期作用型</u> トリアゾラム	ハルシオン錠(ファイザー)他
<u>短期作用型</u> プロチゾラム	レンドルミン(日本ベーリンガー)他
リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー錠(塩野義)他
ロルメタゼパム	エバミール錠(バイエル)、ロラメット錠(あすか-武田)
<u>中期作用型</u> アルプラゾラム	コンスタン錠(武田)、ソラナックス錠(ファイザー)他
ニトラゼパム	ネルボン(第一三共)、ベンザリン(塩野義)他
フルニトラゼパム	サイレース錠(エーザイ)、ロヒプノール錠(中外)他
フルラゼパム塩酸塩	ダルメートカプセル(共和)
プロマゼパム	セニラン(サンド)、レキソタン(中外-エーザイ)
ロラゼパム	ワイパックス錠(ファイザー)他
<u>長期作用型</u> ジアゼパム	セルシン錠・散・シロップ(武田)他
<u>超長期作用型</u> ロフラゼプ酸エチル	メイラックス(Meiji Seika)他
ーチエノジアゼピン系ー	
エチゾラム	デパス(田辺三菱)他
クロチアゼパム	リーゼ(田辺三菱)他
ーバルビツール酸系ー	
ペントバルビタールカルシウム	ラボナ錠(田辺三菱)
ーその他ー	
<u>超短期作用型</u> エスゾピクロン	ルネスタ錠(エーザイ)
ゾピクロン	アモバン錠(サノフィ-日医工)他
ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー錠(アステラス)他
<u>短期作用型</u> ブロモバレリル尿素	ブロバリン原末(日本新薬)、ブロムワレリル尿素(各社)

メラトニン受容体アゴニスト ラメルテオン	ロゼレム錠(武田)
オレキシン受容体拮抗薬 スボレキサント	ベルソムラ錠(MSD)

(18) 抗精神病薬(悪心・嘔吐)

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
アリピプラゾール	エビリファイ(大塚)
オランザピン	ジプレキサ(イーライリリー)他
クエチアピンフマル酸塩	セロクエル(アステラス)他
クロザピン	クロザリル錠(ノバルティス)
スルピリド	ドグマチール(アステラス)、アブリット錠(大日本住友)他
パリペリドン	インヴェガ錠(ヤンセン)他
プロクロルペラジン	ノバミン(塩野義)
プロナンセリン	ロナセン(大日本住友)
ペロスピロン塩酸塩	ルーラン錠(大日本住友)他
リスペリドン	リスパダール(ヤンセン)他

(19) 抗うつ薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
エスシタロプラムシュウ酸塩	レクサプロ錠(持田-田辺三菱)
塩酸セルトラリン	ジェイゾロフト(ファイザー)他
デュロキセチン塩酸塩	サインバルタカプセル(塩野義-イーライリリー)
パロキセチン塩酸塩水和物	パキシル(GSK)他
フルボキサミンマレイン酸塩	デプロメール錠(Meiji Seika)、ルボックス錠(アツヴィ)他
ミルタザピン	リフレックス錠(Meiji Seika)、レメロン錠(MSD)
ミルナシبران塩酸塩	トレドミン錠(旭化成-ヤンセン)他

(20) 抗てんかん薬

(注意)

- アセタゾラミドは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ガバペンチン	ガバペン(ファイザー)
カルバマゼピン	テグレトール(ノバルティス)他
クロバザム	マイスタン(大日本住友-アルフレッサ)
クロナゼパム	リボトリール(中外)、ランドセン(大日本住友)
ゾニサミド	エクセグラン(大日本住友)他
バルプロ酸ナトリウム	セレニカ R(興和-田辺三菱、興和創薬)、デパケン(協和発酵キリン)他
フェニトイン	アレビアチン錠・散(大日本住友)、ヒダントール(藤永-第一三共)他
フェノバルビタール	フェノバル(藤永-第一三共)、フェノバルビタール(各社)他
フェノバルビタールナトリウム	ルピアール坐剤(久光)、ワコビタール坐剤(高田)
ラモトリギン	ラミクタール(GSK)
レベチラセタム	イーケプラ錠・ドライシロップ(ユーシービー-大塚)

(21) 自律神経系作用薬

(注意)

- 運動パフォーマンスの低下と、競技中の事故に注意！
→服薬による競技能力低下が考えられる。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
トフィソパム	グランダキシシ(持田)他

(22) 鉄欠乏性貧血薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
一経口用鉄剤	
クエン酸第一鉄ナトリウム	フェロミア(サンノーバー-エーザイ)他
フマル酸第一鉄	フェルムカプセル(日医工)
硫酸鉄	テツクール徐放錠(あすか-武田)、フェロ・グラデュメット錠(マイラン EPD)

(23) 痛風・高尿酸血症治療薬 <①発作治療薬、②尿酸排泄促進薬、③尿酸生成阻害薬、④尿アルカリ化薬>

- (注意)
- プロベネシドは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
 - ベンズプロマロンはプロベネシドと同じ尿酸排泄促進薬に分類されるが使用可能。
 - 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 発作治療薬	
コルヒチン	コルヒチン錠「タカタ」(高田)
② 尿酸排泄促進薬	
ベンズプロマロン	ユリノーム錠(鳥居)、ムイロジン細粒(寿)他
③ 尿酸生成阻害薬	
アロプリノール	ザイロリック錠(GSK)、リポール(メディサ-化研生薬)他
トピロキソスタット	ウリアデック錠(三和化学)、トピロリック錠(富士薬品)
フェブキソスタット	フェブリク錠(帝人)
④ 尿アルカリ化薬	
クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム水和物	ウラリット配合錠(日本ケミファ)他

(24) 糖尿病用薬

- (注意)
- インスリンは常時禁止物質。(WADA 禁止表 S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬)
 - インスリンを治療目的で使用する場合は、TUEが必要。
 - 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－スルホニルウレア系－	
グリクロピラミド	デアメリンS錠(杏林)
グリベンクラミド	オイグルコン錠(中外)、ダオニール錠(サノフィ)他
グリメピリド	アマリール(サノフィ)他
クロルプロパミド	アベマイド錠(小林化工)
－ビグアナイド系－	
メトホルミン塩酸塩	メトグルコ錠(大日本住友)、グリコラン錠(日本新薬)他
－インスリン抵抗性改善薬－	
ピオグリタゾン塩酸塩	アクトス(武田)他
－食後過血糖改善薬－	
アカルボース	グルコバイ(バイエル-富士フィルム)他
ボグリボース	ベイスン(武田)他
ミグリトール	セイブル(三和化学)
－DPP-4阻害薬－	
アナグリプチン	スイニー錠(三和化学-興和、興和創薬)
アログリプチン安息香酸塩	ネシーナ錠(武田)
オマリグリプチン	マリゼブ錠(MSD)
サキサグリプチン水和物	オングリザ錠(協和発酵キリン)

シタグリプチンリン酸塩水和物	グラクティブ錠(小野)、ジャヌビア錠(MSD)
テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物	テネリア錠(田辺三菱-第一三共)
トレラグリプチンコハク酸塩	ザファテック錠(武田)
ビルダグリプチン	エクア錠(ノバルティス)
リナグリプチン	トラゼンタ錠(日本ベーリンガー)
－GLP-1 受容体作動薬－	
エキセナチド	バイエッタ(アストラゼネカ)、ビデュリオン(アストラゼネカ)
リキシセナチド	リクスミア(サノフィ)
リラグルチド	ビクトーザ(ノボ)
－SGLT2 阻害薬－	
イプラグリフロジン L-プロリン	スーグラ錠(アステラス)
エンパグリフロジン	ジャディアンス錠(日本ベーリンガー)
カナグリフロジン水和物	カナグル錠(田辺三菱)
ダバグリフロジン	フォシーガ錠(アストラゼネカ-小野)
トホグリフロジン水和物	アプルウェイ錠(サノフィ)、デベルザ錠(興和-興和創薬)
ルセオグリフロジン水和物	ルセフィ錠(大正-大正富山、ノバルティス)

(25) 抗菌薬・抗生物質

(注意)

- ほとんどの抗菌薬、抗生物質は使用可能。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－ペニシリン系－	
アモキシシリン水和物	アモリン(武田)、サワシリン(アステラス)、パセトシン(協和発酵キリン)、ワイドシリン細粒(Meiji Seika)他
アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム	オーグメンチン配合錠(GSK)、クラバモックス小児用配合ドライシロップ(GSK)
アンピシリン水和物	ピクシリンカプセル・ドライシロップ(Meiji Seika)
スルタミシリントシル酸塩水和物	ユナシン(ファイザー)
－セフェム系－	
第一世代	
セファクロル	ケフラール(塩野義)他
セファレキシン	L-ケフレックス(塩野義)、ケフレックス(塩野義)、ラリキシ(富山化学-大正富山)、センセファリン(武田)他
セフロキサジン水和物	オラスポア小児用ドライシロップ(アルフレッサ)
第二世代	
セフォチアムヘキサチル塩酸塩	パンスポリン T 錠(武田)
セフロキシムアキセチル	オラセフ錠(GSK-第一三共)
第三世代(セファロスポリン系)	
セフィキシム水和物	セフспан(長生堂-日本ジェネリック)他
セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	フロモックス(塩野義)他
セフジトレンピボキシル	メイアクト MS(Meiji Seika)他
セフジニル	セフゾン(アステラス)他
セフテラムピボキシル	トミロン(富山化学-大正富山)他

セフチブテン水和物	セフテムカプセル(塩野義)
セフポドキシムプロキセチル	バナン(第一三共-GSK)他
ーアミノ配糖体系ー カナマイシンー硫酸塩 (略称:カナマイ)	カナマイシン(Meiji Seika)
ーテトラサイクリン系ー テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン(ポーラ)
デメチルクロルテトラサイクリン 塩酸塩	レダマイシンカプセル(ポーラ)
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	ビブラマイシン錠(ファイザー)
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン錠・カプセル・顆粒(ファイザー)他
ーマクロライド系ー アジスロマイシン水和物	ジスロマック(ファイザー)他
エリスロマイシン	エリスロシン(マイラン EPD)、エリスロマイシン錠(沢井)
クラリスロマイシン	クラリシッド(マイラン EPD)、クラリス(大正-大正富山)他
ジョサマイシン	ジョサマイシン錠(アステラス)他
ホスホマイシンカルシウム水和物	ホスミシン錠・ドライシロップ(Meiji Seika)他
ロキシスロマイシン	ルリッド錠(サノフィ)他

(26)化学療法剤

(注意)

- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーニューキノロン系ー シプロフロキサシン	シプロキサシン錠(バイエル)他
オフロキサシン	タリビッド錠(第一三共)他
シタフロキサシン水和物	グレースビット(第一三共)
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス(富山化学-大正富山)、トスキサシン錠(マイラン EPD)他
ノルフロキサシン	バクシダール錠(杏林)他
メシル酸ガレノキサシン水和物	ジェニナック錠(富山化学-アステラス)
モキシフロキサシン塩酸塩	アベロックス錠(バイエル-富士フィルム)
レボフロキサシン水和物	クラビット錠・細粒(第一三共)他
ーST合剤ー スルファメトキサゾール・トリメトプリム	バクタ(塩野義)、バクトラミン配合錠・配合顆粒(中外)他

(27)抗真菌薬

(注意)

- ほとんどの抗真菌薬は使用可能。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
イトラコナゾール	イトリゾールカプセル・内用液(ヤンセン)他
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール錠(ノバルティス)他
フルコナゾール	ジフルカンカプセル・ドライシロップ(ファイザー)他
ミコナゾール	フロリード(持田)他

(28)抗ウイルス薬

(注意)

- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。
- ラピアクタは、1回60mLの点滴になるが、「医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)、外科手術、または臨床的検査において正当に受けるもの」は禁止ではない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
ーヘルペスウイルス感染症治療薬ー	
アシクロビル	ゾビラックス錠・顆粒・軟膏・クリーム(GSK)他
バラシクロビル塩酸塩	バルトレックス(GSK)他
ピダラビン	アラセナ-A軟膏・Aクリーム(持田)他
ファミシクロビル	ファミビル錠(旭化成-マルホ)
ーインフルエンザ治療薬ー	
アマンタジン塩酸塩	シンメトレル(ノバルティス)他
オセルタミビルリン酸塩	タミフル(中外)
ザナミビル水和物	リレンザ(GSK)
ラニナミビルオクタン酸エステル水和物	イナビル吸入粉末剤(第一三共)
ペラミビル水和物	ラピアクタ(塩野義)

(29)ワクチン(保険適用外)

(注意)

- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
インフルエンザ HA ワクチン	インフルエンザ HA ワクチン(各社)
組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	サーバリックス(GSK)
組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	ガーダシル(MSD)

(30) 甲状腺疾患治療薬

(注意)

- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－甲状腺ホルモン－ リオチロニンナトリウム	チロナミン錠(武田)
レボチロキシナトリウム水和物	チラーヂン S(あすか-武田)他
－抗甲状腺薬－ チアマゾール	メルカゾール錠(あすか-武田)
プロピルチオウラシル	チウラジール錠(田辺三菱)、プロパジール錠(あすか-武田)

(31) 経口避妊薬(保険適用外)

(注意)

- 既往歴、喫煙により危険性あり。
- 性感染症の予防にはならない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
エチニルエストラジオール・デソゲステレル	マーベロン 21、28(MSD)、ファボワール錠 21、28(富士製薬)
エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	オーソ 777-21 錠(ヤンセン-持田)、オーソ M-21 錠(ヤンセン-持田)、シンフェーズ T28 錠(科研)
エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル	アンジュ 21 錠、28 錠(あすか-武田)、トリキュラー錠 21、28(バイエル)、ラベルフィーユ 21 錠、28 錠(富士製薬)
レボノルゲステレル	ノルレボ錠(あすか-武田)

(32) 卵胞、黄体、混合ホルモン

(注意)

- 卵胞ホルモンは経口避妊薬としても用いられる。
- 黄体ホルモン、卵胞及び黄体ホルモン配合剤は月経周期の移動、避妊にも用いられる。
- ドロスピレノンの使用は禁止されない。
- 静脈内注入および／または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－卵胞ホルモン－ 結合型エストロゲン	プレマリン錠(ファイザー)
－黄体ホルモン－ ジドロゲステロン	デュファストン錠(マイラン EPD)
ノルエチステロン	ノアルテン錠(富士製薬)

－卵胞・黄体ホルモン配合剤－ エチニルエストラジオール・ドロスピレノン	ヤーズ配合錠(バイエル)
エストラジオール・酢酸ノルエチステロン	メノエイドコンビパッチ(あすか-武田)
エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	ルナベル配合錠 LD、ULD(ノーベル-日本新薬、富士製薬)
エチニルエストラジオール・ノルゲストレル	プラノバール配合錠(あすか-武田)
ノルエチステロン・メストラノール	ソフィア A 配合錠(あすか-武田)、ソフィア C 配合錠(あすか-武田)

(33) 痔疾用薬

(注意)

- 坐薬・軟膏には糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質を含むものがある。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止。
 - 糖質コルチコイドを含む注入軟膏・坐剤などを直腸経由で使用することは禁止。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－経口剤－ トリベノシド	ヘモクロンカプセル(天藤-武田)他
プロメライン・トコフェロール酢酸エステル	ヘモナーゼ配合錠(ジェイドルフ-堀井)
－坐薬・軟膏－ 大腸菌死菌浮遊液	ポステリザン(軟膏)(マルホ)
トリベノシド・リドカイン	ボラザ G(天藤-武田)
リドカイン・アミノ安息香酸エチル・次没食子酸ビスマス	ヘルミチン S 坐剤(長生堂-日本ジェネリック)

(34) 耳鼻咽喉科用薬

(注意)

- 多くの点鼻薬には、ナファゾリンなどの血管収縮剤や糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質、またはその関連物質が含まれている。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド)
 - 糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。
 - ナファゾリン、テトラヒドロゾリン、トラマゾリンなどのイミダゾール誘導体は、点鼻などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－血管収縮薬－ ナファゾリン硝酸塩	プリビナ液(ノバルティス)
塩酸テトラヒドロゾリン	テトラヒドロゾリン鼻用スプレー(原沢-ミナト)
トラマゾリン塩酸塩	トラマゾリン点鼻液(アルフレッサ)

ーアレルギー性鼻炎治療薬ー クロモグリク酸ナトリウム	インタール点鼻液(サノフィ)他
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン点鼻液(ノバルティス)他
フルチカゾンプロピオン酸エステル	フルナーゼ(GSK)他

(35)眼科用薬<①感染症、②ビタミン類・疲れ目、③アレルギー性結膜炎、④緑内障治療薬、⑤その他>

(注意)	
●	眼科用薬には、ナファゾリンなどの血管収縮剤や、糖質コルチコイドなどの競技会(時)禁止物質または関連物質が含まれているものがある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬、S9.糖質コルチコイド) →糖質コルチコイドは、経口使用、経直腸使用、静脈内使用、筋肉内使用はすべて禁止、それ以外の使用経路は禁止されない。 →ナファゾリンなどのイミダゾール誘導體は、点眼などの局所使用は許される。しかし、何回も多量に使用して体内に吸収されると、ドーピング違反が疑われる可能性がある。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
●	緑内障治療薬のドルゾラミド(販売名:トルソプト点眼液)およびプリンゾラミド(販売名:エイゾプト懸濁性点眼液)等、炭酸脱水素酵素阻害薬の眼科使用は禁止されない。
●	ベータ遮断薬は、特定競技において禁止。(WADA 禁止表 P2.ベータ遮断薬) →ベータ遮断薬は8種目の競技において禁止(アーチェリー、射撃は常時禁止)。ベータ遮断薬を含む配合剤(アゾルガ、コソプト、ザラカム、デュオトラバ、タプコム等)に注意。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 感染症	
ー抗生物質ー	
エリスロマイシンラクチオン酸塩・コリスチンメタンサルホン酸ナトリウム	エコリシン(参天)他
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタロール点眼液(日本点眼薬)他
ー抗菌薬ー	
オフロキサシン	タリビッド(参天)他
ガチフロキサシン水和物	ガチフロ点眼液(千寿-武田)
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス点眼液(富山化学-大塚)、トスフロ点眼液(日東メディック)
ノルフロキサシン	バクシダール点眼液(杏林-千寿、武田)他
モキシフロキサシン塩酸塩	ベガモックス点眼液(日本アルコン)
レボフロキサシン水和物	クラビット点眼液(参天)他
ー抗ウイルス薬ー	
アシクロビル	ゾビラックス眼軟膏(GSK-参天)他
② ビタミン類・疲れ目	
シアノコバラミン	サンコバ点眼液(参天)、ソフティア点眼液(千寿-武田)他
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	FAD 点眼液(各社)、フラビタン(トーアエイヨー-アステラス)
③ アレルギー性結膜炎	
エピナスチン塩酸塩	アレジオン点眼液(参天)
オロパタジン塩酸塩	パタノール点眼液(日本アルコン-協和発酵キリン)
クロモグリク酸ナトリウム	インタール点眼液(サノフィ)他
ケトチフェンフマル酸塩	ザジテン点眼液(日本アルコン)他

トラニラスト	リザベン点眼液(キッセイ)、トラメラス(ニッテン-日本点眼薬)他
ペミロラストカリウム	アレギサル点眼液(参天)、ペミラストン点眼液(アルフレッサ)他
レボカバステチン塩酸塩	リボスチン点眼液(ヤンセン-参天、日本新薬)他
④ 緑内障治療薬	
イソプロピルウノプロストン	レスキュラ点眼液(アールテック-参天)他
タフルプロスト	タプロス(参天)
トラボプロスト	トラバタンズ点眼液(日本アルコン)
ラタノプロスト	キサラタン点眼液(ファイザー)他
ドルゾラミド塩酸塩	トルソプト点眼液(参天)
ブリンゾラミド	エイゾプト懸濁性点眼液(日本アルコン)
⑤ その他	
ジクアホソルナトリウム	ジクアス点眼液(参天)
ホウ酸・塩化ナトリウム・塩化カリウム・乾燥炭酸ナトリウム・リン酸水素ナトリウム水和物	人工涙液マイティア点眼液(千寿-武田)
ヒアルロン酸ナトリウム	オペガン(生化学-参天)、オペリド(資生堂-千寿、武田)、ヒーロン(エイエムオー)、ヒアレイン(参天)他
レバミピド	ムコスタ点眼液 UD(大塚)
プラノプロフェン	ニフラン点眼液(千寿-武田)他

(36) 口腔用薬

(注意)

- 糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止。
(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドの口腔内の疾患に対する局所的使用は禁止されない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－含嗽薬－ アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノールうがい液(日本点眼薬-日本新薬)、マズレニンガーゲル散(丸石-ニプロ)他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ顆粒(東洋製化-小野)他
ポビドンヨード	イソジンガーゲル液(ムンディ-塩野義)他
－口腔内炎症治療薬－ アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール ST 錠口腔用(日本新薬)
デキサメタゾン	アフタゾロン口腔用軟膏(あゆみ)、デキサルチン口腔用軟膏(日本化薬)他
トリアムシノロンアセトニド	アフタッチ口腔用貼付剤(帝人)、ケナログ口腔用軟膏(ブリストル)他
－殺菌消毒薬－ デカリニウム塩化物	SP トローチ(Meiji Seika)他

(37)皮膚外用薬

(注意)

- 糖質コルチコイドは、経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用はすべて禁止。
(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドの皮膚の疾患に対する局所的使用は禁止されない。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
－抗生物質製剤－	
オキシテトラサイクリン塩酸塩・ポリミキシンB硫酸塩	テラマイシン軟膏(ポリミキシンB含有)(陽進堂)
オゼノキサシン	ゼビアックスローション(マルホ)
クリンダマイシンリン酸エステル	ダラシンT(佐藤)他
ゲンタマイシン硫酸塩	ゲンタシン(MSD)他
テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン軟膏(ポーラ)
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	レダマイシン軟膏(武田)
ナジフロキサシン	アクアチム(大塚)他
フラジオマイシン硫酸塩	ソフラチュール貼付剤(サノフィ)
フラジオマイシン硫酸塩・バシトラシン	バラマイシン軟膏(東洋製化-小野)
－アトピー性皮膚炎治療薬－	
タクロリムス水和物	プロトピック軟膏(アステラス-マルホ)他
－外用抗ヒスタミン剤－	
ジフェンヒドラミン	レスタミンコーワクリーム(興和-興和創薬)他
クロタミトン	オイラックスクリーム(GSK-ノバルティス)他
－抗真菌薬－	
エフィナコナゾール	クレナフィン爪外用液(科研)
ネチコナゾール塩酸塩	アトラント(久光-田辺三菱、鳥居)
テルビナフィン塩酸塩	ラミシール(ノバルティス)他
ブテナフィン塩酸塩	メンタックス(科研)、ボレー(久光)他
ルリコナゾール	ルリコン(ポーラ)、ルコナック爪外用液(佐藤-ポーラ)
－非ステロイド性消炎鎮痛薬－	
インドメタシン	インサイドパップ(久光)、イドメシンコーワ(興和-興和創薬)、カトレップ(帝國)他
ウフェナマート	コンベック(田辺三菱)他
ケトプロフェン	ミルタックスパップ(ニプロパッチ-第一三共エスファ)、モーラス(久光-祐徳)他
ジクロフェナクナトリウム	ナポール(久光)、ボルタレン(同仁-ノバルティス)他
フェルピナク	ナパゲルン(ファイザー)他
フルルビプロフェン	アドフィードパップ(リードケミカル-科研)、ステイバンパップ(トクホン-大正富山)、フルルバンパップ(大協-科研、大正富山、三笠)、ヤクバンテープ(トクホン-大正富山)他
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン(リードケミカル-第一三共)他
－副腎皮質ステロイド外用剤－	
ジフルコルトロン吉草酸エステル	ネリゾナ(バイエル)他
ジフルプレドナート	マイザー(田辺三菱)他
デキサメタゾンプロピオン酸エステル	メサデルム(岡山大鵬-大鵬)他
ヒドロコルチゾン酪酸エステル	ロコイド(鳥居)他

プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル	リドメックスコーワ(興和-興和創薬)他
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	リンデロン-DP(塩野義)、ダイプロセル(佐藤)他
ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	アンテベート(鳥居)他
ベタメタゾン吉草酸エステル	ベトネベート(GSK-第一三共)、リンデロン-V(塩野義)他
ー副腎皮質ステロイド・抗生物質配合剤ー ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩	リンデロン-VG(塩野義)、デルモゾール G(岩城)他
ー尋常性ざ瘡治療剤ー アダパレン	ディフェリンゲル(ガルデルマ-塩野義)
アダパレン、過酸化ベンゾイル	エピデュオゲル(ガルデルマ-マルホ)
過酸化ベンゾイル	ベピオゲル(マルホ)
過酸化ベンゾイル・克林ダマイシンリン酸エステル水和物	デュアック配合ゲル(ポーラ)
イブプロフェンピコノール	スタデルム(鳥居)、ベシカム(久光)
ー皮膚保護剤ー 亜鉛華軟膏	亜鉛華軟膏(各社)
ヘパリン類似物質	ヒルドイド(マルホ)他
ーその他ー マキサカルシトール	オキサロール軟膏・ローション(中外-マルホ)他
カルプロニウム塩化物水和物	フロジン外用液(ニプロパッチ-第一三共)他

(38) 消毒薬

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
クロルヘキシジングルコン酸塩	ヒビテン(大日本住友)他
ベンザルコニウム塩化物	オスバン(日本製薬-武田)、デアミトール(丸石)、逆性石ケン(各社)他
ポビドンヨード	イソジン(ムンディ-塩野義)、ネオヨジン(岩城)他

7. 歯科領域で汎用される医療用医薬品 2017 年版

(注意)

- 禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法(禁止表で規定される方法や添付文書記載の用法・用量)を守れば許可される国内の医療用医薬品の例をあげました。
- 禁止物質には「常に禁止される物質(競技会(時)及び競技会外)」と「競技会(時)に禁止される物質」があります。
- 使用可能薬リストの医薬品は、主要な製品を記載してあります。「他」と書いてあるものは、記載以外にも医薬品があることを意味します。メーカー名は(製造販売-発売・販売)です。
- 生薬や植物由来成分等は、その全ての詳細な内容成分を把握することが困難なため、これらを含む製品は、基本的に使用可能薬には掲載していません。
- **ここにあげた薬だけが許可されているわけではありません。一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。**
- 各製品の歯科適応等については、添付文書他で確認して下さい。
- 歯科麻酔におけるフェリプレシンの局所投与は禁止されません。(WADA 禁止表 S5.利尿薬および隠蔽薬)
- エピネフリン(アドレナリン)の局所使用(鼻、眼等)あるいは局所麻酔薬との同時投与は禁止されません。(WADA 禁止表 S6.興奮薬)
- 糖質コルチコイドの経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は競技会(時)禁止。(WADA 禁止表 S9.糖質コルチコイド)
→糖質コルチコイドは投与形態により申請方法が異なる。経口使用、静脈内使用、筋肉内使用、経直腸使用は TUE が必要、それ以外の使用経路は禁止されない。なお、糖質コルチコイドの使用は監視プログラムに掲載されるため、モニターされる。
- 静脈内注入および/または6時間あたりで50mLを超える静脈注射は禁止される。但し、医療機関の受診過程、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈内注入は除く。

<使用可能薬例>

成分名	代表的な販売名(メーカー名)
① 局所麻酔薬	
アミノ安息香酸エチル	ハリケイン(アグサジャパン-サンデンタル)、ビーゾカイン歯科用ゼリー(福地-ビーブランド)他
プロピカイン塩酸塩・フェリプレシン	歯科用シタネスト-オクタプレシン(デンツプライ三金)
メピバカイン塩酸塩	スキャンドネスト(日本歯科)
リドカイン・エピネフリン(アドレナリン)	オーラ注歯科用(昭和薬化工)、歯科用キシロカイン(デンツプライ三金)他
② 吸入麻酔薬	
亜酸化窒素	笑気ガス(各社)他
③ 歯科用軟膏・口腔用軟膏・挿入剤等	
オキシテトラサイクリン塩酸塩	オキシテトラコーン歯科用挿入剤(昭和薬化工)
オキシテトラサイクリン塩酸塩・ヒドロコルチゾン	テラ・コートリル軟膏(陽進堂)
テトラサイクリン塩酸塩	テトラサイクリン塩酸塩パスタ(昭和薬化工)
ミノサイクリン塩酸塩	ペリオクリン歯科用軟膏(サンスター)、ペリオフィール歯科用軟膏(昭和薬化工)
クロルヘキシジン塩酸塩・ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ヒドロコルチゾン酢酸エステル・ベンザルコニウム塩化物	デスパコーワ口腔用クリーム(興和-興和創薬)
ヒドロコルチゾン酢酸エステル・アミノ安息香酸エチル・ヒノキチオール	ヒノポロン口腔用軟膏(昭和薬化工)

デキサメタゾン	アフタゾロン口腔用軟膏(あゆみ)、デキサルチン口腔用軟膏(日本化薬)他
トリアムシノロンアセトニド	アフタッチ口腔用貼付剤(帝人)、ケナログ口腔用軟膏(ブリストル)他
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	サルコートカプセル外用(帝人)
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノール ST 錠口腔用(日本新薬)
塩化ナトリウム・塩化カリウム・塩化カルシウム水和物・塩化マグネシウム・リン酸ニカリウム	サリベートエアゾール(帝人)
④ トローチ・含嗽薬	
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	アズノールうがい液(日本点眼薬-日本新薬)、マズレニンガーゲル散(丸石-ニプロ)他
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物・炭酸水素ナトリウム	含嗽用ハチアズレ顆粒(東洋製化-小野)他
セチルピリジニウム塩化物水和物	セチルピリジニウム塩化物トローチ(岩城)
デカリニウム塩化物	SPトローチ(Meiji Seika)他
ドミフェン臭化物	オラドール(テバ)
フラジオマイシン硫酸塩	デンターグル含嗽用散(昭和薬化工)
ベンゼトニウム塩化物	ネオステリングリーンうがい液(日本歯科)他
ポビドンヨード	イソジンガーゲル液(ムンディ-塩野義)他
⑤ 解熱・鎮痛・抗炎症薬	
アスピリン	アスピリン(各社)
アスピリン・ダイアルミネート	バファリン配合錠 A330(ライオン-エーザイ)他
アセトアミノフェン(パラセタモール)	カロナール(あゆみ)他
アセメタシン	ランツジールコーワ錠(興和-興和創薬)
アンフェナクナトリウム水和物	フェナゾックスカプセル(Meiji Seika)
イソプロピルアンチピリン・アセトアミノフェン・アリルイソプロピルアセチル尿素・無水カフェイン	SG 配合顆粒(塩野義)
イブプロフェン	ブルフェン(科研)他
インドメタシン	インテバン SP(帝國)他
エトドラク	オステラック錠(あすか-武田)、ハイペン錠(日本新薬)他
オキサプロジン	アルボ錠(大正-大正富山)
ケトプロフェン	ケトプロフェン坐剤(各社)
ザルトプロフェン	ソレトン錠(日本ケミファ)、ペオン錠(ゼリア)他
ジクロフェナクナトリウム	ボルタレン(ノバルティス)他
シメトリド・無水カフェイン	キョーリン AP2 配合顆粒(杏林)
セレコキシブ	セレコックス錠(アステラス)
チアラミド塩酸塩	ソランタール錠(アステラス)
ナプロキセン	ナイキサン錠(田辺三菱-田辺製薬販売)
ブラノプロフェン	ニフラン錠(田辺三菱)他
フルルビプロフェン	フロベン(科研)他
メフェナム酸	ポンタール(第一三共)他
モフェゾラク	ジソペイン錠(田辺三菱)
ロキソプロフェンナトリウム水和物	ロキソニン(第一三共)他
ロルノキシカム	ロルカム錠(大正-大正富山)

⑥ 抗菌薬・抗生物質・抗真菌薬	
ーペニシリン系ー アモキシシリン水和物	アモリン(武田)、サワシリン(アステラス)、パセトシン(協和発酵キリン)、ワイドシリン細粒(Meiji Seika)他
アンピシリン水和物	ビクシリンカプセル・ドライシロップ(Meiji Seika)
ーセフェム系ー 第一世代 セファクロル	ケフラル(塩野義)他
セファレキシン	ケフレックス(塩野義)、ラリキシン(富山化学-大正富山)、センセファリン(武田)他
第二世代 セフロキシムアキセチル	オラセフ錠(GSK-第一三共)
第三世代 セファペンピボキシル塩酸塩水和物	フロモックス(塩野義)他
セフジレンピボキシル	メリアクトMS(Meiji Seika)他
セフジニル	セフゾン(アステラス)他
セフテラムピボキシル	トミロン(富山化学-大正富山)他
セフポドキシムプロキセチル	バナン(第一三共-GSK)他
ーマクロライド系ー アジスロマイシン水和物	ジスロマック錠・SR(ファイザー)他
エリスロマイシン	エリスロシン(マイラン EPD)、エリスロマイシン錠(沢井)
クラリスロマイシン	クラリシッド(マイラン EPD)、クラリス(大正-大正富山)他
ジョサマイシン	ジョサマイシン錠(アステラス)他
ロキシスロマイシン	ルリッド錠(サノフィ)他
ーテトラサイクリン系ー テトラサイクリン塩酸塩	アクロマイシン(ポーラファルマ)
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	ビブラマイシン錠(ファイザー)
ミノサイクリン塩酸塩	ミノマイシン錠・カプセル・顆粒(ファイザー)他
ーニューキノロン系ー オフロキサシン	タリビッド錠(第一三共)他
トスフロキサシントシル酸塩水和物	オゼックス錠(富山化学-大正富山)、トスキサシン錠(マイラン EPD)他
レボフロキサシン水和物	クラビット錠・細粒(第一三共)他
ー抗真菌薬ー イトラコナゾール	イトリゾールカプセル・内用液(ヤンセン)他
ミコナゾール	フロリドゲル(持田-昭和薬化工)
⑦ 健胃消化整腸薬	
ー酸中和薬ー 合成ケイ酸アルミニウム	合成ケイ酸アルミニウム(各社)
天然ケイ酸アルミニウム	アドソルビン原末(第一三共)
酸化マグネシウム (略称:カマ、カマグ)	酸化マグネシウム(各社)
炭酸水素ナトリウム	炭酸水素ナトリウム(各社)
ー粘膜抵抗強化薬ー アズレンスルホン酸ナトリウム水和物 ・L-グルタミン	マーズレン(寿)他
スクラルファート水和物	アルサルミン(中外)他

<p>－胃粘膜微小循環改善薬－ ベネキサート塩酸塩ベータデクス</p>	ウルグートカプセル(塩野義)他
<p>－総合消化酵素－ ジアスメン・ジアスターゼ・オノテース・モルシン・ボンラーゼ・セルロシン A.P.・パンクレアチン・ポリパーゼ・オノプローゼ A</p>	タフマック E(小野)
<p>濃厚膵臓性消化酵素・細菌性脂肪分解酵素・アスペルギルス産生消化酵素・繊維素分解酵素</p>	ベリチーム配合顆粒(塩野義)
<p>ヒロダーゼ・マミターゼ・リパーゼ A・セルラーゼ AP3・濃厚パンクレアチン</p>	ポリトーゼ(武田)
<p>－整腸薬－ 耐性乳酸菌</p>	エンテロノン-R 散(EA ファーマ)、ビオフェルミン R(ビオフェルミン-武田)、ラックビー-R 散(興和-興和創薬)、レベニン(わかもと)他
<p>ビフィズス菌</p>	ビオフェルミン錠剤(ビオフェルミン-武田)、ビフィズゲン散(日東-大日本住友)、ラックビー微粒 N(興和-興和創薬)他
<p>酪酸菌</p>	ミヤ BM(ミヤリサン)
<p>ラクトミン・糖化菌</p>	ビオフェルミン配合散(ビオフェルミン-武田)
⑧ 精神神経用薬	
<p>－ベンゾジアゼピン系－ <u>超短期作用型</u> トリアゾラム</p>	ハルシオン錠(ファイザー)他
<p><u>短期作用型</u> プロチゾラム</p>	レンドルミン(日本ベーリンガー)他
<p>リルマザホン塩酸塩水和物</p>	リスミー錠(塩野義)他
<p>ロルメタゼパム</p>	エバミール錠(バイエル)、ロラメット錠(あすか-武田)
<p><u>中期作用型</u> アルプラゾラム</p>	コンスタン錠(武田)、ソラナックス錠(ファイザー)他
<p>ニトラゼパム</p>	ネルボン(第一三共)、ベンザリン(塩野義)他
<p>フルニトラゼパム</p>	サイレース錠(エーザイ)、ロヒプノール錠(中外)他
<p>フルラゼパム塩酸塩</p>	ダルメートカプセル(共和)
<p>ブロマゼパム</p>	セニラン(サンド)、レキシタン(中外-エーザイ)
<p>ロラゼパム</p>	ワイパックス錠(ファイザー)他
<p><u>長期作用型</u> ジアゼパム</p>	セルシン錠・散・シロップ(武田)他
<p><u>超長期作用型</u> ロフラゼプ酸エチル</p>	メイラックス(Meiji Seika)他
<p>－チエノジアゼピン系－ エチゾラム</p>	デパス(田辺三菱)他
<p>クロチアゼパム</p>	リーゼ(田辺三菱)他
<p>－バルビツール酸系－ ペントバルビタールカルシウム</p>	ラボナ錠(田辺三菱)
<p>－その他－ <u>超短期作用型</u> ゾピクロン</p>	アモバン錠(サノフィ-日医工)他
<p><u>短期作用型</u> ブロムバレリル尿素</p>	ブロバリン原末(日本新薬)、ブロムワレリル尿素(各社)

⑨ 抗ヒスタミン薬	
クレマスチンフマル酸塩	タベジール(ノバルティス)他
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン錠・散・シロップ・ドライシロップ(高田)他
クロルフェニラミンマレイン酸塩	アレルギン散(第一三共)他
ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミンコーワ錠(興和-興和創薬)
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	ペリアクチン(日医工)他
ホモクロルシクリジン塩酸塩	ホモクロミン錠(エーザイ)他
メキタジン	ゼスラン(旭化成)、ニポラジン(アルフレッサ)他
⑩ ビタミン製剤	
アスコルビン酸	ハイシー顆粒(武田)他
トコフェロール酢酸エステル	ユベラ(サンノーバーエーザイ)他
ピリドキサルリン酸エステル水和物	ピドキサル錠(中外)他
フルスルチアミン	アリナミンF糖衣錠(武田)他
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	フラビタン(トーアエイヨー-アステラス)他
オクタチアミン・リボフラビン・ピリドキシン塩酸塩・シアノコバラミン	ノイロピタン配合錠(アステラス)
⑪ 止血薬	
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	アドナ錠・散(田辺三菱-田辺製薬販売)他
トラネキサム酸	トランサミンカプセル・錠・散・シロップ(第一三共)他
⑬ その他	
カルバマゼピン	テグレートール(ノバルティス)他

8. 使用可能薬リスト 2017 年版 携帯用

- 本リストは、主に選手・トレーナー等が切り離して携帯することを想定して作成しています。
- 28 ページから 71 ページの使用可能薬リストの中から、主に急性の症状に用いられる医薬品(内用薬・外用薬)をピックアップして掲載しています。
- 本リストでは、禁止物質を含まない、あるいは禁止物質が含まれていても使用方法等を守れば許可される国内の医薬品の例を挙げています。
- 本リストは一部の例示であり、他にも使える薬は数多くあります。
- 注射の場合、取扱いが異なる場合があるので、不明点等は別途、スポーツファーマシスト(3 ページ)等にご相談下さい。その他、疑問点がある場合にも、自己判断せずに必ずスポーツファーマシスト等にご相談下さい。

- 熱・痛み(坐薬を含む) -

エルペインコーワ、グレラン・ビット、タイレノール A、バイエルアスピリン、パファリン A、パファリン EX、リングルアイビー α 200、ルミフェン、ロキソニン S、ロキソニン S プラス、こどもパブロン坐薬 他

- かぜ -

新エスタック「W」、新ルルエース、ストナアイビー、ニシミドン液小児用、パブロン S ゴールド W 錠、パブロン S ゴールド W 微粒 他

- せき・たん(トローチ等含む) -

コンタックせき止め ST、ストナ去たんカプセル、タイムコール去たん錠、ニッシンせき止め顆粒、新ブロン液エース、コデミン G トローチ、新エスベナントローチ、ベンザブロケットローチ 他

- 胃炎・腹痛・健胃・消化薬 -

アシノン Z、イノセアワンブロック、ガスター10、コランチル A 顆粒、サクロン Q、ブスコパン A 錠、ブスコパン M カプセル、イノセアバランス、ガストール錠、スクラート胃腸薬(顆粒)、パンシロンピオリズム健胃消化整腸薬、ミルマグ液、第一三共胃腸薬コアブロック錠剤、エビオス錠、ピオラクターゼ、ミヤリサン U 錠、新ピオチアス、タナベ胃腸薬ウルソ、パンラクミン錠 他

- 便秘 -

カイベール C、コーラック、新レシカルボン坐剤 S、スルーリア便秘薬、スルーラックプラス、ツージーQ、ピオフェルミン便秘薬、ピコラックス、ラクツール S 他

- 下痢・整腸薬 -

新タントーゼ A、小中学生用ストッパ下痢止め EX、ストッパ下痢止め EX、トメダインコーワフィルム、新ピオフェルミン S 錠、ロペラマックサット、強ミヤリサン(錠)、ヤクルト BL 整腸薬、ラッパ整腸薬 BF、わかもと整腸薬 他

- 痔 -

ボラギノール M 軟膏、ボラギノール M 坐剤、レック H 軟膏、レック H 坐剤 他

- アレルギー -

<内服薬>アレギサル鼻炎、アレギトール、アレグラ FX、アレジオン 10、アレジオン 20、アレルギール錠、エバステル AL、コンタック鼻炎 Z、ザジテン AL 鼻炎カプセル、スカイナー AL 錠、ストナリニガード、ストナリニ Z、タミナス A 錠、ピロット A 錠、レスタミンコーワ糖衣錠 他

<点鼻薬>ケールワン鼻スプレー、コンタック鼻炎スプレー(季節性アレルギー専用)、ザジテン AL 鼻炎スプレー α、新ルル点鼻薬、ナザール α AR(季節性アレルギー専用)、ナシビン M スプレー、パブロン点鼻クイック、ベンザ鼻炎スプレー 他

- 吐き気・乗り物酔い -

アネロン「ニスキャップ」、スカイラプソフト、こどもセンパア S、センパア S、タケダ乗り物酔い止め、トラベルミン、トラベルミン チュロップぶどう味、トラベルミン チュロップレモン味、トリブラ S 錠 他

- 不眠 -

グ・スリーP、ドリエル、ネオデイ、プロリズム 他

- 貧血 -

ファイチ、ヘマニック、マスチゲン錠 他

- 目薬 -

<感染症>抗菌アイリス使いきり、サンテ抗菌新目薬、ティアール抗菌目薬、ノアールワン SG、ロート抗菌目薬 EX 他

<ビタミン類・疲れ目>アイリス 50、サンテ 40 プラス、サンテドゥ、ノアール小児用、ポボンビュメリ目薬 R、ロートゴールド 40 他

<人口涙液・ドライアイ>New マイティア CL-a、アイリス CL-I ネオ、アスバラ目薬モイスト CL、スマイルコンタクトピュア、ソフトサンティア、なみだロートコンタクト 他

<洗眼薬>アイボン d、アルガード目すっきり洗眼薬 α、スマイルアミノウォッシュ、フレッシュアイ AG、ロート C キューブアミノモイスト 他

<アレルギー>アイフリーコーワ AL、アイリス AG ガード、エーゼットアルファ、ザジテン AL 点眼薬、サンテアルフリー新目薬、ノアール P ガード点眼液、ロートアルガードプレテクト 他

- うがい薬・口腔内用薬 -

イソジンうがい薬、フィニッシュコーワ、うがい薬コロロ SP、パブロンうがい薬 AZ、ルルのどスプレー、ヴィックスメディケイテッドドロップ B・C・GA・GF・HL・L・O・R・U、のどぬるるスプレークリアミント a、ノバポン L トローチ、ベレックストローチ、サトウ口内軟膏 他

- 皮膚外用薬 -

<消毒薬>イソジンきず薬、オキシドール、オスパン S、キズアワワ、新レブメント-FN、ヒビスコール S、マキロン S、ムヒのきず液、ラビネット P 他

<しもやけ・あかぎれ>HP クリーム、白色ワセリン 他

<液体絆創膏>コロスキン、サカムケア a 他

<痛み・炎症・かゆみ>アイスラップゲル、アンメルツヨコヨコ、オムニードケトプロフェンパップ、サロンパス EX、ジクロテクト PRO テープ、ゼノールエクサム SX、トクホン チール A、トクホン E、ナボリン フェルピナク 70、バスタイン FX7、バンテリンコーワゲル LT、バンテリンコーワ新ミニパット、フェイタス Z α ローション、ポルタレン AC ローション、メンブラ A、ロキソニン S テープ、オイラックスソフト、近江兄弟社メンターム EX ソフト、フェミニーナ軟膏 S、ムヒ S、ムヒソフト GX 乳状液、ユースキン I、ユースキン N、レスタミンコーワパウダークリーム、ロバック U 他

<殺虫薬>キンカン虫よけスプレーP、サラテクト FA、スキンベープミスト SH、ムヒの虫よけムシペール α 他

<にきび・化膿>エバユースにきび薬、オロナイン H 軟膏、ドルマイシン軟膏、テラマイシン軟膏 a、ベアアクネクリーム W 他

<水虫>エーワン L スプレー、スコルバ EX、ダマリン L、ニュータムシチンキゴールド a、バリアクト Hi クリーム、ピロエース Z ジェットスプレー、ラマストン MX2 ゲル、ラミシール AT 液 他

<ヘルペス>アクチビア軟膏、アラセナ S、ヘルペシアクリーム 他

※ 薬を購入する際には、**名前全体が完全に一致することを確認して下さい。**ほとんど同じ名前でも、接頭語として「新」がついたり、接尾語として「錠」や「会社名」、アルファベットがついているだけで、成分の組成が異なることもあります。

(例) ○:ストナアイビー ×:ストナアイビー**ジェル**(禁止物質のメチルエフェドリンを含む)

※ 糖質コルチコイドを含む痔疾用薬の注入軟膏・坐剤などを直腸経路で使用することは禁止。

医療用医薬品(医師の処方が必要な薬)使用可能薬例(内用薬・外用薬) 2017年版

- 熱・痛み(片頭痛含む) -

カロナール、PL 配合顆粒、ピーエイ配合錠、ベレックス配合顆粒、ミグレン、アスピリン、インフリー、セレコックス、ナイキサン、ハイベン、パキソ、ブルフェン、フロベン、ボルタレン、ポンタール、モービック、ロキソニン、ロルカム、ソランタール、リリカ、アマージ、イミグラン、ゾーミグ、マクサルト、レルパックス、ミグシス 他

- 筋肉の痛み・こわばり -

アロフト、テルネリン、ミオナール、リンラキサー 他

- せき・たん -

アストミン、アスピリン、コデインリン酸塩、コルドリン、トクレスパンスール、フスタゾール、フラベリック、メジコン、レスプレン、クリアナール、ビソルボン、ムコソルバン、ムコダイン 他

- 気管支喘息・COPD -※

テオドール、ネオフィリン、オン、キプレス、シングレア、アトロベント、スピリーバ、アイロミールエアゾール、オーキシスタービュヘイラー、サルタノールインヘラー、セレベント、ペネトリン吸入液、アドエア、シムビコートタービュヘイラー、フルティフォームエアゾール、キューパールエアゾール、バルミコート、フルタイド 他

※吸入サルブタモール(24時間で最大1600 μ g、12時間ごとに800 μ gを超えないこと)、吸入ホルモテロール(24時間で最大投与量54 μ g)、吸入サルメテロール(24時間で最大200 μ g)は禁止されない。糖質コルチコイドの吸入使用は禁止されない。

- アレルギー(点鼻薬含む) -

アイピーディ、アゼプチン、アタラックス、アレグラ、アレジオン、アレルギン、アレロック、インタール、エバステル、クラリチン、ザイザル、ザジテン、ジルテック、ゼスラン、タベジール、タリオン、デザレックス、トランサミン、バイナス、ヒベルナ、ペリアクチン、ポララミン、リザベン、レスタミンコーワ、レミカット、インタール点鼻液、ザジテン点鼻液、トラマゾリン点鼻液、フルナーゼ 他

- めまい・乗り物酔い -

トラベルミン配合錠、ドラマミン、セファドール、メリスロン 他

- 胃炎・胃潰瘍・腹痛・健胃 吐き気・消化 -

アシンロン、アルタット、ガスター、ザンタック、タガメット、オメプラール、オメプラゾン、タケブロン、タケキャブ、ネキシウム、パリエット、合成ケイ酸アルミニウム、マローックス、アルサルミン、イサロン、ウルグート、ガストローム、セルベックス、プロマック、マーズレン、ムコスタ、セステン、ブスコパン、ロートエクス、ガスコン、ガスモチン、ガナトン、ナウゼリン、プリンペラン、タフマックE、ペリチーム配合顆粒、ポリトーゼ 他

- 便秘 -

アミティーザ、酸化マグネシウム、新レシカルボン坐剤、テレミンソフト、バルコーゼ、ブルゼニド、ラキソベロン 他

- 下痢・整腸(過敏性腸症候群を含む) -

アドソルピン、キョウベリン、タンニン酸アルブミン、ロベミン、アタパニン、乾燥酵母、ピオフェルミンR、ピオフェルミン配合散、ミヤBM、ラックビー微粒N、イリボー、コロネル、セレキノン、チアトン、トランコロン 他

- 痔 -

ヘモクロン、ヘモナーゼ、ポストリザン(軟膏)、ボラザG、ヘルミチンS 他

- 不眠・不安 -

アモバン、エバミール、コンスタン、サイレース、セルシン、ソラナックス、デパス、ハルシオン、プロムワレリル尿素、ベルソムラ、ベンザリン、マイスリー、メイラックス、ラボナ、リーゼ、リスミー、ルネスタ、レキソタン、レンドルミン、ロゼレム、ロヒプノール、ロラメット、ワイパックス 他

- 貧血 -

テツクール、フェロ・グラデュメット、フェルム、フェロミア 他

- 感染症 -

＜抗菌薬・抗生物質＞サワシリン、ビクシリン、ケフラー、オラセフ、セフゾン、パナン、フロモックス、メリアクトMS、カナマイシン、アクロマイシン、ビブラマイシン、ミノマイシン、エリスロマイシン、クラリシッド、クラリス、ジスロマック、ジョサマイシン、ホスミン、ルリッド、アベロックス、オゼックス、クラビット、グレースピット、ジェニナック、シプロキササン、タリビッド、バクシダール、バクタ 他

＜抗真菌薬＞イトリゾール、ジフルカン、フロリード、ラミシール 他

＜抗ウイルス薬＞アラセナー-A、ゾビラックス、バルトレックス、ファムビル、イナビル、シンメトレル、タミフル、ラビアクタ、リレンザ 他

- ワクチン -

インフルエンザHA ワクチン、ガーダシル、サーバリックス 他

- 卵胞・黄体ホルモン -

ソフィアA、ソフィアC、デュファストン、ノアルテン、プラノバル、プレマリン、メノエイドコンビパッチ、ヤーズ、ルナベル 他

- 目薬 -

＜感染症＞エコリシン、ゲンタロール、オゼックス、ガチフロ、クラビット、タリビッド、トスフロ、バクシダール、ベガモックス、ゾビラックス 他

＜ビタミン類・疲れ目＞FAD、サンコバ、ソフティア、フラビタン 他

＜アレルギー＞アレギサール、アレジオン、インタール、ザジテン、パタノール、リザベン、リボスチン 他

＜その他＞ジクアス、ニフラン、ヒアレイン、マイティア、ムコスタ 他

- うがい薬・口腔内用薬 -

アズノールうがい液、イソジンガーゲル、含嗽用ハチアズレ、マズレニンガーゲル、アフタゾン、アフタッチ、ケナログ、デキサルチン、SPTローチ 他

- 皮膚外用薬 -

＜抗生物質＞アクアチム、ゲンダシン、ゼビアックス、ダラシンT、バラマイシン 他

＜抗真菌薬＞アトラン、クレナフィン、メンタックス、ラミシール、ルリコン 他

＜消炎鎮痛＞アドフィード、インサイドパップ、コンベック、ナパゲルン、ボルタレン、モーラス、ロキソニン 他

＜かゆみ・炎症・にきび＞レスタミンコーワクリーム、アンテベート、ネリゾナ、ベトネベート、マイザー、メサデルム、リンデロン-DP、リンデロン-VG、ロコイド、エビデュオ、スタデルム、ディフェリン、デュアック、ベビオゲル 他

＜皮膚保護＞亜鉛華軟膏、ヒルドイド 他

＜消毒薬＞イソジン、オスバン、ヒビテン 他

※ 糖質コルチコイドを含む痔疾用薬の注入軟膏・坐剤などを直腸経路で使用することは禁止。

※ 右記のQRコードを読み込むとアンチ・ドーピングホットラインのリストが表示されます。お問い合わせはこちらまで→



9. よくある質問

(JADA ホームページ: <http://www.realchampion.jp/faq> より転載、一部改変)

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構

<ドーピングについて>

Q ドーピングとは何ですか？

A ドーピングとは、スポーツの価値・精神に反する行為です。競技力を高めるために禁止された薬物や方法などを使用する等、全世界的に定められたルールに基づき、厳しく禁止されています。ドーピング検査で禁止物質が検出されれば、治療目的でその物質を使用していた場合でも制裁が課されることもありますので、ルールをよく理解しておきましょう。

Q ドーピングは何故いけないのですか？

A 全世界で共有されているスポーツ全体のルールです。(1)フェアプレーの精神に反する、(2)アスリートの健康を害する、(3)反社会的行為である、といった、スポーツの価値の根幹を損なう、スポーツに正々堂々と向かうことができない「ずる」くて「危険」な行為でもあります。

Q 禁止物質・禁止方法を教えてください

A 禁止物質・禁止方法は、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の禁止表に掲載されており、次の3つに分類されています。

- I. 常に禁止される物質と方法(競技会(時)および競技会外)
- II. 競技会(時)に禁止対象となる物質と方法
- III. 特定競技において禁止される物質

WADAの禁止表は、毎年1月1日に更新されます。

<検査について>

Q ドーピング検査はどういうものですか？

A ドーピング検査は尿や血液を採取し、これをWADA認定分析機関で分析します。ドーピング検査には「競技会検査」と「競技会外検査」とがあります。

「競技会検査」ではすべての禁止物質と禁止方法が対象となりますが、「競技会外検査」では、禁止表のI.常に禁止される物質と方法(S1.蛋白同化薬、S2.ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質、S3.ベータ2作用薬、S4.ホルモン調節薬および代謝調節薬、S5.利尿薬および隠蔽薬、M1.血液および血液成分の操作、M2.化学的および物理的操作、M3.遺伝子ドーピング)が対象となります。

Q ドーピング尿検査はどのように行われますか？

A ドーピング検査は、以下の流れで行なわれます。

通告:検査対象者は競技終了後にシャペロンから通告されます。

受付:通告されたら、速やかにドーピング検査室に行かなければなりません。検査を拒否するとアンチ・ドーピング規則違反とみなされます。検査室には1人の付き添いが認められます。

採尿:採尿カップを選び、同性の検査員の立会いのもとにトイレで採尿します。

分注・封印:サンプルキットを選び、尿をA・B二つの検体用ボトルに分注し、封をします。

薬物の申告:7日以内に使用した薬物とサプリメントを申告します。

コメント:検査手続き中に気づいたことがあれば、補足報告書に記入します。

署名:公式記録書の記載内容、手続きに問題がなかったかを確認して署名します。アスリート用の写しを大事に保管してください。

Q 競技会外検査とはどういうものですか？

A ドーピングによる不正をより効果的に防ぐため、またアスリートのクリーンさを証明するため、トレーニング期間中などに検査が行われます。対象アスリートより提出された居場所情報などに基づき、事前の通告なしに実施され、採尿等の手続きは競技会検査と基本的に同じです。

Q 検査で陽性になったらどうなりますか？

A A 検体の分析結果に疑わしい所見が見られた場合、アスリート本人に通知が届き、本人が要求すれば B 検体の確認分析が行われます。B 検体も A 検体と同じ所見であればアンチ・ドーピング規則違反となり制裁が課せられる可能性があります。なお、違反の認定・制裁内容を決定する前に、聴聞会が開かれ、本人には弁明の機会が与えられます。制裁には成績・記録の抹消、資格停止などがあります。また、アスリート以外にもサポートスタッフなど違反に関与した者に対する制裁が課せられることがあります。

<治療薬の服用について>

Q 治療のため、どうしても禁止物質を使用したいのですが？

A 治療のために禁止物質がどうしても必要な場合には、TUE(治療使用特例)を申請します。(詳細：<http://www.realchampion.jp/download/6>)
所定の用紙(TUE 申請書)に確認書と医療情報を添えて申請し、審査で許可されれば(承認書が送られる)、使用できます。ただし、治療上必要であり、他に治療法がなく、使用しても競技力を高めないものに限定されています。
TUE 申請書類は、JADA の TUE 委員会へ提出します。所属の競技団体または都道府県体育協会を経由して提出することも可能です。
なお、国際大会に参加するアスリートは国際競技連盟などに提出する必要がありますので、所属競技団体に問い合わせてください。

Q ぜん息治療薬の注意点は何か？

A ①吸入サルブタモール、吸入サルメテロール、吸入ホルモテロールおよび糖質コルチコイドの吸入は禁止されていませんので、TUE は不要です。
②「吸入サルブタモール、吸入サルメテロールおよび吸入ホルモテロール」以外の吸入ベータ 2 作用薬を使用する際には、あらかじめ医療情報を添えて、TUE 申請が必要です。
※JADA への提出には JADA のホームページから「気管支喘息治療に関する TUE 申請のためのチェックリスト」をダウンロードし、使用してください。

Q 風邪のときはどうしたらよいですか？

A 禁止物質を含まない薬がありますので、症状に応じて医師から適切な処方を受けてください。その際には、(1)自分がドーピング検査の対象となる可能性があること、(2)禁止物質が含まれていない薬を処方してもらうことを伝えてください。

Q 関節に注射をしたときはどうしたらよいですか？

A 糖質コルチコイドの非全身的使用(関節内注射、関節周囲注射、腱周囲注射、硬膜外注射、皮内注射、吸入)は、禁止されていませんので、TUE は不要です。

Q 治療のために医師から薬を処方されていますが、大丈夫ですか？

A 病気の治療薬にも禁止物質があります。たとえば、(1)糖尿病治療薬のインスリン、(2)ぜん息治療薬の内服薬・吸入薬・貼付薬・注射薬、(3)痛風治療薬のプロベネシド、(4)高血圧治療薬の利尿薬・ベータ遮断薬などです。

処方される薬については主治医からよく説明を受けて、薬物名を記録しておきます。なお製品に関する問い合わせ先は、「薬について問い合わせ」のページを参照、また Global DRO でも検索してみましょう。

Q 病院で点滴(静脈内注入)をしたときはどうしたらよいですか？

A 「静脈内注入(点滴)」という方法と、「注入した薬剤」について確認が必要です。

①「静脈内注入(点滴)」について

静脈内注入(点滴)は禁止されています。

しかし、医療機関の受診過程(救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む)や外科手術、臨床的検査において正当に受けるものは禁止されず、TUE は必要ありません。

②「注入(点滴)した薬剤」について

注入(点滴)した薬剤について禁止物質が含まれるか否かを確認してください。

禁止物質が含まれる場合には、その物質に対する TUE 申請が必要です。

Q 花粉症の治療をしたいのですが、どの薬であればドーピングになりませんか？

A ①病院の場合

医師に自分がドーピング検査の対象となる可能性があるため、禁止物質が含まれない薬を処方してもらおう伝えてください。

医師の禁止物質に対する知識が乏しい場合は、「薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン」または「スポーツファーマシスト」に問合せてもらえるよう伝えましょう。

②ドラッグストアや薬局の場合

薬に禁止物質が含まれていないか「薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン」または「スポーツファーマシスト」に問合せ確認しましょう。

事前にスポーツファーマシストが在籍する薬局を「スポーツファーマシスト検索ページ」で調べておくと、いざという時安心です。

また、Global DRO を活用し、処方してもらった薬や購入した薬の成分を自分で確認しましょう。

Q 大会直前にケガをして、緊急に病院で「糖質コルチコイド」を関節に局所注射(局所使用)し、点滴をしました。どうしたらいいですか？

A 医療記録(カルテ、様式任意)を必ず保存してください。

医療機関における糖質コルチコイドの局所注射(局所使用)は禁止されていませんので、TUE は不要です。

競技会のドーピング検査の結果、糖質コルチコイドが検出された場合には、

(1) JADA が、アスリートに使用状況を問い合わせる。

(2) アスリートは、上記の医療記録を JADA に提出し、局所使用であることを証明する。

(3) JADA が、検出結果がその医療記録と矛盾しないか確認し、局所注射使用かどうかを判断する。

(4) JADA が局所注射使用であると確認した場合、アスリートは違反なしと判断される。

上記(2)において必要となりますので、アスリートは、病院での医療行為を受けた際には、必ず医療記録を残しておきましょう。

Q 薬の使用についての問い合わせ先は？

A 以下のページを参照ください。

<http://www.realchampion.jp/knowledge/medicine>

10. 医薬品の使用可否検索の手順について

Q.

ドーピング禁止薬に関する問合せがあったときは、どのような手順で使用の可否を調べればよいのですか？

A.

本書は、使用可能薬を一般用医薬品等・医療用医薬品に分け、さらにそれぞれ薬効群別に細分しており、使用可能薬を探す上で利便性の高いものとなっています。一方、ある医薬品が使用できるのかできないのかは、索引を使うことで手軽に検索することが出来ます。本書の使用に慣れるまでは、下記のような流れでの検索をお勧めします。

- ① 選手・コーチ等からドーピング禁止薬に関する質問を受けた場合には、まず本書 85 ページの『索引（使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50 音順)）』を開き、該当の医薬品名があるかどうかをご確認ください。後発医薬品の場合には、先発品の販売名か一般名で検索して下さい。



- ② 索引に該当の医薬品がある場合には、そのページの内容や注意をご確認の上、質問者にご回答下さい。



- ③ 索引に該当の医薬品がない場合には、本書 4 ページからの『2017 年 WADA 禁止表掲載のドーピング禁止物質の作用と医薬品例』で、該当の医薬品が禁止物質に該当するかどうかをご確認下さい。成分が禁止リストに掲載されていた場合には、使用不可の旨をご回答下さい。



- ④ 該当の医薬品が索引にも禁止リストにも掲載されていない場合、82 ページの『薬剤師会ホットライン用問合せ用紙』等を利用して、日本薬剤師会または最寄りの都道府県薬剤師会ホットライン(81 ページ)宛に記録に残る形(FAX・メール等)でお問い合わせ下さい。なお、愛媛国体に関する質問の場合は、本書 84 ページの用紙を用いて愛媛県薬剤師会に問い合わせることも可能です(83 ページ)。



- ⑤ お問い合わせ受付後は、医薬品の内容を確認して、出来るだけ速やかにご回答致します。

なお、医薬品の内容によっては、日本体育協会スポーツ科学研究室への問合せを実施致します関係上、回答にお時間がかかることがあります。どうぞ、ご了承下さい。

医薬品使用の可否の検索手順は、次ページにフローチャートでも示しております。本ページの内容と合わせてご参照下さい。

11. 薬剤師会アンチ・ドーピングホットライン

ドーピングのお問い合わせは、原則として **FAX** で受け付けています。
電話ではお答えできませんので、次ページの専用用紙を FAX 等でお送り下さい。

名称	FAX番号
日本薬剤師会 アンチ・ドーピング相談窓口 ^{注)}	—
ほっかいどう・おくすり情報室	011-831-6133
青森県薬剤師会薬事情報センター	017-743-7075
岩手県薬剤師会くすりの情報センター	019-653-4592
宮城県薬剤師会くすりの相談室	022-391-6630
秋田県薬剤師会くすり110番	018-835-2576
山形県薬剤師会薬事情報センター	023-625-3970
福島県薬剤師会薬事情報センター	024-549-2209
茨城県薬剤師会 くすりの相談室	029-306-8040
栃木県薬剤師会薬事情報センター	028-658-9847
群馬県薬剤師会薬事情報センター	027-223-5308
埼玉県薬剤師会情報センター	048-667-5580
千葉県薬剤師会薬事情報センター	043-247-4402
東京都薬剤師会 薬事情報課	03-3295-2333
神奈川県薬剤師会薬事情報センター	045-751-4460
新潟県薬剤師会薬事情報センター	025-281-7735
富山県薬剤師会 くすり相談	076-422-3633
石川県薬剤師会薬事情報センター	076-231-6721
福井県薬剤師会薬事情報センター	0776-61-6561
山梨県薬剤師会薬事情報センター	055-254-3401
長野県薬剤師会医薬品情報室	0263-34-0075
岐阜県薬剤師会ぎふ薬事情報センター	058-247-5757
静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター	054-203-2028
静岡県薬剤師会 高齢者くすりの相談室	054-203-2028
愛知県薬剤師会薬事情報センター	052-222-3326
三重県薬剤師会 薬の相談テレホン	059-225-4728
滋賀県薬剤師会薬事情報センター	077-563-9033
京都府薬剤師会薬事情報センター	075-525-2332
大阪府薬剤師会薬事情報センター	06-6947-5487
兵庫県薬剤師会薬事情報センター	078-341-6099
奈良県薬剤師会薬事情報センター	0742-24-1291
和歌山県薬剤師会薬事情報センター	073-424-3353
鳥取県薬剤師会薬事情報センター	0859-38-5758
島根県薬剤師会情報センター	0852-26-5358
岡山県薬剤師会薬事情報センター	086-294-9056
広島県薬剤師会 薬事情報センター	082-248-1904
山口県薬剤師会	083-924-7704
徳島県薬剤師会薬事情報センター	088-625-5763
香川県薬剤師会 宮薬局県庁前	087-833-2132
愛媛県薬剤師会 おくすり相談窓口	089-921-5353
高知県薬剤師会情報センター	088-820-5010
福岡県薬剤師会 くすりなんでもテレホン	092-281-4104
佐賀県薬剤師会薬事情報センター	0952-23-8941
長崎県薬剤師会 薬相談窓口	095-848-6160
熊本県薬剤師会医薬情報センター	096-285-8248
大分県薬剤師会薬事情報センター	097-544-8060
宮崎県薬剤師会薬事情報センター	0985-29-8127
鹿児島県薬剤師会薬事情報センター	099-257-2516
沖縄県薬剤師会 おくすり相談室	098-963-8937

注) メール (anti-doping@nichiyaku.or.jp) でのみお問い合わせを受け付けております。

12. 愛媛国体におけるアンチ・ドーピング相談窓口について

うっかりドーピング防止

薬を使用する前、飲む前に薬剤師にご相談ください。

《 愛媛県薬剤師会ドーピング防止ホットライン 》

ご相談の際は、氏名・年齢・性別・競技名・自分の立場（選手・監督等、医師・看護師等、薬剤師、その他）・内容（薬品名は正確に）をお知らせください。

E-mail : doping@ehpa.jp

（国体期間中は 24 時間対応）

注）本アドレスより返信します。受信できるように設定してください。

FAX 089-921-5353

（平日の9時から 17 時）



《 店頭・窓口での相談 》

お近くの薬局で、うっかりドーピングについて相談できます。

- ・ドーピング防止相談（のぼり）：スポーツファーマシストがいる薬局
- ・ドーピング防止相談（ステッカー）：研修終了薬剤師がいる薬局



これらを掲示している病院・薬局で相談すると安心です。

ステッカー



のぼり



※スポーツファーマシストがいる薬局（スポーツファーマシスト名・薬局名・連絡先など）は、愛媛県薬剤師会ホームページでも確認できます。

URL : <http://www.yakushime.jp/doping/>



愛媛県薬剤師会 問い合わせ用

ドーピング禁止薬に関する問い合わせ用紙

宛

問い合わせ日時： 年 月 日

質問者の

所属： 氏名：

電話番号： FAX番号：

基本情報（該当するものに○をご記入下さい。）

分類（医師・薬剤師・看護師・AT・コーチ・選手・その他（ ））

※回答は、FAXで行いますので、FAX番号は必ずご記入下さい。

薬物を使用される方の基本情報（該当するものに○をご記入下さい。）

- ① 所属競技団体名（ ）
- ② 性別（ 男性・女性 ）
- ③ 年齢（ 10・20・30・40・50・60・70・80・90 ）才代
- ④ 薬物の使用状況（未使用・服用中・過去に服用）
- ⑤ 大会日程（大会中・未定・ 月 日 ）

問い合わせ対象薬物

製品名（会社名）	備考	回答
1. （ ）		
2. （ ）		
3. （ ）		
4. （ ）		
5. （ ）		

※ 製品名は、フルネームで正確にご記入下さい。

※ 備考欄は、その薬物に関して特別な事項がある場合にご記入下さい。

※ 内容によっては、回答にお時間がかかることがありますのでご了承下さい。

回答者：

13. 索引(使用可能薬リスト掲載医薬品の一覧表(50音順))

本ガイドブックに掲載されている医薬品のうち、使用方法を守り正しく使用した場合に使用できる医薬品を50音順に並べたものです(一部、使用方法や投与経路等によっては禁止されるものを含む)。索引の使用に際しましては、以下の点にご注意下さい。

- ◇ 成分名と販売名のどちらでも検索できます。
- ◇ 成分等が変更になっている場合がありますので、索引にある医薬品につきましても必ず該当ページでご確認下さい。

D

dI-カンフル.....	41, 42
DL-メチオニン.....	51
dI-メントール.....	40
d-カンフル.....	40
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩.....	30, 35, 47, 71

F

FAD 点眼液.....	63
--------------	----

H

HP クリーム.....	40
--------------	----

L

L-アスパラギン酸カリウム.....	37, 38
L-カルボシステイン.....	30, 45
L-グルタミン.....	31, 49, 69
L-ケフレックス.....	58
l-メントール.....	36, 40, 41, 42

N

New マイティア CL-a.....	38
---------------------	----

P

PL 配合顆粒.....	43
--------------	----

S

SG 配合顆粒.....	44, 68
SP トローチ.....	64, 68

あ

アイスラブゲル.....	40
アイピーディ.....	47
アイフリーコーワ AL.....	38
アイブル-AG II.....	38
アイブル-CL.....	38
アイボン d.....	38
アイラート AG.....	38
アイリス 50.....	37
アイリス AG ガード.....	38
アイリス CL-I ネオ.....	38
アイロミールエアゾール.....	46
亜鉛華軟膏.....	66
アカルボース.....	57
アクアチム.....	65
アクアナチュラル便秘薬.....	32
アクチビア軟膏.....	42
アクトス.....	57
アクロマイシン.....	59, 69
アクロマイシン軟膏.....	65
アコチアミド塩酸塩水和物.....	49
アコファイド錠.....	49
浅田飴のどクールスプレー.....	39
亜酸化窒素.....	67
アシクロビル.....	42, 60, 63
アジスロマイシン水和物.....	59, 69
アシタザノラスト水和物.....	38
アシドフィルス菌.....	33
アシノン Z.....	31
アシノン Z 胃腸内服液.....	31
アシノン Z 錠.....	31
アシノン錠.....	48
アジルサルタン.....	53
アジルバ錠.....	53
アスコルビン酸.....	29, 36, 71
アスコルビン酸散.....	33
アストミン.....	45
アズノール.....	49
アズノール ST 錠口腔用.....	64, 68
アズノールうがい液.....	64, 68
アスパラ目薬モイスト CL.....	38

アスピリン	28, 43, 44, 68
アスベリン	45
アスペルギルス産生消化酵素	49
アズマネックスツイストヘラー	47
アズレンスルホン酸ナトリウム	31, 32, 39
アズレンスルホン酸ナトリウム水和物	31, 38, 39, 49, 64, 68, 69
アセトアミノフェン	28, 29, 30, 43, 44, 68
アゼプチン	47
アセメタシン	44, 68
アゼラスチン塩酸塩	34, 47
アゼルニジピン	53
アタバニン散	50
アダパレン	66
アダラート	52
アタラックス	47
アットノン	40
アデカット錠	53
アドエア	46
アドソルビン原末	50, 69
アドナ錠・散	71
アドフィードバップ	65
アトラント	65
アトルバスタチンカルシウム水和物	52
アドレナリン	67
アトロベントエロゾル	46
アナグリプチン	57
アネロン「ニスキャップ」	35
アバプロ錠	53
アビリット錠	55
アフタゾロン口腔用軟膏	64, 68
アフタッチ口腔用貼付剤	64, 68
アブルウェイ錠	58
アフロクアロン	45
アベマイド錠	57
アベロックス錠	59
アマージ錠	44
アマリール	57
アマンタジン塩酸塩	60
アミティーザカプセル	50
アミノ安息香酸エチル	35, 62, 67
アミノフィリン水和物	46
アムロジピンベシル酸塩	53
アムロジン	53
アモキシシリン水和物	58, 69
アモバン錠	54, 70
アモリン	58, 69
アモロルフィン塩酸塩	41
アラセナーA軟膏・Aクリーム	60
アラセナS	42
アラセナSクリーム	42
アラセプリル	53
アラントイン	36, 38, 40, 41
アリナミンF糖衣錠	71
アリピプラゾール	55
アシルイソプロピルアセチル尿素	44, 68
アルガード目すっきり洗眼薬α	38
アルサルミン	49, 69
アルジオキサ	32, 49

アルタットカプセル・細粒	48
アルブラゾラム	54, 70
アルボ錠	44, 68
アルミノプロフェン	28
アレキサール点眼液	64
アレキサール鼻炎	34
アレギトール	33
アレグラ	47
アレグラFX	34
アレジオン	47
アレジオン10	34
アレジオン20	34
アレジオン点眼液	63
アレビアチン錠・散	56
アレルギール錠	33
アレルギン散	47, 71
アレロック	47
アログリプチン安息香酸塩	57
アロフト錠	45
アロプリノール	57
アンジュ21錠、28錠	61
アンチピリン	43
アンテベート	66
アンピシリン水和物	58, 69
アンピロキシカム	44
アンフェナクナトリウム水和物	44, 68
アンブロキシソール塩酸塩	30, 45
アンメルツヨコヨコ	41

い

イーケプラ錠・ドライシロップ	56
イサロン	49
イソコナゾール硝酸塩	36
イソコナールRカプセル	53
イソジン	66
イソジンうがい薬	39
イソジンガーグル液	64, 68
イソジンきず薬	39
イソジン軟膏	39
イソプロピルアンチピリン	44, 68
イソプロピルウノプロストン	64
イソプロピルメチルフェノール	41, 42
イトプリド塩酸塩	49
イドメシニコワ	65
イトラコナゾール	60, 69
イトリゾールカプセル・内用液	60, 69
イナビル吸入粉末剤	60
イノセアバランス	31
イノセアワンブロック	31
イノック下痢止め	33
イブ	28
イブシロン-アミノカブロン酸	37, 38
イブプロフェン	28, 29, 44, 68
イブプロフェンピコノール	41, 66
イブラグリフロジン L-プロリン	58
イプラトロピウム臭化物水和物	46
イミグラン	44
イミダフェナシン	51

イミダプリル塩酸塩	53
イリボー	51
イルベサルタン	53
イルベタン錠	53
インヴェガ錠	55
インサイドテープ	40
インサイドパップ	65
インタール	47
インタール点眼液	63
インタール点鼻液	63
インテバン SP	44, 68
インドメタシン	40, 44, 65, 68
インドメタシンファルネシル	44
インヒベース錠	53
インフリー	44
インフルエンザ HA ワクチン	60

う

ヴァイクスメディケイテッドドロップ B・C・GA・GF・HL・L・O・R・U	39
うがい薬コロロ SP	39
ウフェナート	41, 65
ウラリット配合錠	57
ウリアデック錠	57
ウリトス	51
ウルグートカプセル	49, 70
ウルソ	51
ウルソデオキシコール酸	32, 33, 51

え

エイゾプト懸濁性点眼液	64
エージーアレルカット EX(季節性アレルギー専用)	34
エースコール錠	53
エーゼットアルファ	38
エーワン L	42
エーワン L クリーム	42
エーワン L スプレー	42
エカベトナトリウム水和物	49
エキセナチド	58
エクア錠	58
エクセグラン	56
エコリシン	63
エシタロプラムシュウ酸塩	55
エスゾピクロン	54
エストラジオール	62
エソメプラゾール	48
エチゾラム	54, 70
エチニルエストラジオール	61, 62
エトドラク	44, 68
エナラプリルマレイン酸塩	53
エバスチン	34, 47
エバステル	47
エバステル AL	34
エバミール錠	54, 70
エバユースにきび薬	41
エビオス錠	32

エピデュオゲル	66
エピナスチン塩酸塩	34, 47, 63
エピネフリン	67
エビリファイ	55
エフィナコナゾール	65
エフコート	39
エフストリン去たん錠	30
エフストリントローチ	30
エプラジノン塩酸塩	45
エペリゾン塩酸塩	45
エメダスチンフマル酸塩	47
エリーテン錠	49
エリスロシン	59, 69
エリスロマイシン	59, 69
エリスロマイシン錠	59, 69
エリスロマイシンラクトビオン酸塩	63
エルベインコーワ	28
エルトリブタン臭化水素酸塩	44
塩化カリウム	38, 64, 68
塩化カルシウム水和物	68
塩化セチルピリジニウム	30
塩化ナトリウム	38, 64, 68
塩化マグネシウム	68
塩酸セルトラリン	55
塩酸テトラヒドロゾリン	34, 62
塩酸メクリジン	35
塩酸リドカイン	34, 42
塩酸ロペラミド	33
塩酸ロメリジン	44
エンテロノン-R 散	50, 70
エンバグリフロジン	58
エンペシド L	36

お

オイグルコン錠	57
オイラックスクリーム	65
オイラックスソフト	41
近江兄弟社メンターム EX ソフト	41
オーキスタスタービューハイラー	46
オーグメンチン配合錠	58
オーソ 777-21 錠	61
オーソ M-21 錠	61
オーラ注歯科用	67
オキサトミド	47
オキサプロジン	44, 68
オキサロール軟膏・ローション	66
オキナゾール L100	36
オキシコナゾール硝酸塩	36, 42
オキシテトラコーン歯科用挿入剤	67
オキシテトラサイクリン塩酸塩	41, 65, 67
オキシドール	39
オキシブチニン塩酸塩	51
オキシメタゾリン塩酸塩	34
オキセサゼイン	31
オクトチアミン	71
オステラック錠	44, 68
オスバン	66

オスバン S	39
オゼックス	59
オゼックス錠	69
オゼックス点眼液	63
オゼノキサシン	65
オセルタミビルリン酸塩	60
オドリック錠	53
オノテース	49, 70
オノプローゼ A	49, 70
オノン	46
オフロキサシン	59, 63, 69
オベガン	64
オベリード	64
オマリグリプチン	57
オムニードケトプロフェンパップ	40
オメブラール錠	48
オメブラゾール	48
オメブラゾン錠	48
オラスポア小児用ドライシロップ	58
オラセフ錠	58, 69
オラドル	68
オランザピン	55
オルベスコインヘラー	47
オルメサルタンメドキシミル	53
オルメテック	53
オロナイン H 軟膏	41
オロパタジン塩酸塩	47, 63
オングリザ錠	57

か

ガーダシル	60
カイベール C	32
カイラックス	32
カイロック細粒	48
過酸化ベンゾイル	66
ガスコン	49
ガスター10	31
ガスター10 S 錠	31
ガスター10 内服液	31
ガスター10(散)	31
ガスター錠・D 錠・散	48
ガストール細粒	32
ガストール錠	32
ガストローム顆粒	49
ガスモチン	49
カゼイ菌	33
ガチフロキサシン水和物	63
ガチフロ点眼液	63
カトレップ	65
カナグリフロジン水和物	58
カナグル錠	58
ガナトン錠	49
カナマイシン	59
カナマイシンー硫酸塩	59
ガバペン	56
ガバペンチン	56
カフェイン	43
カフェイン水和物	29, 30

カプトプリル	53
カプトリル	53
カルスロット錠	52
カルデナリン	53
カルニチン塩化物	31
カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物	71
カルバマゼピン	56, 71
カルブロック錠	53
カルプロニウム塩化物水和物	66
カルボキシメチルセルロースナトリウム	50
カルメロースナトリウム	50
カルメロースナトリウム原末「マルイシ」	50
カロナール	43, 68
乾燥酵母	32, 50
乾燥酵母エビオス	50
乾燥水酸化アルミニウムゲル	28, 31, 48
乾燥炭酸ナトリウム	64
含嗽用ハチアズレ顆粒	64, 68
カンデサルタンシレキセチル	53

き

キオフィーバ	29
キサラタン点眼液	64
キズアワワ	40
キナプリル塩酸塩	53
キプレス	46
逆性石ケン	66
キャベジン U コーワ錠	49
キューバルエアゾール	47
キョウベリン錠	50
強ミヤリサン(錠)	33
キョーリン AP2 配合顆粒	43, 68
キンカン虫よけスプレーP	41

く

グ・スリーP	35
グアイフェネシン	30
グアヤコールスルホン酸カリウム	29, 30
クールワン去たんソフトカプセル	30
クールワン鼻スプレー	34
クエチアピフマル酸塩	55
クエン酸	43
クエン酸カリウム	57
クエン酸第一鉄ナトリウム	56
クエン酸ナトリウム水和物	57
組換え沈降 2 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	60
組換え沈降 4 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン	60
グラクティブ錠	58
クラバモックス小児用配合ドライシロップ	58
クラビット錠・細粒	59, 69
クラビット点眼液	63
クラブラン酸カリウム	58
クラリシッド	59, 69
クラリス	59, 69
クラリスロマイシン	59, 69
クラリチン	48

グランダキシム	56
クリアナール	45
グリクロピラミド	57
グリコピロニウム臭化物	46
グリコラン錠	57
グリシン	51
グリチルリチン酸	33, 37, 38, 39, 41
グリチルリチン酸カリウム	33
グリチルリチン酸ニカリウム	37, 38, 39, 40, 42
グリチルリチン酸モノアンモニウム	51
グリチルレチン酸	36, 39, 40, 41, 42
グリチロン配合錠	51
クリノフィブラート	52
クリノリル錠	44
グリベンクラミド	57
グリマック配合顆粒	49
グリメピリド	57
クリンダマイシンリン酸エステル	65
クリンダマイシンリン酸エステル水和物	66
グルコバイ	57
グルコン酸カルシウム水和物	33
グレースビット	59
クレストール	52
クレゾールスルホン酸カリウム	45
クレナフィン爪外用液	65
クレマスタチンフマル酸塩	47, 71
グレルラン・ビット	28
クロザピン	55
クロザリル錠	55
クロタミトン	41, 42, 65
クロダミンシロップ	47
クロチアゼパム	54, 70
クロトリマゾール	36
クロナゼパム	56
クロバザム	56
クロフェダノール塩酸塩	45
クロベラスチン	45
クロモグリク酸ナトリウム	34, 38, 47, 63
クロルフェニラミンマレイン酸塩	29, 30, 33, 34, 37, 38, 39, 40, 41, 43, 47, 71
クロルフェネシンカルバミン酸エステル	45
クロルプロパミド	57
クロルヘキシジン塩酸塩	36, 67
クロルヘキシジングルコン酸塩	39, 41, 66

け

ケイ酸アルミン酸マグネシウム	31
ケイ酸マグネシウム	31
結合型エストロゲン	61
ケトチフェンフマル酸塩	34, 38, 47, 63
ケトプロフェン	40, 44, 65, 68
ケトプロフェン坐剤	44, 68
ケナログ口腔用軟膏	64, 68
ケフラル	58, 69
ケフレックス	58, 69
ゲンタシン	65
ゲンタマイシン硫酸塩	63, 65, 66

こ

抗菌アイリス使いきり	37
合成ケイ酸アルミニウム	48, 69
合成ヒドロタルサイト	28, 31, 32
コーラック	32
コーラック坐薬タイプ	33
コデインリン酸塩	45
コデインリン酸塩水和物	45
コDESTESINTローチ	30
コデミン G トローチ	30
こどもセンペア S	35
こどもパブロン坐薬	29
こどもリングルサット	28
コナン錠	53
コニール錠	52
コハク酸ソリフェナシン	51
コバシル錠	53
コランチル A 顆粒	31
コリオバン	49
コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	63
コリスチン硫酸塩	41
コルドリン	45
コルヒチン	57
コルヒチン錠「タカタ」	57
コロスキ	40
コロネル	51
コンク・アシドフィルス菌末	33
コンク・ビフィズス菌末	33
コンク・フェーカリス菌末	33
コンスタン錠	54, 70
コンタック 600 ファースト	34
コンタックせき止め ST	30
コンタックせき止め Z	34
コンタック鼻炎 Z	34
コンタック鼻炎スプレー〈季節性アレルギー専用〉	34
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム	37, 38
コンドロイチン硫酸ナトリウム	38
コンベック	65

さ

サーバリックス	60
細菌性脂肪分解酵素	49
ザイザル	48
サイレース錠	54, 70
ザイロリック錠	57
サインバルタカプセル	55
サカムケア a	40
サキサグリブチン水和物	57
酢酸 d- α -トコフェロール	37, 38
酢酸ノルエチステロン	62
サクロン Q	31
サクロン S	31
ザジテン	47
ザジテン AL 点眼薬	38
ザジテン AL 鼻炎カプセル	34
ザジテン AL 鼻炎スプレー α	34
ザジテン点眼液	63

ザジテン点鼻液	63
サトウ口内軟膏	39
ザナミビル水和物	60
ザファテック錠	58
サラテクト FA	41
サリチルアミド	29, 43
サリチル酸グリコール	40, 41
サリチル酸メチル	41
サリベートエアゾール	68
サルコートカプセル外用	68
サルタノールインヘラー	46
ザルトプロフェン	44, 68
サルブタモール硫酸塩	46
サルメテロールキシナホ酸塩	46
サロメチール FB ゲル α	40
サロメチールジクロローション	40
サロンパス EX	40
サワシリン	58, 69
酸化亜鉛	36, 41
酸化マグネシウム	28, 31, 50, 69
サンコバ点眼液	63
ザンタック錠	48
サンテ 40 プラス	37
サンテアルフリー新目薬	38
サンテ抗菌新目薬	37
サンテドウ	37

し

ジアスターゼ	49, 70
ジアスマン	49, 70
ジアゼパム	54, 70
シアノコバラミン	36, 37, 63, 71
シーブリ吸入用カプセル	46
ジェイゾロフト	55
ジェニナック錠	59
ジオクチルソジウムスルホサクシネート(DSS)	32
歯科用キシロカイン	67
歯科用シタネスト-オクタプレシン	67
ジキリオンシロップ	47
ジクアス点眼液	64
ジクアホソルナトリウム	64
シグナル下痢止め	33
シクレソニド	47
ジクロテクト PRO スプレー	40
ジクロテクト PRO テープ	40
ジクロフェナクナトリウム	40, 44, 65, 68
ジサイクロミン塩酸塩	31
ジスロマック	59
ジスロマック錠・SR	69
ジソペイン錠	44, 68
シタグリブチンリン酸塩水和物	58
シタフロキサシン水和物	59
ジドロゲステロン	61
ジヒドロコデインリン酸塩	29, 30
ジフェニドール塩酸塩	48
ジフェニルピラリン塩酸塩	29
ジフェンヒドラミン	40, 41, 65
ジフェンヒドラミン塩酸塩	33, 35, 40, 41, 42, 47, 71

ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	35, 48, 67
ジブカイン塩酸塩	40
ジフルカンカプセル・ドライシロップ	60
ジフルコルトロン吉草酸エステル	65
ジフルプレドナート	65
ジプレキサ	55
シプロキサシン錠	59
ジプロフィリン	30, 35, 48
シプロフロキサシン	59
シプロヘプタジン塩酸塩水和物	47, 71
次没食子酸ビスマス	62
シムビコートタービュヘイラー	46
シメチジン	48
ジメチルポリシロキサシン	31, 33, 49
シメトリド	43, 68
ジモルファンリン酸塩	45
ジメンヒドリナート	48
シモアキュア	40
ジャディアンス錠	58
ジャスビア錠	58
重質酸化マグネシウム	50
酒石酸トルテロジン	51
笑気ガス	67
硝酸イソソルビド	53
小中学生用ストッパ下痢止め EX	33
小児用バファリン C II	28
小児用ペレックス配合顆粒	43
ジョサマイシン	59, 69
ジョサマイシン錠	59, 69
シラザプリル水和物	53
ジルチアゼム塩酸塩	53
ジルテック	47
シロドシン	51
新エスタック「W」	29
新エスベナントローチ	30
シングレア	46
人工涙液マイティア点眼液	64
新サルファ・ルビー	37
新タントーゼ A	33
シンバスタチン	52
新ビオチアス	32
新ビオフェルミン S 細粒	33
新ビオフェルミン S 錠	33
シンフェーズ T28 錠	61
新ブロン液エース	30
シメトレル	60
新ルビカップ	30
新ルルエース	29
新ルル点鼻薬	34
新レシカルボン坐剤	50
新レシカルボン坐剤 S	33
シンレスタール	52
新レブメント-FN	40

す

水酸化マグネシウム	31, 32, 48
スイニー錠	57
スイマグ	32

スーグラ錠	58
スカイナーAL錠	34
スカイラブソフト	35
スキャンドネスト	67
スキンペープミスト SH	41
スクラート胃腸薬(顆粒)	31
スクラルファート	31
スクラルファート水和物	31, 49, 69
スコポラミン臭化水素酸塩水和物	35
スコルバEX	42
スタデルム	66
ステイバンパップ	65
ステーブラ	51
ストッパ下痢止め EX	33
ストナアイビー	29
ストナ去たんカプセル	30
ストナリニ・ガード	33
ストナリニ Z	34
ストマオフ糖衣錠	31
スナイリンドライシロップ	50
スピリーバ	46
スプラタストシル酸塩	47
スポレキサント	55
スマイルアミノウォッシュ	38
スマイルコンタクトピュア	38
スマトリプタンコハク酸塩	44
スリンダク	44
スルーラックプラス	32
スルタミシリントシル酸塩水和物	58
スルピリド	55
スルファメキサゾール	37, 59
スルファメキサゾールナトリウム	37
スロービッド	46

せ

セイブル錠	57
セキトローチ	30
セスデンカプセル・細粒	49
ゼストリル錠	53
ゼスラン	47, 71
セタプリル錠	53
セチリジン塩酸塩	34, 47
セチルピリジニウム塩化物水和物	30, 39, 40, 68
セチルピリジニウム塩化物トローチ	68
セトラキサート塩酸塩	32, 49
セニラン	54, 70
ゼノールエクサム SX	40
ゼノールエクサム液ゲル	40
セバミット	52
ゼビアックスローション	65
セビーAZ のどスプレークール	39
セファクロル	58, 69
セファドール	48
セファレキシム	58, 69
セフィキシム水和物	58
セフォチアムヘキシセチル塩酸塩	58
セフカペンピボキシル塩酸塩水和物	58, 69
セフジトレンピボキシル	58, 69

セフジニル	58, 69
セフスパン	58
セフゾン	58, 69
セフチブテン水和物	59
セフテムカプセル	59
セフテラムピボキシル	58, 69
セフポドキシムプロキセチル	59, 69
セフロキサジン水和物	58
セフロキシムアキセチル	58, 69
セルシン錠・散・シロップ	54, 70
セルテクト	47
セルベックス	49
セルラーゼ AP3	49
セルロシン AP	49, 70
セレキノ	51
セレコキシブ	44, 68
セレコックス錠	44, 68
セレニカ R	56
セレベント	46
セロクエル	55
繊維素分解酵素	49
センセファリン	58, 69
センノシド	32
センノシド A・B	50
センノシドカルシウム	32
センノシド錠	50
センパア	35
センパア S	35

そ

ゾーミグ	44
ゾニサミド	56
ゾピクロン	54, 70
ゾビラックス眼軟膏	63
ゾビラックス錠・顆粒・軟膏・クリーム	60
ソファルコン	49
ソフィア A 配合錠	62
ソフィア C 配合錠	62
ソフティア点眼液	63
ソフトサンティア	38
ソフラチュール貼付剤	65
ソラナックス錠	54, 70
ソランタール錠	44, 68
ゾルピデム酒石酸塩	54
ゾルミトリブタン	44
ソレトン錠	44, 68
ソロン	49

た

タカチアスターゼ N1	32
ダイアルミネート	43, 68
第一三共胃腸薬コアブロック散剤	32
第一三共胃腸薬コアブロック錠剤	32
耐性乳酸菌	50, 70
大腸菌死菌浮遊液	62
ダイプロセル	66

タイムコール去たん錠	30
タイレノール A	28
タイワケシノールトローチ	30
タウリン	37, 38
ダオニール錠	57
タガメット錠・細粒	48
タクロリムス水和物	65
タケキャブ錠	48
タケダ乗り物酔い止め	35
タケブロンカプセル・OD 錠	48
タナトリル錠	53
タナベ胃腸薬ウルソ	32
ダパグリフロジン	58
タフマック E	49, 70
タフルプロスト	64
タブロス	64
タベジール	47, 71
ダマリン L	42
ダマリン S	42
タミナス A 錠	33
タミフル	60
タムスロシン塩酸塩	51
ダラシン T	65
タリオン	48
タリビッド	63
タリビッド錠	59
ダルメートカプセル	54, 70
炭酸水素ナトリウム	31, 32, 33, 50, 64, 68, 69
タンナルビン	50
タンニン酸アルブミン	33, 50
タンニン酸ベルベリン	33

ち

チアトン	51
チアマゾール	61
チアミトール	66
チアラミド塩酸塩	44, 68
チウラジール錠	61
チオトロピウム臭化物水和物	46
チキジウム臭化物	51
チザニジン塩酸塩	45
チバセン錠	53
チペピジンヒベンズ酸塩	30, 45
チメピジウム臭化物水和物	49
チモール	41
チャルドール	50
チョコラ BB 口内炎リペアショット	39
チラーヂン S	61
チロナミン錠	61
沈降炭酸カルシウム	31, 32

っ

ツージーQ	32
-------	----

て

デアメリン S 錠	57
ティアレ抗菌目薬	37
ディート	41
ディオバン	53
ディフェリンゲル	66
テオドール	46
テオフィリン	46
テオロング	46
デカリニウム塩化物	39, 64, 68
デキサメタゾン	64, 68
デキサメタゾンプロピオン酸エステル	65
デキサルチン口腔用軟膏	64, 68
デキストロメトर्फアン臭化水素酸塩水和物	30, 45
デキストロメトर्फアンフェノールフタリン塩	30
テグレートール	56, 71
デザレックス錠	47
デスパコーワ口腔用クリーム	67
デスロラタジン	47
デソゲストレル	61
デタントール	53
テツクール徐放錠	56
テトラサイクリン塩酸塩	59, 65, 67, 69
テトラサイクリン塩酸塩/パスタ	67
テトラヒドロゾリン鼻用スプレー	62
デルシトールカプセル	51
テネリア錠	58
テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物	58
デパケン	56
デパス	54, 70
テプレノン	49
デプロメール錠	55
デベルザ錠	58
デメチルクロルテトラサイクリン塩酸塩	59, 65
テモカプリル塩酸塩	53
デュアック配合ゲル	66
デュファストン錠	61
デュロキセチン塩酸塩	55
テラ・コートリル軟膏	67
デラプリル塩酸塩	53
テラポニンセキトローチ	30
テラマイシン軟膏(ポリミキシン B 含有)	65
テラマイシン軟膏 a	41
テルギン G	47
テルネリン	45
テルビナフィン塩酸塩	42, 60, 65
テルペラン錠	49
テルミサルタン	53
デルモゾール G	66
テレミンソフト坐薬	50
デンターグル含嗽用散	68
天然ケイ酸アルミニウム	50, 69

と

糖化菌	32, 50, 70
銅クロロフィリンカリウム	31

銅クロロフィリンナトリウム	31
トークール	41
トーフチーム配合顆粒	43
ドキサゾシンメシル酸塩	53
ドキシサイクリン塩酸塩水和物	59, 69
トクホン チール A	41
トクホン E	40
ドグマチール	55
トクレスス/パンスールカプセル	45
トコフェロール酢酸エステル	36, 38, 40, 41, 62, 71
トスキサシン錠	59, 69
トスフロキサシントシル酸塩水和物	59, 63, 69
トスフロ点眼液	63
トビエース錠	51
トピロキソスタット	57
トピロリック錠	57
トフィソパム	56
トホグリフロジン水和物	58
ドミフェン臭化物	68
トミロン	58, 69
トメダインコーワフィルム	33
トライコア錠	52
トラゼンタ錠	58
トラニラスト	38, 47, 64
トラネキサム酸	47, 71
トラバタンズ点眼液	64
トラベルミン	35
トラベルミン チュロップぶどう味	35
トラベルミン チュロップレモン味	35
トラベルミン配合錠	48
トラボプロスト	64
トラマゾリン塩酸塩	62
トラマゾリン点鼻液	62
ドラマミン錠	48
トラメラス	64
トランコロン錠	51
トランサミンカプセル・錠・散・シロップ	47, 71
トランドラプリル	53
トリアゾラム	54, 70
トリアムシノロンアセトニド	64, 68
ドリエル	35
トリキュラー錠 21、28	61
トリブラ S 錠	35
トリベノシド	62
トリメトプリム	59
トリメブチンマレイン酸塩	51
トルソプト点眼液	64
ドルゾラミド塩酸塩	64
ドルマイシン軟膏	41
トレドミン錠	55
トレラグリブチンコハク酸塩	58
トロキシピド	31
ドロスピレノン	62
ドンベリドン	49

な

ナイキサン錠	44, 68
ナウゼリン	49

ナザール α AR(季節性アレルギー専用)	34
ナザールブロック	34
ナシビン M スプレー	34
ナジフロキサシン	65
納豆菌	32
ナパゲルン	65
ナファゾリン塩酸塩	34, 40
ナファゾリン硝酸塩	62
ナフトピジル	51
ナブメトン	44
ナプロキセン	44, 68
ナポール	65
ナポール SR カプセル	44
ナボリン フェルビナク 70	40
なみだロートコンタクト	38
ナラトリブタン塩酸塩	44

に

ニカルジピン塩酸塩	52
ニコチン酸アミド	33
ニコチン酸ベンジルエステル	40
ニザチジン	31, 48
ニシモン液小児用	30
ニソルジピン	52
ニッシンせき止め顆粒	30
ニトラゼパム	54, 70
ニトロール錠・R カプセル・スプレー	53
ニトログリセリン	53
ニトロダーム TTS	53
ニトロペン舌下錠	53
ニバジール錠	52
ニフェジピン	52
ニフラン錠	44, 68
ニフラン点眼液	64
ニボラジン	47, 71
乳酸菌	32
ニュータムシチンキゴールド	42
ニューラーゼ	32
ニューロタン錠	53
尿素	42
ニルバジピン	52

ね

ネオキシテープ	51
ネオスチグミンメチル硫酸塩	37
ネオステリングリーンうがい液	68
ネオデイ	35
ネオファーゲン C 配合錠	51
ネオフィリン原末・錠	46
ネオヨジン	66
ネオヨジンうがいぐすり	39
ネオレスタミンコーワ散	47
ネキシウムカプセル	48
ネシーナ錠	57
ネチコナゾール塩酸塩	65
ネリゾナ	65

ネルボン 54, 70

の

ノアール P ガード点眼液.....	38
ノアール SG.....	37
ノアール小児用.....	37
ノアールワン SG.....	37
ノアルテン錠.....	61
ノイエル.....	49
ノイロピタン配合錠.....	71
濃厚膵臓性消化酵素.....	49
濃厚パンクレアチン.....	49
ノーシンアイ頭痛薬.....	28
ノスカピン.....	29, 30
ノスカピン塩酸塩水和物.....	29
ノドロップコフ.....	30
ノナン酸バニリルアミド.....	41
ノニル酸ワニリルアミド.....	41
ノバボン L トローチ.....	39
ノバミン.....	55
乗り物酔い止め QD 錠.....	35
ノルエチステロン.....	61, 62
ノルゲストレル.....	62
ノルバスク.....	53
ノルフロキサシン.....	59, 63
ノルレボ錠.....	61

は

バイエッタ.....	58
バイエルアスピリン.....	28
ハイシー顆粒.....	71
ハイスキール.....	40
バイナス錠.....	48
ハイペン錠.....	44, 68
バイミカード錠.....	52
パキシル.....	55
バキソ.....	44
バクシダール錠.....	59
バクシダール点眼液.....	63
白色ワセリン.....	40
バクタ.....	59
バクトラミン配合錠・配合顆粒.....	59
バシトラシン.....	41, 65
パスタイム FX7.....	40
パセトシン.....	58, 69
パソレーターテープ.....	53
パタノール点眼液.....	63
ハッカ油.....	41
バップフォー.....	51
バナナ.....	59, 69
バファリン A.....	28
バファリン EX.....	28
バファリン配合錠 A330.....	43, 68
バファリンルナ J.....	28
パブロン S ゴールド W 錠.....	30
パブロン S ゴールド W 微粒.....	30

パブロンうがい薬 AZ.....	39
パブロン点鼻クイック.....	34
バラシクロビル塩酸塩.....	60
パラセタモール.....	43, 68
バラマイシン軟膏.....	65
バリアクト Hi 液.....	42
バリアクト Hi クリーム.....	42
パリエット錠.....	48
ハリケイン.....	67
パリピリドン.....	55
バルコーゼ顆粒.....	50
バルサルタン.....	53
ハルシオン錠.....	54, 70
バルトレックス.....	60
ハルナール D 錠.....	51
バルニジピン塩酸塩.....	52
バルプロ酸ナトリウム.....	56
パルミコート.....	47
パロキセチン塩酸塩水和物.....	55
パンクレアチン.....	49, 70
パンシロンビオリズム健胃消化整腸薬.....	31
パンスポリン T 錠.....	58
パンテノール.....	37, 38, 41
バンテリンコーワ液 S.....	40
バンテリンコーワゲル LT.....	40
バンテリンコーワ新ミニパット.....	40
パントテン酸カルシウム.....	31
パンラクミン錠.....	32

ひ

ヒアルロン酸ナトリウム.....	64
ヒアレイン.....	64
ピーエイ配合錠.....	43
ビーゾカイン歯科用ゼリー.....	67
ヒーロン.....	64
ピオグリタゾン塩酸塩.....	57
ピオチアスターゼ.....	32
ピオチアスターゼ 2000.....	31, 32
ピオチン.....	32
ピオフェルミン R.....	50, 70
ピオフェルミン錠剤.....	50, 70
ピオフェルミン配合散.....	50, 70
ピオフェルミン便秘薬.....	32
ピオラクターゼ.....	32
ビクシリンカプセル・ドライシロップ.....	58, 69
ビクトーザ.....	58
ピコスルファートナトリウム水和物.....	32, 50
ピコダラム顆粒.....	50
ピコラックス.....	32
ピサコジル.....	32, 50
ヒストミン鼻炎カプセル Z.....	34
ビソルボン錠・細粒.....	45
ビタバスタチンカルシウム水和物.....	52
ビタミン B6.....	38
ビタミン E 酢酸エステル.....	41
ビダラピン.....	42, 60
ヒダントール.....	56
ビデュリオン.....	58

ピドキサール錠	71
ヒドロキシエチルセルロース	38
ヒドロキシジン	47
ヒドロコルチゾン	67
ヒドロコルチゾン酢酸エステル	67
ヒドロコルチゾン酪酸エステル	65
ヒノキチオール	67
ヒノポン口腔用軟膏	67
ヒビスコール S	39
ヒビテン	66
ビフィズゲン散	50, 70
ビフィズス菌	32, 33, 50, 70
ビブラマイシン錠	59, 69
ヒプロメロース	38
ヘベルナ散・糖衣錠	47
ヒポカカプセル	52
ビホナゾール	42
ビュークリア AL クール	38
ビュースルー・ソフト	32
ピリドキサルリン酸エステル水和物	71
ピリドキシン塩酸塩	33, 35, 37, 38, 71
ビルダグリプチン	58
ヒルドイド	66
プレチア	47
ピレンゼピン塩酸塩水和物	32
ピロエース Z ジェットスプレー	41
ピロキシカム	44
ピロキシリン	40
ヒロダーゼ	49
ピロット A 錠	33

ふ

ファイチ	36
ファボワール錠 21、28	61
ファミシクロビル	60
ファミビル錠	60
ファモチジン	31, 48
フィニッシュコーワ	39
フェイタス Z α ローション	40
フェイタスシップ	40
フェキシフェナジン塩酸塩	34, 47
フェソテロジンフマル酸塩	51
フェナゾックスカプセル	44, 68
フェントイン	56
フェノバル	56
フェノバルビタール	56
フェノバルビタールナトリウム	56
フェノフィブラート	52
フェブキソスタット	57
フェブリク錠	57
フェミニーナ 腔カンジダ錠	36
フェミニーナ軟膏 S	41
フェリア	28
フェリブレシン	67
フェルピナク	40, 65
フェルムカプセル	56
フェロ・グラデュメット錠	56
フェロミア	56

フォシーガ錠	58
フォスターALG	38
ブスコパン A 錠	31
ブスコパン M カプセル	31
ブスコパン錠	49
フスタゾール	45
ブチスコミン	31
ブチルスコポラミン臭化物	28, 31, 49
フッ化ナトリウム	39
ブデソニド	46, 47
ブテナフィン塩酸塩	42, 65
ブドウ糖	38
ブドステイン	45
ブトロピウム臭化物	49
ブナゾシン塩酸塩	53
フマル酸第一鉄	56
フラジオマイシン硫酸塩	65, 68
ブラゾシン塩酸塩	53
ブラダロン	51
ブランバール配合錠	62
ブランプロフェン	38, 44, 64, 68
プラバスタチンナトリウム	52
フラビタン	63, 71
フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウム	37, 63, 71
フラベリック錠	45
フラボキサート塩酸塩	51
フランドル	53
ブランルカスト水和物	46
フリバス	51
ブリビナ液	62
プリンゾラミド	64
プリンペラン錠・細粒・シロップ	49
フルカムカプセル	44
フルコナゾール	60
フルスルチアミン	71
ブルゼニド錠	50
フルタイド	47
フルチカゾンプロピオン酸エステル	46, 47, 63
フルティフォームエアゾール	46
フルナーゼ	63
フルニトラゼパム	54, 70
フルバスタチンナトリウム	52
ブルフェン	44, 68
フルボキサミンマレイン酸塩	55
フルラゼパム塩酸塩	54, 70
フルルバンパップ	65
フルルビプロフェン	44, 65, 68
ブレガバリン	44
フレッシュアイ AG	38
フレッシュアグネクリーム	41
ブレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル	66
ブレマリン錠	61
ブレラン錠	53
プロクロルペラジン	55
プロザイム 6	31
フロジン外用液	66
プロチゾラム	54, 70
プロテカジン	48
プロトピック軟膏	65

ブロナンセリン	55
プロバジール錠	61
プロバリン原末	54, 70
プロピトカイン塩酸塩	67
プロピベリン塩酸塩	51
プロピルチオウラシル	61
プロブコール	52
プロプレス錠	53
フロベン	44, 68
プロマゼパム	54, 70
プロマック	49
プロムヘキシソリン塩酸塩	30, 45
プロムワレリル尿素	54, 70
プロメタジン	47
プロメタジンメチレンジサリチル酸塩	43
プロメライン	62
フロモックス	58, 69
プロモバレリル尿素	54, 70
フロリード	60
フロリードゲル	69
フロリズム	35

へ

ペアアクネクリーム W	41
ベイスン	57
ペオン錠	44, 68
ベガモックス点眼液	63
ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	34, 47, 68
ベザトール SR 錠	52
ベザフィブラート	52
ベザリップ錠	52
ベシカム	66
ベシケア	51
ベタヒスチンメシル酸塩	48
ベタメタゾン吉草酸エステル	66
ベタメタゾンジプロピオン酸エステル	66
ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル	66
ベッセン H2	31
ベトネベート	66
ペナゼプリル塩酸塩	53
ベニジピン塩酸塩	52
ベネキサート塩酸塩ベータデクス	49, 70
ベネトリン吸入液	46
ヘパリン類似物質	40, 66
ベピオゲル	66
ベポタスチンベシル酸塩	48
ヘマニック	36
ペミラストン点眼液	64
ペミロラストカリウム	34, 38, 64
ヘモクロンカプセル	62
ヘモナーゼ配合錠	62
ペラミビル水和物	60
ペリアクチン	47, 71
ペリオクリン歯科用軟膏	67
ペリオフィール歯科用軟膏	67
ペリチーム配合顆粒	49, 70
ペリンドプリルエルブミン	53
ペルジピン錠・散・LAカプセル	52

ベルソムラ錠	55
ヘルベシアクリーム	42
ヘルベッサー錠・Rカプセル	53
ベルベリン塩化物水和物	33, 50
ヘルミチン S 坐剤	62
ペレックストローチ	39
ペレックス配合顆粒	43
ペロスピロン塩酸塩	55
ペロット下痢止め	33
ベンザ鼻炎スプレー	34
ベンザブロックトローチ	30
ベンザリン	54, 70
ベンザルコニウム塩化物	34, 39, 40, 42, 66, 67
ベンズブロマロン	57
ベンゼトニウム塩化物	34, 40, 68
ベントキシベリンクエン酸塩	29, 45
ベントバルビタールカルシウム	54, 70
ベンプロペリンリン酸塩	45

ほ

ホウ酸	64
ボグリボース	57
ポジナール M 錠	33
ポステリザン(軟膏)	62
ホスホマイシンカルシウム水和物	59
ホスミン錠・ドライシロップ	59
ボノプラザン	48
ポビドンヨード	39, 64, 66, 68
ポポンピュメリ目薬 R	37
ホモクロミン錠	48, 71
ホモクロルシクリジン塩酸塩	48, 71
ポラキス錠	51
ボラギノール M 坐剤	36
ボラギノール M 軟膏	36
ボラザ G	62
ボラブレジンク	49
ボラミン錠・散・シロップ・ドライシロップ	47, 71
ポリカルボフィルカルシウム	51
ポリトーゼ	49, 70
ポリパーゼ	49, 70
ポリフル	51
ポリミキシソリン B 硫酸塩	41, 65
ポルタレン	44, 65, 68
ポルタレン AC ローション	40
ポルタレン EX スプレー	40
ポルタレン EX テープ	40
ホルモテロールフマル酸塩水和物	46
ボレー	65
ボンタール	44, 68
ボンラーゼ	49, 70

ま

マーズレン	49, 69
マーベロン 21, 28	61
マーロックス懸濁用配合顆粒	48

マイザー	65
マイスタン	56
マイスリー錠	54
マイトラベル錠	35
マキサカルシトール	66
マキロン S	40
マクサルト	44
マグミット	50
マグラックス	50
マスチゲン錠	36
マズレニンガーゲル散	64, 68
マニジピン塩酸塩	52
マミターゼ	49
マリゼブ錠	57
マルファ懸濁用配合顆粒	48
マレイン酸フェニラミン	35

み

ミオコールスプレー	53
ミオナール	45
ミカルデイス錠	53
ミグシス錠	44
ミグリトール	57
ミグレニン	43
ミコナゾール	60, 69
ミコナゾール硝酸塩	36, 42
ミニプレス錠	53
ミノキシジル	41
ミノサイクリン塩酸塩	59, 67, 69
ミノマイシン錠・カプセル・顆粒	59, 69
ミヤ BM	50, 70
宮入菌 (酪酸菌)末	32, 33
ミヤリサン U 錠	32
ミリステープ	53
ミルタザピン	55
ミルタックスパップ	65
ミルナシبران塩酸塩	55
ミルマグ液	32

む

ムイロジン細粒	57
ムコサール	45
ムコスタ	49
ムコスタ点眼液 UD	64
ムコソルバン	45
ムコダイン	45
無水カフェイン	29, 30, 35, 43, 44, 68
無水リン酸水素カルシウム	31
無水リン酸二水素ナトリウム	33, 50
ムヒ S	41
ムヒソフト GX	41
ムヒソフト GX 乳状液	41
ムヒのきず液	40
ムヒの虫よけムシペール α	41

め

メイアクト MS	58, 69
メイラックス	54, 70
メキタジン	33, 47, 71
メサデルム	65
メジコン散・錠	45
メジコン配合シロップ	45
メシル酸ガレノキサシン水和物	59
メストラノール	62
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	31, 32
メチルメチオニンスルホニウムクロリド	49
メデイトリート	36
メデイトリートクリーム	36
メトグルコ錠	57
メトクロプラミド	49
メトホルミン塩酸塩	57
メノエイドコンビパッチ	62
メバロチン	52
メピバカイン塩酸塩	67
メフェナム酸	44, 68
メペンゾラート臭化物	51
メリスロン錠	48
メルカゾール錠	61
メロキシカム	44
メンソレータムフレディ CC クリーム	36
メンソレータムフレディ CC 腫錠	36
メンタックス	65
メンフラ フェルビナク	40
メンフラ A	41

も

モービック錠	44
モーラス	65
モキシフロキサシン塩酸塩	59, 63
モサブリドクエン酸塩水和物	49
モフェゾラク	44, 68
モメタゾンフランカルボン酸エステル	47
モルシン	49, 70
モンテルカストナトリウム	46

や

ヤーズ配合錠	62
ヤクバンテープ	65
ヤクルト BL 整腸薬	33

ゆ

ユースキン I	41
ユースキン I ローション	41
ユースキン N	41
有孢子性乳酸菌(ラクボン原末)	32
ユナシン	58
ユニーサルファ目薬	37
ユニフィル LA 錠	46

ユニペイン L	28
ユベラ	71
ユリーフ	51
ユリノーム錠	57

よ

葉酸	36
幼児用 PL 配合顆粒	43
溶性ピロリン酸第二鉄	36

ら

ラキソベロン	50
酪酸菌	50, 70
ラクトール S	32
ラクトミン	31, 32, 33, 50, 70
ラタノプロスト	64
ラックビーR 散	50, 70
ラックビー微粒 N	50, 70
ラッパ整腸薬 BF	33
ラニチジン塩酸塩	48
ラニナミビルオクタン酸エステル水和物	60
ラノコナゾール	41
ラピアクタ	60
ラビネット P	39
ラフチジン	48
ラベプラゾールナトリウム	48
ラベルフィーユ 21 錠、28 錠	61
ラボナ錠	54, 70
ラマストン MX2	42
ラマストン MX2 液	42
ラマストン MX2 ゲル	42
ラマトロバン	48
ラミクタール	56
ラミシール	65
ラミシール AT 液	42
ラミシール AT クリーム	42
ラミシール錠	60
ラメルテオン	55
ラモセトロン塩酸塩	51
ラモトリギン	56
ラリキシ	58, 69
ランソプラゾール	48
ランツジールコーワ錠	44, 68
ランドセン	56

り

リアップ	41
リーゼ	54, 70
リオチロニンナトリウム	61
リキシセナチド	58
リキスミア	58
リザトリプタン安息香酸塩	44
リザベン	47
リザベン点眼液	64
リシノプリル水和物	53

リスパダール	55
リスベリドン	55
リスマー錠	54, 70
リゾチーム塩酸塩	30, 39
リドカイン	34, 36, 41, 42, 62, 67
リドメックスコーワ	66
リナグリプチン	58
リパーゼ A	49
リパーゼ AP12	31, 32
リバロ	52
リピディル錠	52
リピトール錠	52
リフレックス錠	55
リポール	57
リポクリン錠	52
リボスチン点眼液	64
リボトリール	56
リポバス錠	52
リボフラビン	30, 33, 71
硫酸鉄	56
リラグルチド	58
リリカカプセル	44
リルマザホン塩酸塩水和物	54, 70
リレンザ	60
リングルアイビー α 200	28
リン酸水素ナトリウム水和物	64
リン酸ニカリウム	68
リン酸ピリドキサル	33
リンデロン-DP	66
リンデロン-V	66
リンデロン-VG	66
リンラキサー錠	45

る

ルーラン錠	55
ルコナック爪外用液	65
ルセオグリフロジン水和物	58
ルセフィ錠	58
ルナベル配合錠 LD、ULD	62
ルネスタ錠	54
ルピアル坐剤	56
ルビプロストン	50
ルボックス錠	55
ルミフェン	28
ルリコナゾール	65
ルリコン	65
ルリッド錠	59, 69
ルルのディスプレイ	39

れ

レキソタン	54, 70
レクサプロ錠	55
レスキュラ点眼液	64
レスタミンコーワクリーム	65
レスタミンコーワ錠	47, 71
レスタミンコーワ糖衣錠	33

レスタミンコーワパウダークリーム	41
レスブレン錠	45
レダマイシンカプセル	59
レダマイシン軟膏	65
レックH坐剤	36
レックH軟膏	36
レニベース錠	53
レバミピド	49, 64
レベチラセタム	56
レベニン	50, 70
レボカバステン塩酸塩	64
レボセチリジン塩酸塩	48
レボチロキシナトリウム水和物	61
レボノルゲストレル	61
レボフロキサシン水和物	59, 63, 69
レミカットカプセル	47
レメロン錠	55
レリフェン錠	44
レルパックス錠	44
レンドルミン	54, 70

ろ

ローコール錠	52
ロートCキューブアミノモイスト	38
ロートアルガードクリアブロックZ	38
ロートアルガードクリアマイルドZ	38
ロートアルガードプレテクト	38
ロートエキス	31, 33, 49
ロートエキス3倍散	31, 32, 33
ロートエキス散	32
ロートエキス3倍散C	31
ロート抗菌目薬EX	37
ロートゴールド40	37
ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	31, 48
ロキシスロマイシン	59, 69

ロキソニン	44, 65, 68
ロキソニンS	28
ロキソニンSゲル	40
ロキソニンSテープ	40
ロキソニンSパップ	40
ロキソニンSプラス	28
ロキソプロフェンナトリウム水和物	28, 40, 44, 65, 68
ロコイド	65
ロサルタンカリウム	53
ロスバスタチンカルシウム	52
ロゼレム錠	55
ロナセン	55
ロバックU	41
ロヒプノール錠	54, 70
ロフラゼブ酸エチル	54, 70
ロペミン	50
ロペラマックサット	33
ロペラミド塩酸塩	50
ロミンン三宝Oz	31
ロラゼパム	54, 70
ロラタジン	48
ロラメット錠	54, 70
ロルカム錠	44, 68
ロルノキシカム	44, 68
ロルメタゼパム	54, 70
ロレルコ	52
ロンゲス錠	53

わ

ワイドシリン細粒	58, 69
ワイパックス錠	54, 70
わかもと整腸薬	33
ワクナガ胃腸薬U	32
ワコビタール坐剤	56

薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2017年版

2017年6月1日 発行

著者

日本薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会

石井 甲一、亀井 美和子、村松 章伊、明石 文吾

足永 貴義、岩倉 ひろみ、上田 泰之、小沼 祐之、笠師 久美子、

杉本 幸枝、七嶋 和孝、原 博、本田 昭二、山下 真経、山本 将之、大石 順子(WG 委員)

愛媛県薬剤師会

日本体育協会 スポーツ医・科学専門委員会 アンチ・ドーピング部会

川原 貴、赤間 高雄、東 宏一郎、石塚 創也、伊藤 静夫、植木 眞琴、大石 順子、

小杉 義幸、向井 直樹、渡辺 一夫、青野 博、鈴木 なつ未、山田 早智子

協力

^{えがお}愛顔 つなぐえひめ国体・えひめ大会実行委員会

愛媛県体育協会

静岡県薬剤師会 埼玉県薬剤師会 岡山県薬剤師会 兵庫県薬剤師会

秋田県薬剤師会 大分県薬剤師会 新潟県薬剤師会 千葉県薬剤師会

山口県薬剤師会 岐阜県薬剤師会 東京都薬剤師会 長崎県薬剤師会

和歌山県薬剤師会 岩手県薬剤師会

編集・発行 日本薬剤師会

〒160-8389 東京都新宿区四谷三丁目 3-1 四谷安田ビル 7階

電話 03(3353)1170 FAX 03(3353)6270

E-mail gaku@nichiyaku.or.jp

印刷 興和印刷株式会社
